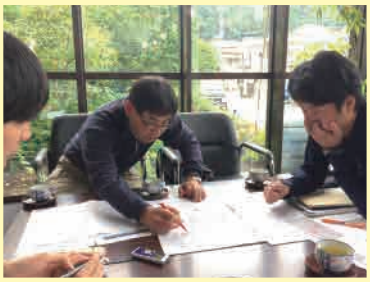
高尾山口駅及び参道周辺整備計画　別冊資料

高尾山 観光まちづくりオーラルヒストリー

未来に紡ぎたい、暮らしとなりわいの個人史

令和元年（2019年）6月

八王子市 / 首都大学東京　川原晋研究室



観光まちづくり史調査の趣旨

冊子作成の意図

「高尾山 観光まちづくりオーラルヒストリー」は、高尾山の環境や観光を支えてきた地元の皆さんの日常生活や商売の個人史、まちや「お山」への想いを紡いだ冊子です。

高尾山は、2007年にミシュランガイドで最高ランク三つ星の観光地として選出されてから、国内外のメディアや外国人からも注目を集め、きわめて多くの人が訪れる観光地となりました。

こうした状況に適切に対応して地域の環境保全と観光振興の共存をめざして、八王子市も2016年に「高尾山口駅周辺地区都市計画方針」を定め、公民学連携で観光まちづくりを進めている真っ最中です。首都大学東京 観光科学域の教員や学生も、大学の地元の観光地の観光まちづくりの一助になれればと思い、2014年度より参加してきました。

そのなかで、現在の高尾山のように、大きく環境が変わる可能性がある時期にこそ、また多様な外部の人が関わる時期こそ、これまでの地元の皆さんの取り組みや想いをまちづくりの関係者で共有することが大事だと考えました。 行政担当者も数年で変わらざるを得ない中で、地元の想いを引き継いでいけるものが、地域にとっても行政にとっても役立つのではないかと考えました。

オーラル・ヒストリー調査

こうした意図をこめた冊子作成に向けて、後述するオーラルヒストリー調査方式による観光まちづくり史調査を行いました。

それぞれのお立場で地域を支えてきた皆様延べ32人に、お一人から数人のグループで、大学教員、学生、市職員が数人で組んでお話を伺いました。伺った内容は、幼少の頃から今に至るまでの高尾山の山や川で遊びや、まちとの関わりといった個人史と、個人の目から見た薬王院や氷川神社、お店やまちの発展や転機などについてです。個人史の積み重なりがこの地域のまちづくりの歴史であることや、未来に向かってのたくさんのヒントがあることが実感できました。

早稲田大学の後藤春彦教授は、このことを著書名「まちづくりオーラル・ヒストリー ～『役に立つ過去』を活かし、『懐かしい未来』を描く（水曜社、2005年）」と表現しています。

首都大学東京 都市環境学部 観光科学科
教授 川原晋

冊子の内容

みなさんからいただいたお話は、次の５つの記録としてまとめました。

【オーラルヒストリー・インタビュー記録】皆様の思いやお話、できるなら人柄も伝えられるといいなと思いながらまとめたインタビュー内容の要約です。

【高尾山フェノロジーカレンダー（歳時記）】観光の季節変動も意識しながら、皆様から伺った地域の魅力資源を歳時記として表現しました。様々な資源を重ねるこの表現方法は、エコツーリズムではフェノロジーカレンダーとして知られています。

【高尾山まちづくり年表】高尾の公的年表に、皆様の個人史のなかで地域として共有できたらと良いと思うものを加えました。

【観光まちづくり史マップ緑豊かな高尾 / 賑わう高尾】皆様のお話のなかで、ふもとエリアの特定の場所に紐付いている内容を地図に書き込みました。かつての豊かな川遊びの様子、お祭りの様子などが浮かび上がります。

【写真で振り返る高尾山観光まちづくり史】（実際には動画）数分で高尾山の観光まちづくり史の概要や想いを説明するものとして作りました。

活用方法は未知数ですが、例えば、まちで新たな動きが生まれるときや人が関わるときに、まずこの冊子を読んでいただくとか、高尾山地域という「まち」に着目したツアーガイドのコンテンツとして活用する事もできるのではと想像しています。ご提案いただければ、今後もいろいろ工夫したいと思っています。

最後になりましたが、数時間に渡るインタビューに快く応じていただいた地元の皆様には、あらためて感謝申し上げます。また、本調査の実施と取りまとめにあっては、八王子市役所都市計画課の皆さま、高尾山口駅周辺地区まちづくり連絡会準備会の皆さまに多くのご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

地域の重要な資源である高尾山の自然と文化を守りつつ、次の世代にその価値をつないでいける取り組みの一助になれば幸いです。

2019 年 6 月吉日

目次

0. 観光まちづくり史調査の趣旨 ・・・p.1

1. 調査フロー ・・・p.4

2. オーラルヒストリーの意義 ・・・p.5

3. 調査成果

3-1. 観光まちづくり史マップ - 緑豊かな高尾 - ・・・p.9

3-2. 観光まちづくり史マップ - 賑わう高尾 - ・・・p.11

3-3. 高尾山フェノロジーカレンダー ・・・p.13

3-4. 高尾山まちづくり年表 ・・・p.15

3-5. オーラルヒストリー・インタビュー記録

3-5-A. 佐戸博さん ・・・p.17
3-5-B. 峰尾孚さん、小阪弘さん ・・・p.23
3-5-C. 大野彰さん、船江栄次さん ・・・p.29
3-5-D. 青木勝一さん、金子政弘さん、森嶋博之さん、佐藤正司さん ・・・p.35
3-5-E. 久保田忠明さん ・・・p.41
3-5-F. 秋間薫さん、秋間ハマさん ・・・p.47
3-5-G. 高尾料飲組合若手役員の皆さん ・・・p.53
3-5-H. 佐戸勝一さん ・・・p.59
3-5-I. 大竹将人さん ・・・p.65
3-5-J. 小宮猛さん ・・・p.71
3-5-K. 峰尾進さん、峰尾雅子さん ・・・p.77
3-5-L. 佐藤伸二さん ・・・p.83
3-5-M. 峰尾誠さん ・・・p.89
3-5-N. 髙橋清士さん、髙橋真紀子さん ・・・p.95
3-5-O. 高城正守さん、高城健守さん ・・・p.101

3-6. 写真で振り返る高尾山観光まちづくり史調査 ・・・p.107

4. 参考文献 ・・・p.109

5. 編集後記 ・・・p.110

調査フロー

調査

①インタビュー調査の実施・記録

対話記録の音声データ　古写真等の史料データ

②テキスト起こし

③語り手による確認及び修正

オーラルヒストリー原本

④データベースとして蓄積

オーラルヒストリーデータベース

編集成果物

編集方針	成果物
空間的に整理	観光まちづくり史マップ
1 年間のサイクルで整理	高尾山フェノロジーカレンダー
これまでの歴史を整理	観光まちづくり年表
各個人の語りを整理	インタビュー記録
全体のまとめ	写真で振り返る 観光まちづくり史調査

オーラルヒストリーの意義

1. オーラルヒストリーとは

オーラルヒストリー（Oral history）とは、文字通り「語られる（口述による）歴史」のことを指します。歴史学分野の一般的な方法である、史料や文献から歴史を推察するやり方ではなく、地域住民や関係者からの聞き取り（オーラルヒストリー調査）によって得られた証言をデータソースとし、それらを整理、統合することによって歴史を紡ぎ出す方法です。

例えば、民俗学分野の祖である柳田國男は、地域に住まう人々の「話し言葉」から、生活文化の解明を試みたとされています。こうした社会的な権力を持たない「市井の人間（地域の住民）」へのアプローチは社会学分野でもみられ、オーラルヒストリー調査によって、人々の社会への心象や社会との関わり方を把握し、そこから社会構造の解明を図る手法が散見されます。

政策科学分野では、政策研究、政治史研究に際し、過去の政策決定の詳細なプロセス、或いは関連組織や制度等を明らかにする為に、政治家や官僚へのオーラルヒストリー調査が用いられています[注1)]。先程の、市井の人間との対比関係でいえば、政策科学分野におけるオーラルヒストリー調査の主たる対象は政治家や官僚、つまり為政者ですが、「公人の、専門家による、万人のための口述記録」[注2)]と表現されているように、本質的には、歴史の真実を明らかにし、人々（≒市井の人間）に共有する為の手法として位置付けられていることが分かります。

誤解を恐れずに言えば、往々にして歴史というものは、権力者や学者等によって編纂、更新されてきました。またそれらの軌跡が史料や文献として残され、現在に至っています。しかしそうした物的証拠によって明かされる事柄のみが歴史なのでしょうか。或いは学び取るべきものや、次世代へ引き継ぐべきものは、公的な史料や文献以外のところにも潜んでいるのではないでしょうか。冒頭でも少し触れましたが、オーラルヒストリーの概念が生まれた背景には、こうした文献実証主義への批判があります。その上で市井の人間を主役に据え、地域民俗の解明やデモクラシーの発展を図る為のものとして、今日に至っています。

2. 地域の今日的課題とオーラルヒストリー

我が国には多くの地域があり、そしてその数だけ、或いはそれ以上の、多様で美しい風景、慣習、技術や

首都大学東京 都市環境学部 観光科学科
助教 野田満

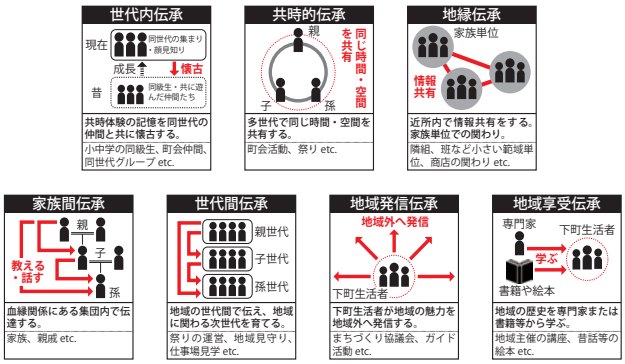


図１　地域の記憶の伝承パターン（東京下町の例）[注 4)]

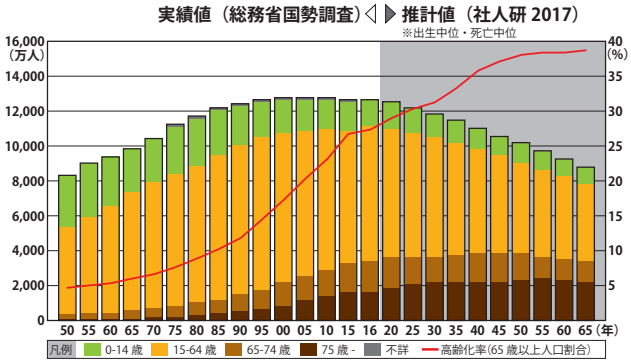


図２　わが国の人口推移[注 5)]

コミュニティが存在しています。

前述の柳田國男が、農山村の美しい風景から、そこに住まう住民の美しい思いを見出した[注 3)]ように、こうした美しいモノやコトは、そこに住まう人々の人生の積み重なりに他なりません。もし地域を生命体に見立てた場合、こうした子々孫々へと受け継がれてきた営みの積層は、さしずめ「遺伝子」であるといえるでしょう。

こうした地域の遺伝子は、かつては地域コミュニティの日常の中で半ば自動的に、必然的に語り継がれていたものです（図 1）。しかし少子高齢化やそれに伴うコミュニティの弱体化が各地で進む中で、地域の遺伝子を次世代に引き継ぐ行為が徐々に困難になりつつあります（図 2）。このように地域の「発し手」と「受け手」との量的・質的バランスが崩れ始めている現在、受け手側がより積極的に、受け継ぐべき情報を発し手の記憶の中から引き出すことが必要になります[注 6)]。

そうした状況の中で計画学分野、つまりまちづくりのプロセスデザインや実践の中で、オーラルヒストリーやそれに類する方法を取り

オーラルヒストリーの意義

入れた事例もみられるようになってきました。

3. 観光まちづくりにおけるオーラルヒストリーの意義

観光まちづくりにおけるオーラルヒストリーの活用は、地域の遺伝子を読み解くこと以外にも、多くの意義があります。

経済成長や人口増加の終焉を越え、縮減社会を迎えた私たちが、まちづくりにおいて考えなければならないことの１つが、「現在のリソースに応じた無理の無い取り組み」を企図し、進めていくことです。これは言い換えれば、地域をドラスティックに変えるのではなく、元々ある資源や魅力の再発見や再評価を出発点にする「地元学」的方法論[注7)]でもあります。

インタビュー調査によって、対象者自身の人生の履歴に迫るという点では、他分野のオーラルヒストリーとの大きな違いはありません。一方で地域づくりにおけるオーラルヒストリーは、好きな（或いは好きだった）場所や風景、盛り上がっていた頃の地域の様子、今と昔の地域の違い等、「地域（の空間）との関わりを通した個人史」を追う点が特徴です。これによって地域の資源や魅力を「棚卸し」して（図3）、これからの地域の取り組みやプロセスデザインの為の足掛かりとして活用していきます。

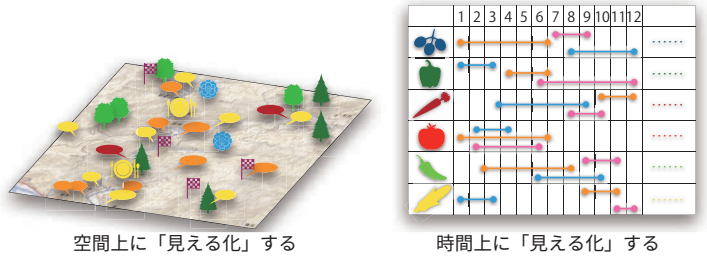


図３　地域資源の棚卸し：空間・時間別整理のイメージ

今回の取り組みでは、地元での出来事や風景の様子等を時系列に整理した「高尾山まちづくり年表」、気候や行事、住民の方による活動等を暦に乗せた「高尾山フェノロジーカレンダー」、豊かな自然環境や遊び場、お祭り、観光スポットといった地域の魅力を地図上にプロットした「観光まちづくり史マップ」を作成し（図4）、地域の資源の保存と共有を試みました。

4. おわりに

地域の歴史、つまり過去を振り返ることは、「過去の

補注

注１）参考文献１（pp.4-43）参照。
注２）参考文献１（pp.5）参照。
注３）参考文献２において柳田は「村は住む人のほんの僅かな気持から、美しくもまづくもなるものだといふことを、考へるやうな機会が私には多かった。」（pp.246）と綴っている。
注４）参考文献３（pp.1119）に基づき作成。
注５）参考文献４に基づき作成。
注６）参考文献５（pp.36-38）参照。
注７）地元学の概念や意義については参考文献６に詳しい。
注８）観光まちづくり史マップは本誌 pp.9-12、高尾山フェノロジーカレンダーは pp.13-14、高尾山まちづくり年表は pp.15-16 に記載。

参考文献

文１）御厨貴：オーラル・ヒストリー、中公新書、2002.04
文２）柳田国男：柳田國男全集第 12 巻、筑摩書房、1998.02
文３）上井萌衣・後藤春彦・吉江俊：東京下町で共有される地域の記憶とその伝承がなされる集団に関する研究、都市計画論文集 第 51 巻 第 3 号、2016.10
文４）内閣府：平成 29 年度高齢社会白書、2017.06
文５）後藤春彦・佐久間康富・田口太郎：まちづくりオーラル・ヒストリー、水曜社、2005.03
文６）結城登美雄：地元学からの出発、農文協、2009.11

人間による、過去の意思決定」を省みることでもあります。その上で歴史を重んじ、地域づくりに活かしていくという理念は、「過去と現在との合意形成」を試みる行為でもあります。一方で 3. で述べた「現在のリソースに応じた無理の無い取り組み」は、言い換えれば「現在と未来との合意形成」を図っていく行為であると言えます。

温故知新という言葉があるように、高尾山地区でのオーラルヒストリーの取り組みによって、人々の語りから歴史を紡ぎ、地域づくりの中で未来へと活かしていきたいと思います。そしてそれが、時間を越えた合意形成による、持続可能な計画の一助になれば幸いです。

図４　地域資源の棚卸し：高尾山まちづくり年表・高尾山フェノロジーカレンダー・観光まちづくり史マップ[注 8)]

観光まちづくり史マップ
高尾山フェノロジーカレンダー
高尾山まちづくり年表

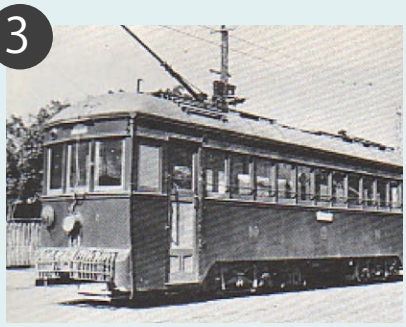
高尾山ふもとエリアの昔の思い出や歴史を皆様に手に取って
楽しんでもらえるよう、ビジュアルで表現しました。

観光まちづくり史マップ
- 緑豊かな高尾-

1

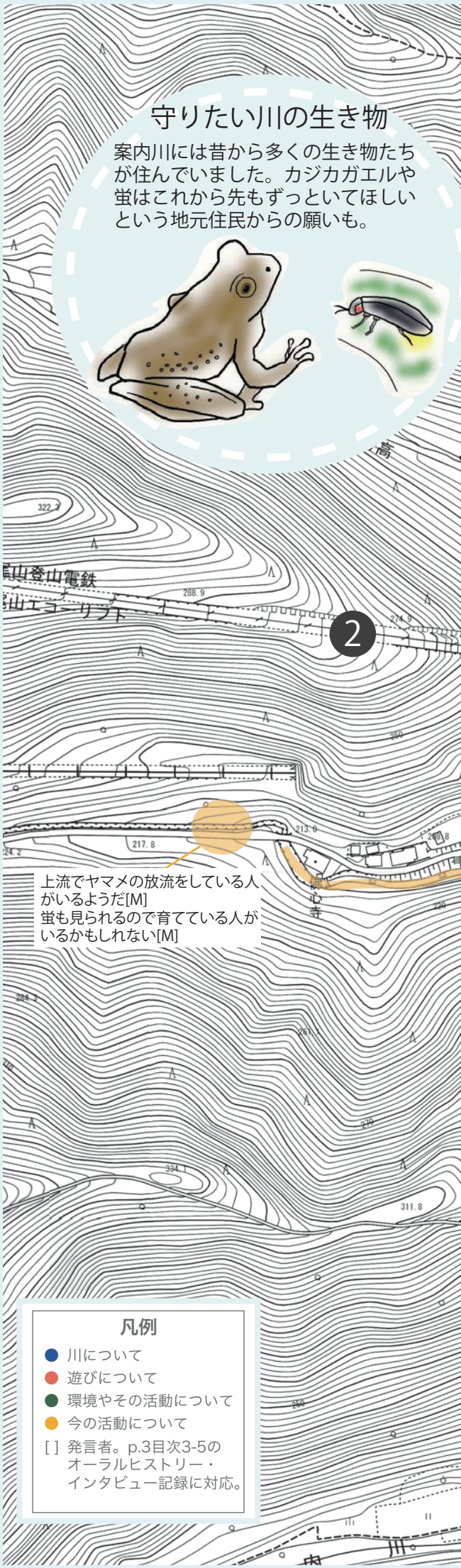
2

3



4

5



皆様のお話のなかで、ふもとエリアの特定の場所に紐づいている内容を書き込みました。
この「緑豊かな高尾」編ではかつての豊かな川遊びの様子や環境に関するものに着目しました。

昔は田んぼだった[A][J]
4
カタクリを1500植えたが今は60株[D]
商店会で桜は５、６本植えた[D]
御衣香桜（緑の花）10年前植えた、残り５本[D]
5月から6月を桜でつなぐように植えた[D]
ケヤキはもともとあった[D]
京王が開通した時に記念植樹、看板もあった[D]
25,6年前に掃除する代わりに植樹した[D]
見通しをよくしてほしい[D]
商店会が植えた桜（20年ぐらい前）[J]
釣堀があり、ニジマスが
当時100円で売れた[D][M]
釣堀があった[f]
畑だった[F]
深くなる、堰[F]
クレソンを川沿いに植える活
動があった[A]
5
もっと綺麗にしたい
（清滝のあたり）[M]
せき止めてプールにして
いた[J]
桜があった[A][D]
もみじが綺麗[J][M]
（50年前にはあった）
バス停[A]
3
市電の駅[D]
子供が遊んでいた[J]
ヤマメがいる、
水が綺麗[M]
蛍がいた[A]
“上流”=山を意識させる
空間づくり[C]
あまり遊ばない[A]
ホタルがいた[E]
特に綺麗なもみじ
野山で遊んだ[A]
40年前くらいまでは「
ダンパ」と呼ぶ子供の
遊び場、火渡り祭[F]
屋形船が来ていた
明治ごろまで？[F]
登山電鉄で清掃活動
児童遊園と一体で子供の遊び場だった[M]
奥に民家ができる前は火渡り祭の会場だった[M]
昔は田んぼが多かった[A]
案内川のこの辺り
を整備してほしい[M]
どんど焼き[A]
水車小屋があった[D][F][J]
道路から40cmくらいまで水量が
あった[D]
養魚場[F]
1
プールを作って子供が遊んでいた[D][M]
集まって遊んだ[A]
女の子も遊んでいた[O]
藁の堰を作っていたが、毎年
台風が来ると壊れていた[D]
せき止めてプールにしていた
台風で流された[J]
滝があった[A]
深くなっていた[E]
よく遊んだ[A]
こちらの方にも釣り堀
が増えていった[D]
高尾町
高尾新橋
都道189
甲州街道
20号
10

観光まちづくり史マップ
-賑わう高尾-

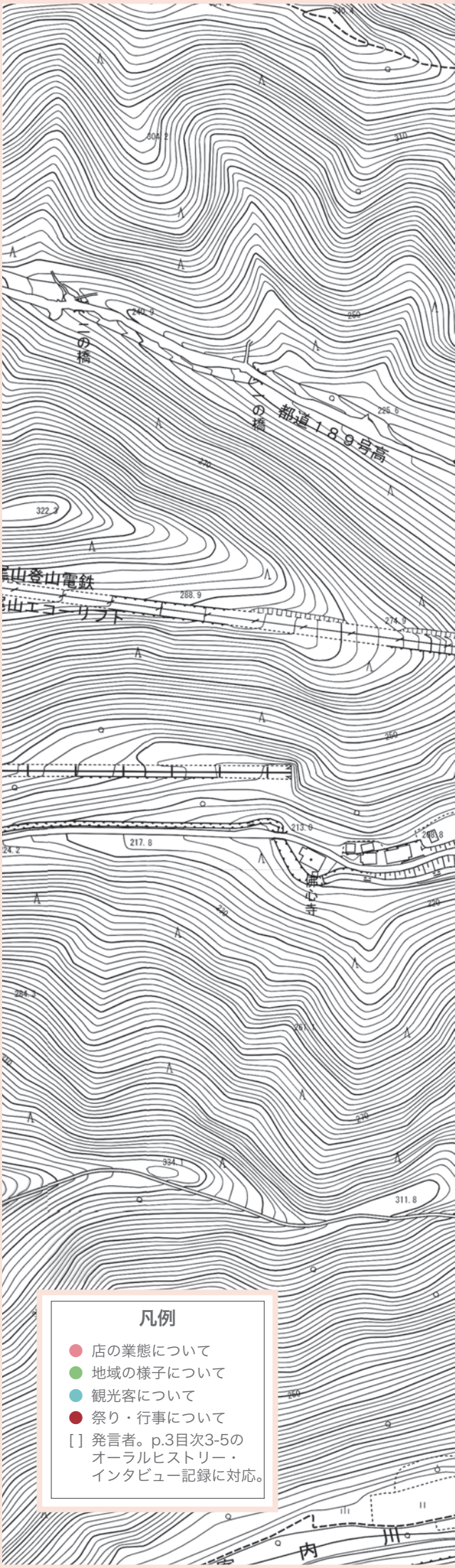
1

2

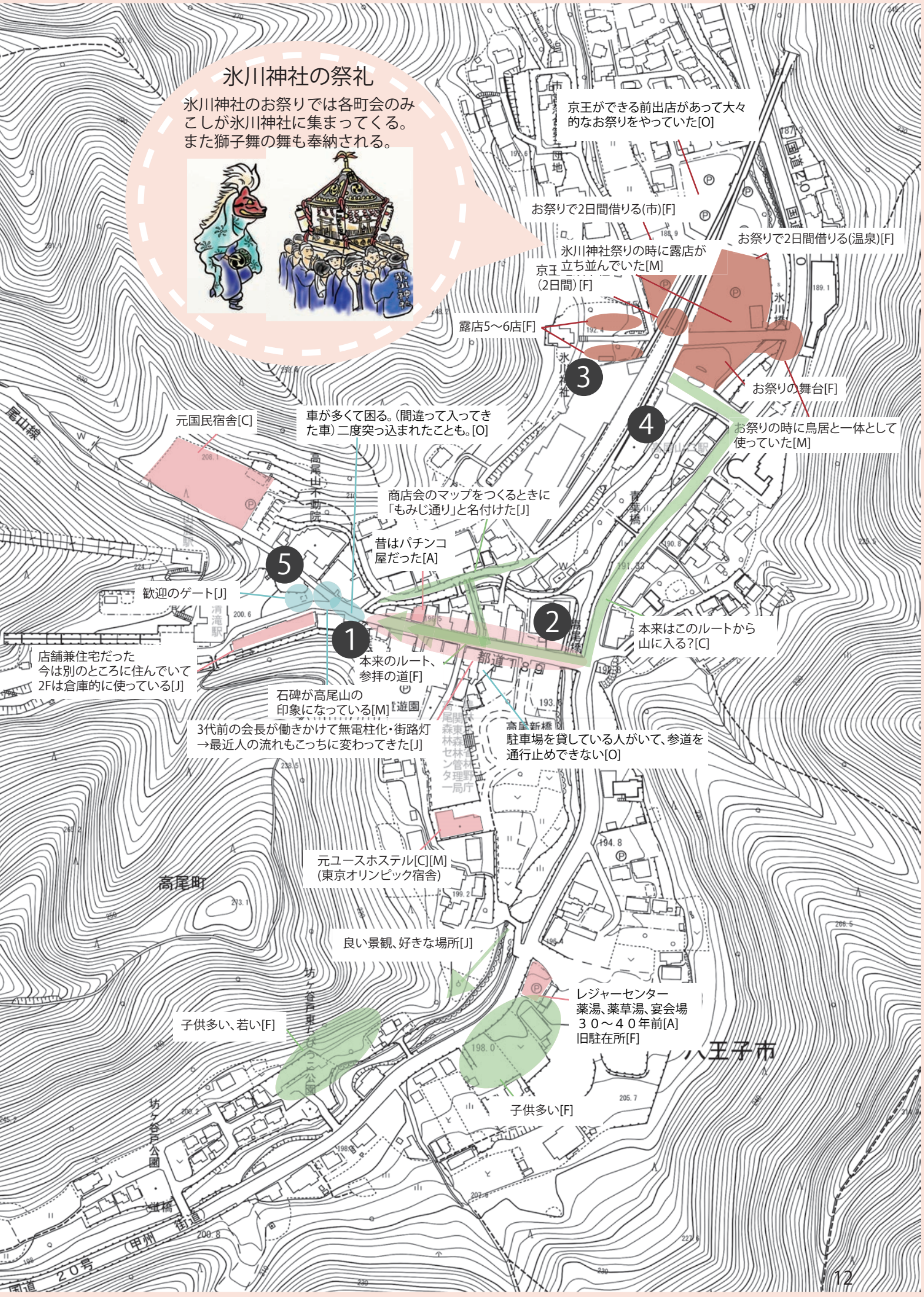
3

4

5



皆様のお話のなかで、ふもとエリアの特定の場所に紐づいている内容を書き込みました。
この「賑わう高尾」編では、お祭りの様子や観光などに関するものに着目しました。

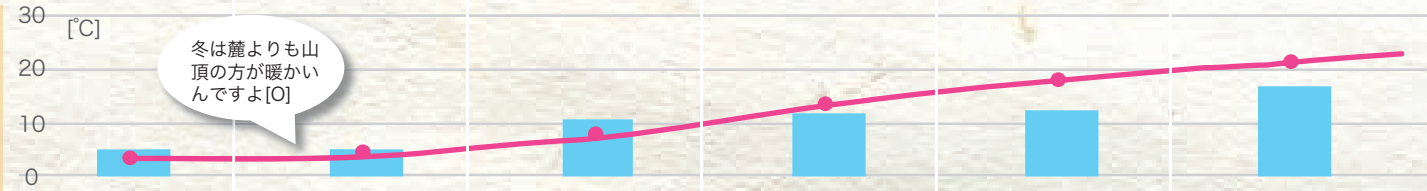

氷川神社の祭礼
氷川神社のお祭りでは各町会のみこしが氷川神社に集まってくる。また獅子舞の舞も奉納される。
京王ができる前出店があって大々的なお祭りをやっていた[O]
お祭りで2日間借りる(市)[F]
お祭りで2日間借りる(温泉)[F]
氷川神社祭りの時に露店が立ち並んでいた[M]
京王 (2日間) [F]
露店5〜6店[F]
お祭りの舞台[F]
お祭りの時に鳥居と一体として使っていた[M]
元国民宿舎[C]
車が多くて困る。(間違って入ってきた車) 二度突っ込まれたことも。[O]
商店会のマップをつくるときに「もみじ通り」と名付けた[J]
昔はパチンコ屋だった[A]
歓迎のゲート[J]
本来はこのルートから山に入る?[C]
店舗兼住宅だった 今は別のところに住んでいて 2Fは倉庫的に使っている[J]
本来のルート、参拝の道[F]
石碑が高尾山の印象になっている[M]
3代前の会長が働きかけて無電柱化・街路灯 →最近人の流れもこっちに変わってきた[J]
駐車場を貸している人がいて、参道を通行止めできない[O]
元ユースホステル[C][M] (東京オリンピック宿舎)
良い景観、好きな場所[J]
レジャーセンター 薬湯、薬草湯、宴会場 ３０〜４０年前[A] 旧駐在所[F]
子供多い、若い[F]
子供多い[F]
1
2
3
4
5
高尾町
八王子市
尾山線
高尾山不動院
清滝駅
高尾山口駅
氷川神社
氷川橋
青葉橋
高尾橋
高尾新橋
都道
坊ヶ谷戸東
坊ヶ谷戸公園
甲州街道
20号

高尾山フェノロジーカレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月

気候

八王子市の平均気温 降水量



植物

見頃の植物

- 1月: ●シモバシラ
- 2月: ●ウメ
- 3月: ●カタクリ ●アオイスミレ ●アズマイチゲ ●ハナネコノメ
- 4月: ●ヤマザクラ ●ヨゴレネコノメ ●ニリンソウ ●タカオスミレ
- 5月: ●セッコク ●ヤマブキソウ ●シャガ ●ネコノメソウ
- 6月: ●ホタルブクロ ●キバナノショウキラン ●コアジサイ

高尾山の四季を楽しむためにも最低4回は来て欲しいですね[L]

行催事

高尾の代表的な行事（H30 年度）

- ●高尾山の冬そばキャンペーン(2月~3月)
- ●火渡り祭(第２日曜)
- ●高尾・陣馬スタンプハイク(4月~5月)
- ●高尾山若葉まつり(4月~5月)

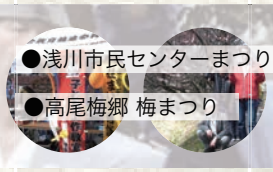
薬王院の行事（H30 年度）

- 1月: ●迎光祭(1日) ●元旦特別開帳大護摩供(正月中)
- 2月: ●初甲子(1日) ●節分会(3日) ●高尾山初午（福徳稲荷祭）(7日) ●釈尊涅槃会(15日)
- 3月: ●高尾山火祭り祭(11日)
- 4月: ●滝びらき(1日) ●花まつり(8日) ●春季大祭(15日)
- 5月: ●高尾山天狗まつり(18日)
- 6月: ●信徒峰中修行会(2-3日) ●納札供養柴燈大護摩供(19日)

浅川地区の行事

浅川地区の継承行事・活動

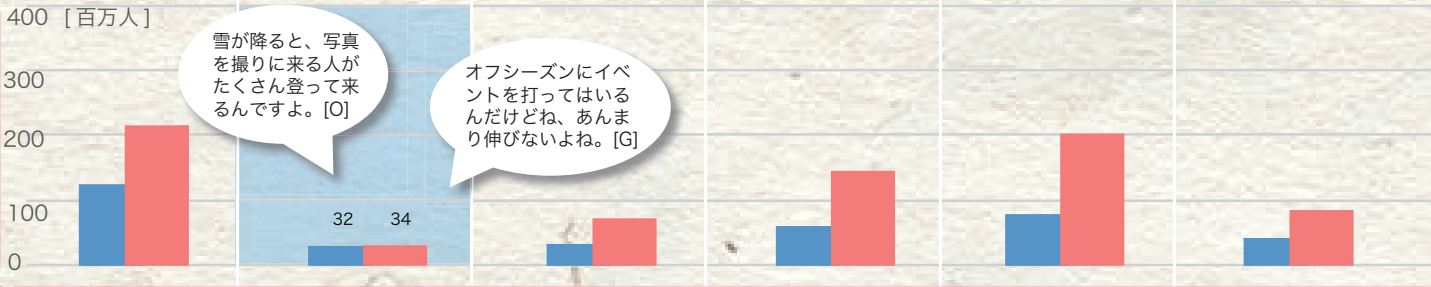
●どんど焼き


●浅川市民センターまつり
●高尾梅郷 梅まつり

●十二社燈明祭

乗降者数

ミシュラン前後のケーブルカーの乗降者数の比較

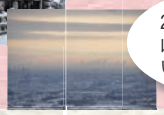


雪が降ると、写真を撮りに来る人がたくさん登って来るんですよ。[O]

オフシーズンにイベントを打ってはいるんだけどね、あんまり伸びないよね。[G]

高尾の魅力

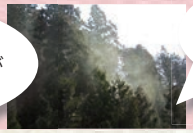
もっと伝えたい高尾の魅力



雪をかぶる高尾山

2月なんかね、高尾山本当は一番景色がいいんですよ。[L]

高尾の花粉



花粉の黄色いものが飛んでいるのが見えるんですよ。[L]

ホタルを資源に

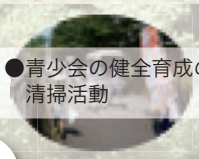
昔はたくさんホタルがいたんですよね。川を綺麗にすればまた蛍がね。[N]

清掃活動

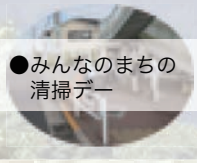
地域の清掃活動

ゴミをまちに溜めないためには、ゴミが落ちてたらすぐ拾うことですよね。[G]

袋を持ってゴミを拾ってくれるお客さんもいますね。きっと高尾山を愛しているんでしょうね。[G]


●青少会の健全育成の清掃活動

中学生と一緒に朝から掃除しますね。[A]


●みんなのまちの清掃デー

川の生物

今も生息している川の生き物

調査中お話に出てきた川の生き物

- ●ドジョウ【A-8】
- ●コイ【A-9】
- ●ホタル【F】
- ●ウグイ【F】
- ●マス【C-2】

地域の歴史

失われた遊び 地域の様子

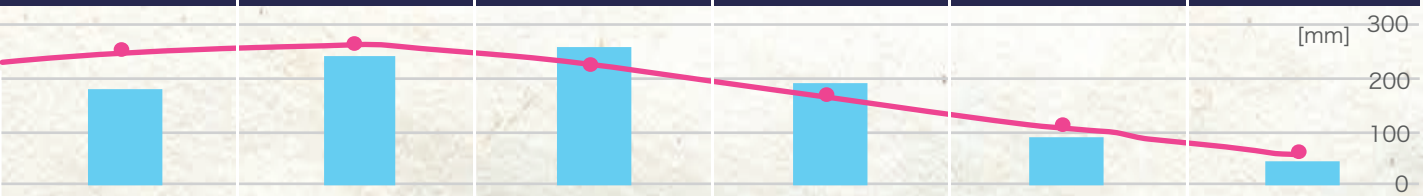
雪が降ると竹からソリを作って遊んでいましたよ[A]

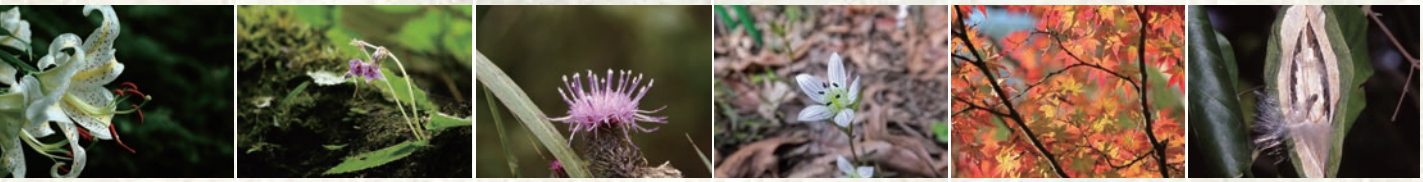
道路の両側の桜並木が綺麗でしたね[A][B]

蛍が綺麗でしたね。今もいますが、昔はもっとたくさんいたんですよ。[A][D]

観光の季節変動も意識しながら、皆様から伺った地域の魅力資源を歳時記として表現しました。
様々な資源を重ねるこの方法は、エコツーリズムではフェノロジーカレンダーとして知られています。

7月	8月	9月	10月	11月	12月





7月	8月	9月	10月	11月	12月
●ヤマユリ ●ヤブラン ●タカトラノオ	●イワタバコ ●ヤマホトトギス ●イヌショウマ	●ノハラアザミ ●ヒガンバナ ●タカオヒゴタイ	●センブリ ●ツリフネソウ ●アキノキリンソウ	●イロハモミジの紅葉 ●リュウノウギク ●イチョウ	●キジョラン

もみじ祭りがなくても
この時期はお客さんは
来るんですよね。[L]

●高尾山ビアマウント(6月~10月)

●高尾山もみじまつり
(1日~30日)

●高尾・陣馬スタンプハイク(10月～12月)

夏はビアマウントを
目当てに来るお客さ
んが多いですね。[G]

●お施餓鬼大法要
(12日)
●高尾山写経会
(22日)

ここ2、3年で子
供達がすごく少な
くなりましたね[L]

●聖天堂開扉法要
(8-9日)

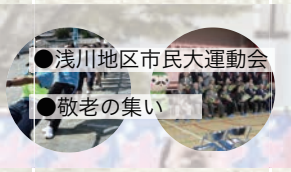
●中興俊源大徳忌(4日)
●信徒峰中修行会
(13-14日)
●高尾山秋季大祭(17日)
●滝じまい(31日)

●釈尊成道会(8日)
●納札供養柴燈大護
摩供(19日)
●星まつり祈祷会
(21-22日)

●愛宕地蔵尊火祭り

●氷川神社まつり

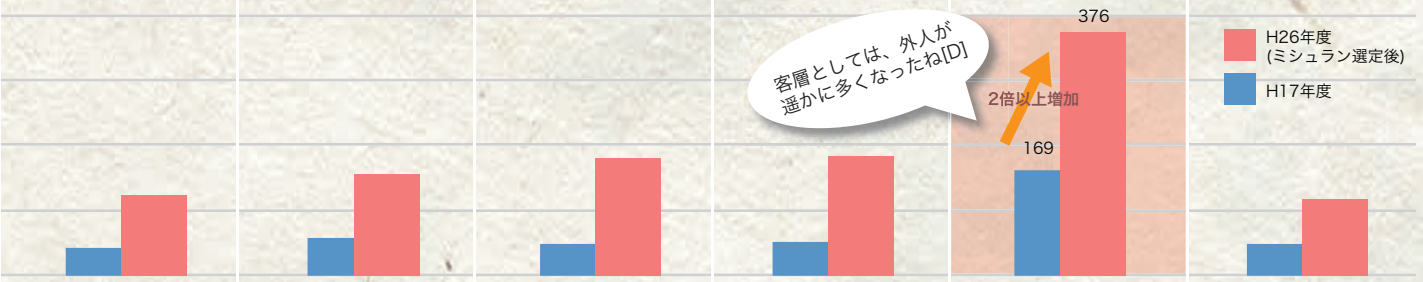
●浅川地区市民大運動会



●敬老の集い

●八王子いちょう祭り浅川地区

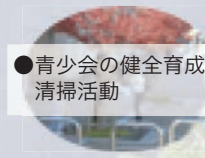
客層としては、外人が
遥かに多くなったね[D]



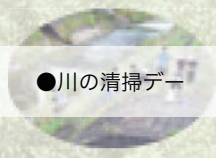
ゆとり度アップ

ゆっくり自分のペース
で、歩けて、ゆっくり
自然も見れますよ。[L]

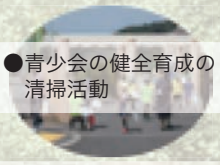
●青少会の健全育成の
清掃活動



●川の清掃デー



●青少会の健全育成の
清掃活動



●カエル【F】

カジカガエル
を見た

●サギ【F】

アオサギも見た
ことがある

●カモ【F】

●ヤマメ【C-1】【F】

●カジカ【A-7】

●ウナギ【F】

堰を作ってプールに
して遊んでましたね。

魚を採ったり泳いだり
していましたね。

案内川に入って川遊び！

凡例

[ ] 発言者。p.3目次の3-5
オーラルヒストリー・
インタビュー記録と対応。

関連するお話

一年間通した
お話

59 浅川町が八王子市に編入
61 市立高尾自然科学博物館が開館
64 オリンピック聖火甲州街道を走る
高尾ユースホステル開館
65 高尾山ビアマウント開業
66 市立高尾自然科学博物館が都立へ
67 京王高尾線、北野〜高尾山口が開通
70 明治の森高尾国定公園指定
71 都立ビジターセンターが開館
73 二人乗り観光リフトの開業
82 ゴミ持ち帰り運動開始
98 中央自動車道全線開通
01 国民宿舎「高尾山荘」の閉館
04 JR高尾駅100周年祭
07 都立自然博物館閉館
08 高尾山、ミシュラン三ツ星観光地に選ばれる
10 八月末豪雨により大被害
12 国道20号八王子南バイパス・浅川トンネル開通
15 圏央道、高尾山IC〜八王子JCT開通
18 TAKAO599MUSEUM開業
高尾山口駅、新駅舎完成

2000年代

平成

34 浅川駅が高尾駅に改名
36 市立高尾自然科学博物館が開館
39 高尾山観光リフト開通
40 高尾山ビアマウント開業
41 京王高尾線、北野〜高尾山口が開通
42 明治の森高尾国定公園指定
45 都立ビジターセンターが開館
46 二人乗り観光リフトの開業
48 ゴミ持ち帰り運動開始
57 中央自動車道全線開通
62 国鉄民営化
2 武蔵野陵が造営
5 Jリーグ開幕
姫路城、屋久島など4件が日本初の世界遺産に登録
7 阪神・淡路大震災
10 長野冬季オリンピック開催
14 日韓ワールドカップ開催
15 SARS（重症急性呼吸器症候群）流行
17 イラク戦争勃発
愛知万博開催
19 観光立国推進基本法施行
20 リーマンショック
23 東日本大震災
25 訪日外国人初の一千万人越え
富士山が世界遺産に登録

68年頃

- 川で遊んだ
  学校から帰る時、夏は、川沿いの道なのでだいたい、道の端にランドセルとか置いてそのままジャボーンって [B]
  夏になると川遊び、釣りをしたり、やっていましたね [A]

川で遊ぶ様子

- カジカの卵を食べていた
  カジカの卵がうまい。カジカの卵をフライパンでいって食べるとうまいんですよ [A]
- 地域独特の呼び名、パース遊び
  メンコもあったよ。メンコのことをね、この辺ではパースパースって [A]
- 川に釣り堀があった
  川に釣り堀があった。ますの値段が一匹100円。その時の百円ったらすごい高いんだよ [C]。

78年頃

- 「蛍を増やそう」という取り組み
  蛍を一生懸命育てようって言って、稲毛屋さんの活動があった [A]
- 子供たちの遊び場「タンパ」
  栄茶屋の裏側。今薬王院の駐車場になってるとこを、タンパって言ってたんだ。遊んだね。[E]

88年頃

- 蛍が少しずつ増えてくる [E]

2000年代 00年頃

- 小学校の授業「高尾山研究」[A]

08年頃

- 今の小学生たちの「浅川探検」
  ここ10年くらいは浅川小学校の子供達が浅川探検っていうのをやってます [A]

59年

- 旅館が多かった
  佐藤旅館っていうのがあってね、上に7、8軒はあったんじゃないかな？子供がいっぱい。[E]
- 神楽殿のお芝居
  神楽殿があって、夜は芝居してくれたりしたんですよ。その芝居がね、二宮って場所のところの人たちが踊ってくれて、34年の伊勢湾台風で壊れちゃったんでね、そのまま作らなかったんですよ [C]

65年

- 浅川地下壕調査団入る
  中には機械が散乱していたって話だね [C]

68年

- 小学校で習う「浅川音頭」
  浅川音頭という歌があって、小学校の頃は踊りがあってさ、踊ったんだよ [A]

74年

- 浅川地下壕見学開始
  碁盤の目のように、なっている。ただ崩れて、狭くなっちゃっているところあるから危ないんですよ [C]

96年

- 高尾トリックアート美術館開業
  元々はガソリンスタンドで。トリックアートに出会って。これをやってみようと思って始めたんですけどね。ガソリンスタンドでも一緒にやったんですよ [E]

2000年代 00年代

- 夜景の輝きが広がる
  夜景の光の輝きがもう今はすごく広がった。昔は暗いんだよ、街が。上から見てもね [E]
- 外人観光客の増加
  外人が多くなったていうのはそれ以降外人が遥かに多くなった、客層としてはね [D]

02年

- 氷川神社、スタンプラリー開始
  神社は実際はお祭りやっているけど人が来なくなっちゃう。もっと寂れて困ると思ったから [C]

08年

- 山ガールブーム
  一時山ガールなんていうのが随分来たときもあるし。女性が多いとか [D]

09年頃

- 観光客層の多様化
  ファミリー層は増えましたね。年齢層がだいぶ広がったんだと思いますね。非常に山にくる目的も多様化してるし、年齢層も非常に幅が広くなって来ている [D]

34 伊勢湾台風
39 東京オリンピック開催
40 いざなぎ景気（昭和45年まで）
44 大学闘争拡大
45 大阪万国博覧会の開催
53 新東京国際空港が開港
57 東北・上越新幹線が開通
58 東京ディズニーランド開園
60 つくば万博開催
61 バブル経済時期（平成3年まで）

高尾山まちづくり年表

高尾の公的年表に、皆様の個人史のなかで地域として共有できたら良いなと思うものを加えました。

高尾の歴史

西暦	和暦	
1700年代 98	寛政10	高尾山有喜寺建立
	天平16	薬王院本堂建立
1800年代 72	明治5	東京〜八王子間で馬車運転開始
86	19	八王子織物組合の設立
99	32	小仏トンネル完成
1900年代 01	34	甲武鉄道八王子〜上野原営業開始 浅川駅の誕生
03	36	甲武鉄道八王子〜甲府営業開始
06	大正5	八王子駅〜高尾山間バス運行開始
21	10	高尾索道株式会社の創立
25	14	高尾登山電鉄株式会社設立（社名変更）
27	昭和2	高尾山索道電車開通（ケーブルカー）
29	4	武蔵中央電気軌道（路面電車） 浅川駅前〜追分町間開通 新町〜追分町間開通
30	5	武蔵中央電気軌道（路面電車）運行開始 高尾橋〜浅川駅前間開通 新町〜東八王子駅間開通
45	20	八王子大空襲（八月二日未明、市街地八割が消失）
49	24	高尾山ケーブルカー再開
53	28	高尾保養院開設
57	32	八王子観光協会設立

自然・環境に関する口述史

自然・環境に関する口述史

- 川について
- 遊びについて
- 環境やその活動について
- 今の活動について

当時の思い出・エピソード

商業・祭り・観光に関する口述史

- 店の業態について
- 地域の様子について
- 観光客について
- 祭り・行事について

当時の思い出・エピソード

※[　]内は発言者。p.3 目次の 3-5 オーラルヒストリー・インタビュー記録と対応。

※「高尾の歴史」と「社会情勢」は高尾町５丁目町会創立 50 周年記念誌を基に、特に歴史上重要な出来事を引用し、観光に関する動きを追記しました。

商業・祭り・観光に関する口述史

1900年代 48年頃

- 田んぼにたくさんの蛍がいた
  参道の両側は田んぼでしたよ、でね、よく蛍がいっぱい飛んでいてね。蛍なんかねうちわで取れるような時ありましたよ [C-c]

53年頃

- 川に蛇が出現
  川でね、一生懸命見てたんだよ。そしたらね顔あげたら、こんな大っきい蛇がさ、目の前に居たんだよ [C-i]
- 川がとても綺麗だった
  川綺麗でしたよ、すごく。うなぎは取れるし [B-a]

1800年代 88年頃

- 農家が多かった
  高尾に案内する人と、農家が中心だったらしい。だからうちもね。この辺の人は農家の人が多いんですよ [E]

90年

- 橋本屋、馬車屋を開業
  最初はうちなんか馬車屋やってたから、運送業なんだよ。なんで運送業かって、要するに大垂水峠を超えてくるようになったんで、馬車だよな [B]

1900年代 01年

- 橋本屋、料亭へ
  甲武鉄道が上野原まで延びた。社会の変化によってものすごく変わるんだ。[B]

27年頃

- 表高尾が盛え始める
- 山の上にあった高尾
  山の上が本当は高尾なんですよ。分教場もあったんですよ。ケーブルカーを引っ張ったっていう機会に、表高尾っていうところが栄えたんですよ。[E]

44年頃

- 大きい店は海軍の幼年学校の宿舎へ
  ほとんど大きい店っていうのは海軍の幼年学校の宿舎になってたんだよ [B]

50年

- 山車を通すために砂利を掘った
  山車を地元で持っていなくて、借りて来たんだけど、背が高すぎて、両界橋に引っかかっちゃって。それで氏子みんなが協力して、砂利道掘って、問題になった [C]

51年頃

- 高尾を見渡すゴンドラ
  ビアガーデンあったとこ、ゴンドラが五つくらい付いてたんですよ [C]

ゴンドラ

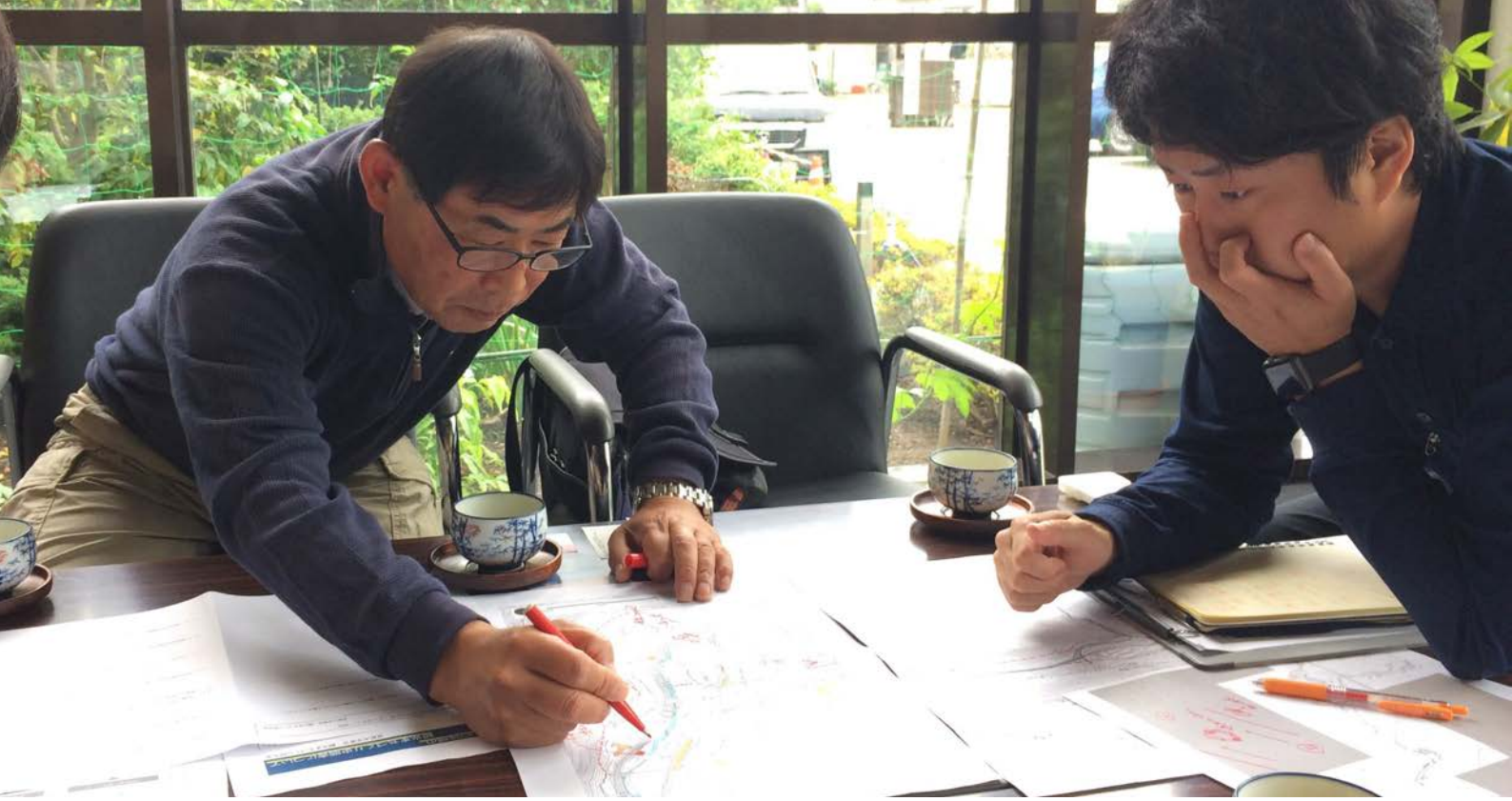
社会情勢

慶応 3	大政奉還 第二回パリ万博が開催され、日本が万博に初参加	
明治 27	日清戦争始まる	
36	ライト兄弟、初飛行に成功	
37	日露戦争始まる	
大正 7	米騒動勃発、シベリア出兵	
昭和 4	世界恐慌	
5	三越銀座店開店	
16	太平洋戦争勃発	
25	朝鮮戦争勃発	
31	国際連合に加入	

オーラルヒストリー・インタビュー記録

皆様の思いやお話、できるなら人柄も伝えられるといいなと思いながらまとめたインタビューの内容の要約です。

※役職名等はインタビュー当時のものを記載しています。



佐戸 博さん

浅川地区町会連合会会長、落合町会会長、まなびの杜あさかわ運営協議会委員

～日常的に遊んでいた案内川の記憶と、挨拶運動に奔走した日々を語る

案内川の想い出

甲田　この度、高尾山口駅前での河川整備が行われるということになりました。観光客にも地元の方にも愛される空間整備にするためにも、皆さんの想い出や個人史についてお伺いしたいと思っています。まずは案内川などの想い出についてお聞きしても良いですか？

佐戸　子供の頃からよく知っていますよ。夏になると川遊びや釣りをしたりしていましたね。私が子供の頃はもう60年も前だけど、当時はまだ水道も引けていませんでした。井戸を掘っているところもあったけど、各家で沢の水を引いて飲み水にしたり、川で洗濯したり。自分の家の前に川へ下りる道を作って、そこに洗い場を作るんですよ。

甲田　今ってなかなか川のすぐ下まで降りられないようになっていますよね。

佐戸　今はみんな法面作っちゃってるからほとんど下りられないよね。三面張になってからはもう随分経ちます。当時は土手になっていて、草木が生えていて、そこに道を作っていましたね。それで5月頃になるとハヤっていう魚が産卵にくるんですね。卵がいっぱい入ってて、それをとって食べたりしましたよ。今は魚も少なくなってしまいましたけど、昔は5月頃になるとそれが楽しみでした。そんなにいっぱいいたわけじゃないけど、うなぎも取ったことありますね。

中村　昔はそういう遊びをこの辺の子供達みんなが経験していたんですか？

佐戸　さすがにうなぎをとったことがある人は少ないと思うけど、町会ごとにうちの町会はここで泳ぐんだよって決めていました。他の町会の縄張りに入ると先輩に怒られたりしていましたよ。昔は祈祷所（祈祷殿）の前が滝になっていて、

聞き手：野田、甲田、中村、古谷 (首都大学東京 観光まちづくり研究室)、辻 (八王子市都市計画課)
調査日：2018 年 6 月 18 日

夏になるとその下流に大きな石を子供達みんなで持ってきて水をせき止めて簡易プールにしたりしました。

野田　日常的に川で遊んでいたのはどれくらいの世代までなんでしょうか？

佐戸　私が中学校ぐらいまでは普通に遊んでいたけど、モーテルがいっぱい出来て、排水を垂れ流したりしてだんだんと川が汚れてきたんですね。川が汚れてからは遊んじゃダメだよということになったみたいですよ。今は教育委員会は子供達が川で遊ぶことへの注意を呼びかけているんです。川遊びが無くなるのとほとんど同じタイミングで洗濯もしなくなってきましたね。

野田　さっきハヤの話が出ましたけど、昔は他にも色々な魚がいたんですか？

佐戸　カジカもいましたね。卵をフライパンで炒って食べるとコリコリして数の子みたいな感じでうまいんですよ。でも今は水が綺麗じゃないのでいないですね。

野田　夏の間の川遊びについてお伺いしましたが、他の季節ではどうだったんでしょうか？

佐戸　冬は結構雪が降ったんですよね。冬は山でソリ遊びをしていました。夏の間は納屋にしまっておいたソリを12月になると引っ張り出して、竹を半分に割って節を削って下につけて滑りやすくして。冬休みに入るとまず最初にソリを修理する。私の兄はあと一個小さいソリを作って、繋げてハンドル代わりにしたりにしていました。

野田　遊びから学んでいくんですね。

昔の風景

野田　直感的に、昔と今では観光客の違いって感じますか？

佐戸　あんまり感じたことはないね。ただ50年前に京王線ができる前はバスが出ていましたね。甲州街道の日光屋さんの前あたりに高尾橋という路線バスの終点があったんですよ。観光バスはちょっと大きな駐車場があってそこに停まっていました。それに昔はパチンコ屋もあったんですよ。参道の辺りかな。

野田　そんなところにあったんですか。

佐戸　高尾駅の駅前にもあったんですけどね。昔は高尾駅の高架の前の甲州街道の東50mほど先に映画館も一軒あったんですよ。今は駐車場になってますけどね。私が小学校3,4年ぐらいまであったんじゃないかと思います。古かったので無くなってしまいました。パチンコ屋は私が小学校上がるか上がらないかぐらいまでありました。

野田　例えばハタチぐらいとか、今までお話に出てこなかった昔の施設で思い出すものってありますか？

佐戸　祈祷所（祈祷殿）のところに高尾レジャーセンターっていうのがありましたね。薬草を入れた風呂や宴会場がありました。それが潰れて今の駐車場になったんです。私がハタチ過ぎなので4,50年前ぐらいまであったと思います。高尾には当時大きな宴会場が無かったですし、観光客が来て1日過ごしていましたね。

野田　佐戸さんがハタチぐらいのときにできたということですから、10年ほどで潰れてしまったんですね。その頃より今の方が観光客は来ていますか？

佐戸　そうですね。通称300万って言ってるじゃないですか。世界で一番登山客が多い山だって。笑っちゃいますけどね。

合併の話

佐戸　元々この辺りは南多摩郡浅川町だったのが昭和34年に八王子市と合併したんです。駅も浅川駅から高尾駅に改称して、その当時新聞には時刻表から切符から何から何まで浅川を高尾に変えるのに全国で2億円かかったとか出ていましたね。

野田　当時駅名が変わることや合併することに対して、地元の方の反応はどうだったんですか？

佐戸　どうですかね。ただ、合併するときに浅川中学校の学校林を市のものにしようというのには住民が反対して学校林のままにしたようです。そこは栗の木を植えているんですが、栗の実を売って修学旅行費の足しにしたという話があるんです。元々浅川は観光地でもありましたけど、農林業主体のまちだったので、現金

収入があるサラリーマンがそんなに多くなかったのだと思います。農家は余った野菜を売るようなものでそんなに大きな農家もなかったですから。

野田　では観光で収入を得ている方っていうのは、地域の中で結構ギャップがあったりとかするものなんでしょうか？

佐戸　日銭が入りますからね。よく分からないですがやっぱり生活的には贅沢してたんじゃないでしょうか。

辻　例えば蕎麦屋さんであったりとか、もともと農家だった方が観光業に変わったりすることもあったのでしょうか？

佐戸　ここ5,60年で新規に入ったというのは私は聞いたこと無いですね。

野田　お店自体は減っているんですか？

佐戸　何店舗か減ってますね。有喜堂の工場が参道にあるんですが、そこは昔、竹の家というそば屋がありました。

観光客と地元

野田　観光客向けのお店がある一方で、例えば地元の方と観光客の交流ややりとりってあるんでしょうか？

佐戸　そんなに関わりはなかったんじゃないですかね。

野田　昔もレジャーセンターがあったとはいえ、落合町会の付近にはあまり観光客の方は来ていなかったんでしょうか？

佐戸　そうですね。

野田　遊んでる風景を登山客が来て見かけたりといったこともないんでしょうか？

佐戸　そんなにこないですよ。今の方が奥高尾の方へ行くのに来たりしていますね。

野田　地元の人は高尾山はあまり登らないんですか？

佐戸　子供の頃はしょっちゅう行ってましたが、また最近になって週末はだいたい朝4時ごろ起きて行ってますね。高尾山健康登山というのをやってまして。薬王院へ行くごとにスタンプを押して、それが貯まると精進料理が食べられるんです。私はやらないですけどね。冬でも何人かはそういう人が登ってますよ。朝になると星を見に行ったのか上から下りてくる若い子が何人かいたりしますね。

野田　イメージとしては地元の方はあまり行かないのかなと思っていたんですが。

佐戸　基本的にそんな登らないんじゃないですかね。5年生ぐらいで遠足で登るじゃないですか。まあ東京都民は必ず一回は高尾山に遠足で登るとは言いますが。

川に関する活動

野田　だんだん川の環境が悪化してきた一方で、何か川に関わるような活動は行われてきたんでしょうか？

佐戸　40年前、もっと前かもしれませんが、もう高齢になった人達が蛍を一生懸命育てようと、カワニナの餌になるクレソンのタネを川沿いに撒く活動をしていたんじゃないでしょうか。一時はそれで増えましたけど、活動をやめてしまうとまたいなくなってしまいました。30年ぐらい前から少しずつ増えてきましたね。

野田　また増えてきたのは誰かが活動されていたからなんでしょうか？

佐戸　特に清掃活動とかそういったことはやってないと思いますが、ここ15～20年くらいは浅川小学校の子供達が授業の一環で浅川探検っていう水生動物を調査する活動をしていますね。高尾山研究という名前で高尾山で色々な勉強をしたりもしています。

野田　そういった意味では川は昔から小学生の学習場所でもあったわけですよね。

佐戸　そうですね。でも私はあまりそういうことは考えないです。遊びイコール勉強っていう感じでやってましたからね。

野田　カチッと小学校の授業でやろうってなったのはいつぐらいからですかね。

佐戸　どれくらいだろう。よくわからないですが随分前からだと思いますね。

学校の運営協議会委員

野田　学校の委員をされているとお伺いしたんですけども、どういった活動をされているんですか？

佐戸　学校・家庭・地域の３者で知恵を出し、子供のために地域のためにより良い学校を作るために20年ほど前から文科省が取り組んでいる事業でコミュニティスクールともいいますよ。浅川中学校は、9年目になり

ます。校長を含む10人の委員で、色々な案件を討議しています。一応、教員の人事権もあり、教育委員会に人事に関して意見具申も行います。必要な教員に対して、教育委員会、校長、私とで面接も行いました。

野田　例えば今小学校や中学校で、浅川探検のように子供達を川でもっと遊ばせるチャンスがあればやってみたいといった意見はあるんですかね？

佐戸　教員は21時まで残業するなんて当たり前で忙しいですから、中々大変なようです。

野田　土日も仕事していますしね。こういった空間整備で安全に遊べるようなものになれば、教育の場所にもなり得るのかなと思ってお伺いしたんですけど。

佐戸さん自身の話

中村　せっかくなので佐戸さんご自身のお話を少しお伺いしたいと思います。何か最近新しいことを始められたりしたことはありましたか？

佐戸　今のほうが新しいことやってますね。学校の協議会や青少年健全育成のことなど色んなボランティアをやったりして、多分浅川では子供にとって一番うるさい親父じゃないですかね。

中村　青少年健全育成はどういったことをやられているんですか？

佐戸　基本的に毎朝小学校と中学校の校門で挨拶運動してますね。なかなか挨拶

しない子供や返って来ない子供もいるので挨拶ぐらい返せよって怒ったり。親子で歩いていて、子供は挨拶するけど親は黙ってたりね。親が子供に挨拶することを教えないんですよ。

甲田　そういった活動はどういったきっかけで始められるんですか？

佐戸　20年ぐらい前に中学校のPTA会長やったんですよ。その前に、三人の子供ともクラス崩壊してしまったことがあって、私はサービス業で平日休みだったので、よく学校に行きましてね。それがきっかけでPTAになってくれないかと言われました。そこで学校との繋がりができたんですね。PTA会長は3年間やりましたが、今思えばそれがターニングポイントかもしれないですね。1年目にPTAで初めて挨拶運動を始めたんですよ。浅川の中学校区の全世帯に標語募集する為に標語募集の案内状を配りました。2000、3000部ぐらい刷ったのかな。当時PTAの役員は副校長を除くと7人ぐらいで、みんな仕事持ってたけどよくやってくれましたね。そこに貼ってある「挨拶は幸せを呼ぶ小さな魔法」という言葉が最優秀賞とったんですが、いまだそれ以上の作品は無いですね。

野田　最初から最高傑作が生まれたんですね。

佐戸　その子ももう35,6になりますがね。それが始めたきっかけなんですよ。挨拶運動は浅川では私が最初にやったと自負してるんです。私が学校に行くと子供達が率先して挨拶してくれるんですけど、こんないいことをどうにかしなきゃいけないと思って挨拶運動を始めようと。当時の校長先生もやりましょうよって言ってくれました。それで２回やりましたかね。今年も別の会長がやるんです。

甲田　その当時から継続して今も学校に関わっているんですか？

佐戸　ずっとですね。PTAをやっている最中に青少年育成指導員になれとか民生委員やれとか言われましてね。だいたいPTAやるといろんな話があるんですよ。

中村　じゃあもう学校に関わり始めて2,30年ですか？

佐戸　そうですね。

中村　その当時のPTAのメンバーとは今も交流があるんですか？

佐戸　私以外はみんな女性だから今はなかなかないですね。PTAの世界って女性世界なんですよ。ただ良かったのは、やっぱり役員の中にも、何か活動の提案をすると、えーまたやるのって顔する人がいたのが、終わってみたら佐戸さん楽しかったねって言ってくれたことですね。ただ今はやっぱり大変だからってやらなくなってしまいました。色々な役員をその当時は副会長二人の中でやっていたのを、今は副会長を増やして４人ぐらいいるんじゃないですかね。なんでも大変大変と思っちゃって、やらなくなっちゃうんですよ。やるのは大変だとは思いますけど、楽しくやるのが一番だと思いますよ。私はいつもそういう考えなんです。色々な人に会えるじゃないですか。私町会長やらなかったらみなさんにお会いできないんだから。それがやっぱり大きいんですよ。

野田　一期一会の社会ですから。

佐戸　本当にそう思ってますよ。嫌だったらやらないほうがいいと思います。やった以上はある程度の責任もあるじゃないですか。よしやってやるよって思いを持たないといけないと思うんで。

中村　町会長になられて今年で何年目ですか？

佐戸　もう８年目ですね。今一番長いんですよ。あと一人私より３つ４つ上の方が同期で８年目。今は１年とか２年でいなくなっちゃうんです。やっても二期４年。成り立てに連合会の会長は出来ないじゃないですか。それを今憂いてるんですよ。私の代で潰れちゃうかもしれない。

野田　若手の方はやっぱり仕事持ってらっしゃいますしね。

佐戸　ただ二人ばかし結構やる気がある人がいて。一人は６０代、ある事情があって仕事終わったらやりますよって言ったりしてます。あと４０代くらいのやる気がある子がいるんですが、その自治会は一年交代会長が代わっちゃうんですよ。

辻　新しいところは一年交代のところ多いですよね。隣の家を順番に回るような。

佐戸　でも一年じゃ何にもできないですよね。

野田　めんどくさいままのイメージで終わっちゃいますもんね。

佐戸　うちの町会も私の前はだいたい二期４年で回っていました。私もまあそんなもんかなと思ったらあれよあれともう８年です。

町会の活動

野田　町内会では川やまちづくりについてどういう議論が多い印象ですか？

佐戸　あまりそういう話はしないですが、秋に川の清掃デーというのがあります。うちの町会では50人くらいしか来ないですが。八王子全体もそうですが、一割も参加しないような状況ですね。

野田　毎年秋に一回ですか？

佐戸　９月の第一日曜日です。八王子市内全体で川沿いの町会が参加します。

野田　毎年やっていてゴミの量の変化はありましたか？

佐戸　全体では多少は減ってるんじゃないですか？歩いても昔ほどゴミは落ちていないですしね。子供達も青少年健全育成の清掃が年に７月と11月と３月に３回あるんですよ。八王子全体でやるんです。小学生も対象にはしていますがほとんどが中学生です。大人の吸うタバコを子供が拾ってるんですから子供に申し訳なくってしょうがないですよ。それと５月にみんなのまちの清掃デーというのがありますが、そちらは川ではなく街中が対象ですね。これ

も八王子全体で町会単位で取り組んでいます。

野田　年５回ぐらいまとまった人数で掃除をする機会があるんですね。

甲田　八王子の町会が全体で集まるような機会はあるんでしょうか？

佐戸　町会全体で集まることはないです。先ほども申しましたが、市主催で年２回（川・町）の清掃デー。こちらは「美しい八王子を作る会が主体的に行い、青少対（八王子市青少年対策委員会：市内中学校区ごとに地区委員会＝青少年の健全育成を目的とした団体）が年３回、子供を主体に清掃活動を行なっています。

野田　じゃあちょっと川に下りたりもするんですか？

佐戸　川には下りないですね。今学校も、危険だって保護者がうるさいですから。

野田　やっぱり川との関わり自体がどんどん減っているんですね。

佐戸　そうですよね。だから小学校の3,4年で浅川探検が終わったらほぼ関わりがないと思います。ただやはり事故も起こってしまっています。昔はみんな遊んでいたので、先輩たちも遊びかたを教えるんですよ。

野田　遊ばなくなるってことはつまり、遊び方が伝わらないということですよね。浅川探検などでも、せっかく川で何かをするんだったらキチンとそういうことを教えないと、プライベートで遊んだときに危険なことになってしまいますよね。川は楽しいよって言ってるだけだと厳しいと思います。

辻　山の登り方教室のように川も遊び方教室が必要なんですかね。

野田　最近だと主に都会の方では河川に降りれるようになっていたりしますが、それ以上にどう遊ぶのかもうまく空間で表現できたらいいなと思います。

今後の展望

中村　佐戸さんの今後の展望のようなものはありますか？

佐戸　少し川とは離れますけど、マルシェをもっとTAKAO599MUSEUMでやれたらいいなって思いますね。商店街とは競合しない形で。月に一回でも年に３回でも４回でも良いんですが、八王子の姉妹都市から特産品を持って来て、高尾山の飲食店がそれをアレンジして売るようなことができたら面白いなと思いますね。それに高尾山はそばが有名なので、勉強会を開いたりして手打ちを作って年に一回そば祭りやるのも良いですね。先の話になると思いますが、そうなればすごくいいと思います。

野田　先ほど観光事業と農家の話がありましたが、そういう風に両方繋がっていってうまいことマルシェでみんなにお金が落ちるような話になれば良いですね。難しい話も当然出てくると思いますが、それよりも地域をどうするかといった深いところで共通認識が生まれていけば良いですね。

佐戸　一般の住民だって結構協力すると思います。俺みたいなバカな男が中にはいると思いますよ。

野田　この空間が最終的にどうなるかっていうのはまだ本当にわからない状態ですけど、何かやりたいってなった時に、ここがそういう場所として成り立つような余地みたいなものはきちんと作っておきたいなという気持ちがあります。

佐戸　何かイベントできるような広場が欲しいですよね。

野田　確かにこの辺はイベントできる広場が無いですね。

佐戸　それで盛り上がって、イベントやりたいって一生懸命みんなで市に交渉すると。それが一番話がわかりやすいと思うんですよね。

野田　そういった話を実現できるよう、我々も頑張りたいと思います。今日はありがとうございました。

峰尾 孚さん

橋本屋代表取締役、八王子西ロータリークラブ 2018-2019 年度会長

小阪 弘さん

トリックアート美術館館長、髙尾山薬王院総代

～高尾山の商業を引っ張ってきた二人の想いとは

川の思い出

古谷　本日はよろしくお願いします。早速ですが、案内川などでの思い出があれば教えて頂きたいです。

小阪　川が綺麗でしたよね。

峰尾　綺麗でしたよ、すごく。うなぎは取れるし、鮎は堰で上がって来れなかったりして…。

川原　それはいつくらいのお話ですか？

峰尾　65 年くらい前です。私は昭和 19 年生まれなんですよ。

小阪　僕は 30 年生まれなので峰尾さんとは 10 歳差ぐらいです。川に関する思い出と言えば、料亭の前に堰があって、舟遊びをしていたと聞いています。芸者さんなんかもいたんですよね？

峰尾　芸者さんがいたかは分からないのですが、止めたことによって川からの水量が増えたので、船を浮かべていました。

小阪　僕、案内分校に 1 年生 2 年生の時に通っていたんですよ。川沿いの道なので、夏は学校帰りに道の端にランドセルとか置いてそのままジャボーンって飛び込んでいました。

野田　当時子供はみんな川の辺りで遊んでいたんですか？

小阪　はい。みんなどんどん飛び込むんですが、ちっちゃい子は怖くて飛び込めないんですよ。それが序列みたいなものでした。

野田　度胸のある奴が偉いんですね。

小阪　僕らは小学生くらいだから、怖くて下のところからちょこっと。

聞き手：川原、野田、中村、古谷（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、辻、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 6 月 19 日

川原　今の小さな子にもそういう川の世界を楽しんでもらいたいですね。
小阪　もう随分前ですけど、サマーランドに子供を連れて行ったら、僕らが子供の頃楽しんでいたような遊びを再現していました。頭から飛び込むのではなくて、足からプールに。あ、子供の頃こういうことやってたなって。
辻　楽しいですね、あれ。私も子供の頃行きました。
小阪　だから今の子供も多分同じ状況で遊んだら面白いんだろうと思いましたね。そういうものを取り入れているからサマーランドはずっと続いているのかなと。

高尾山商業の歴史

峰尾　昔といえば、元々料亭は高尾山へ来る参拝客、つまり講社が主な客でした。高尾山は紀州徳川家に手厚く保護されていたようです。
川原　その方達の宿だったんですね。
峰尾　はい。昔は交通の便が悪かったですしね。それから、明治 21 年に甲武鉄道、今の中央線が出来たことが高尾山が発展したきっかけです。その頃から高尾山に来るお客さんが増えはじめました。観光地になったのは明治からなんですね。
川原　そうですか。京王線が描かれた吉田初三郎（※大正から昭和にかけて活躍した絵師。）の絵には、高尾山や御陵が描かれていますが、さらにその前から観光地として発展してきたんですね。そういった歴史の中で、橋本屋さんの料亭はいつからやられているんでしょうか。
峰尾　明治 23 年です。甲州から大垂水峠を越えて馬車で荷物を運んでいたので、最初は馬車屋をやっていました。いわゆる運送業ですね。さらにその前はみんな炭焼きをやっていました。儲け出したのはほとんど大正からですね。
小阪　大正天皇の崩御の時は、朝 6 時くらいから扉を叩かれて、何か食べさせてくれと客が押し寄せたこともあったようです。
川原　橋本屋さん以外にも料亭は何軒もあったんですか？
峰尾　ないですね。旅館はあったかもしれないけど、旅館だってみんな大正ですよ。東京オリンピックで法律が出来て、部屋の中に戸棚作っちゃうと旅館扱いになるとかで、ダメになったんですよね。
小阪　私の祖父はケーブルカーの工事に従事したんですが、交通の便が良くなるとお客が来なくなると、旅館の下職人たちにかなり酷い目に合わされたそうです。

高尾山の自然の魅力

川原　そういった歴史があったのですね。では、今の高尾山でまだ観光客が気づいてないような魅力ってありますか？
小阪　今井通子さんという登山家を呼んだ時に、有料登山道を作ったらどうかとお話をされていました。専門のアルペンガイドのような人がお金をもらってガイドをしながら登るんです。林道ってほとんど使っていないので、一部原生林が残っているんですよ。林野庁も森林セラピーロードというものをやっています。
川原　それは今でもできそうですね。
小阪　林野庁は市がやるというなら貸しますと言ってくれているんです。この近くにもいくつか森林セラピーロードに認定されているところがありますが、認

定には費用がかかります。ドイツなんかでは効果が認められていて、精神的に病んでしまった人が深林に1,2週間入って療養するというのが保険対象医療になっているんです。

川原　当時は実現が難しい状況があったのかもしれないですが、今はまた別のやり方をするという手もありますよね。

小阪　高尾山も今でこそミシュランで評価されて観光客がたくさん訪れていますが、それ以前はあまり状況が良くなく、息子がいてもお店の跡を継げないようなこともありました。そういった状況にいつ戻るか分からないので、高尾の自然を活かしつつ常に情報発信していかなければいけないと思います。

野田　様々なニーズに応えていく必要がありますよね。

未来を見据えた活動を

川原　こういう言い方は失礼かもしれないんですが、正直私もまだ観光客を受け入れる体制が十分に整っていないと思っています。

小阪　全くその通りです。お客さんが増えたのはテレビとか雑誌のおかげですからね。

川原　こういうのは一過性のものになってしまうのが怖いんですよね。

小阪　ミシュラン三つ星そのものでなく、三つ星をもらったことによってメディアが一気に注目してくれたのでお客さんが増えたのだと思っています。メディアが取り上げてくれなければ、また元に戻ってしまうのではないかと心配しています。

川原　やはりメディアに取り上げられるというのは本当にきっかけであって、きちっと環境を整備したり、受け入れる努力をすることが必要だと思います。ですが今の高尾山は、何と無く駅前もイケていないし、登山道ももっと魅力を高めて色々な多様性を持っていかないと、いつか観光客が減ってしまうのではないかと懸念しています。今回の河川改修をチャンスとして、地元の皆さんのアイデアを活かせたらいいなと思います。

小阪　例えばファサード改修には補助金が出ていますが、それでも少なからず自己負担分はありますよね。そうすると個々の問題になってしまって商店会としても、全体で、というのは対応しづらいです。高尾ももっと危機感を持つべきだと思いますね。

川原　都市計画側でも危機感を持って取り組んでいます。そういう危機感を地域全体で共有したいですよね。

辻　都市計画やまちづくりの目線で見るともっとこうしたい、というところがいっぱい目につくんですが、現状観光客はかなりの数が来ているので、そこはどうしても市の内部でも議論がありますね。

高尾山開発の歴史

峰尾　何年くらい前か忘れてしまいましたが、この一帯を全部開発しようということになったんですが、話がまとまらずに止まってしまいました。開発の話から何年か経って、かわずの会というものを立ち上げたんで　す。TAKAO599MUSEUM についても市役所ともだいぶ話し合いをしましたが、中々折り合いがつかずに完成が遅れてしまいました。

川原　そうなんですね。元々TAKAO599MUSEUM はどのような場所だったのでしょうか。

峰尾　東京都が高尾の観光開発をした時に、活用の仕

方を悩んでいたようです。東京都立の自然科学博物館も、当初は東大農学部の教授だった服部先生がご夫婦で管理されていたんですけどね。

小阪　道の駅をつくろうという話もあったのですが、話が出た当時はまだミシュラン３つ星を獲得する前で、そこまで観光客も多くなかったんです。道の駅のような比較的大規模な商業施設ができたら周辺の商店の客が奪われてしまうのではないかという懸念がありました。

川原　TAKAO599MUSEUMが出来て３年ほど経ち、登山客以外の利用者が増えたりと、状況も変わってきているのかと思うのですが、その辺りはどういう風に見られていますか。

小阪　TAKAO599MUSEUMは無料の施設なので、やはりそちらに流れてしまうお客さんもいて、うちは３割以上お客さんが減ってしまったかなという印象です。

峰尾　夏になると子供をあそこの池で遊ばさせている親子はよく見かけますね。

小阪　人の集まる場所を作りたいという意味では市の考えていたことはある程度達成されているのではないでしょうか。

峰尾　ただあそこは京王が委託を受けて営業していますよね。市にももう少しアイデアを出して欲しいなとは思います。

小　阪　TAKAO599MUSEUMのときは会議も結論ありきだった印象がありました。市も担当者が変わってしまったりしてあまり上手く連携が取れていなかったように思います。

峰尾　今後は大学の協力も得ながら行政と地元とが協力していかないといけないですね。

川原　過去に色々と大変な思いをされてきているとは思いますが、八王子市は変わってきていると考えています。部署が変わっても継続して関わり続けてくれる人が増えてきているんですね。今回は結論ありきではなく、まずは白紙でいきたいと思っています。河川改修などのタイミングをチャンスと捉えて、これからは行政、地元、民間、大学と多主体で取り組める体制をつくりたいと思います。

ターニングポイント

古谷　お二人ご自身についてもお伺いしたいと思います。何か人生のターニングポイントとなる出来事はありましたか？

峰尾　中央道ができたことによって色々な変化が生まれて、うちは倒産するんじゃないかってぐらいに急にお客が来なくなったんです。それで馬車屋から最初の商売に戻って料亭を始めたのが一つのターニングポイントです。もう一つは京王線が開通したことですね。甲州街道が裏通りになってしまいました。

川原　周りの環境の変化でいい時もあれば悪い時もあるということですね。

峰尾　周りの環境によっていつどうなるか分からないので、大きな投資はできないっていうのが事実ですね。

小阪　でもやっぱり業態を変えているから今までずっと百何十年も残っているわけですよね。

川原　常にそうやって対応してきたからずっと同じっていう訳じゃないんですね。小阪さんはいかがですか？

小阪　うちは昔ガソリンスタンドをやっていたんですが、中央道ができた途端に売上が半減どころではなくて。さらに圏央道ができるというので、もうガソリンスタンドはやめようと。それで何とかしなくてはいけないと、10年くらいかけてレーシングカーのカートコースを作る許可を取ったんです。でもちょうどバブルの頃で反対運動にあってしまって、どうしようかという時にトリックアートに出会ってやってみようかと思いました。実はガソリンスタンドも並行してやっていたんですが、電気自動車が流行ったり、景気が悪くなったりということが重なって、トリックアート一本になりました。

川原　トリックアート一本になって何年くらいなんですか？

小阪　７、８年くらいですかね。

川原　じゃあ圏央道ができてちょっとぐらいですね。でもずっと地元でやられてきたんですね。

小阪　そうですね。でもそれが伸びない原因だなとは思いますよね。都心の友達なんかは、もっと広いエリアを見ていますよね。僕は高尾に固執してきてしまいましたからね。出るのが怖かったし。
川原　これからは、そういうずっと地元でやってきた人だからこその価値っていうのが、地域を支えるとか個性として出てくるんじゃないかな、と思います。

地元愛、薬王院への信仰

川原　そういう意味では、地元愛を持っているだろうという方は参道商店街に多いんですかね？
小阪　高尾の場合はすごく特異で、ほとんどの方が薬王院の檀家なんですよ。だから、若いうちはアレだけど、やっぱり年をとってくると、自分が天国へいける道しるべをお寺の人がしてくれるのではないかっていうのがあって。最終的にそこに落ち着くから地元愛は他のところよりもあるという気がしますね。
川原　それが大事だなって思います。
小阪　僕の親父はお山（※高尾山）の総代をさせていただいていたんです。昨年一月に亡くなって僕が代わったんですけど、親父が弱っていく中で、お山に対する思いがどんどん高まっていくっていうのがよくわかったんですよ。なんでこんなに、と思ったんですけどね、でも自分がそういう立場になって、お山の行事に参加したりしていると、あ、親父の気持ちが良くわかるっていうか。お山に対する思いがだんだん強くなるんだな、って。

川の使い方、運営

川原　今回は川だけでなく、周辺のことも一緒に考えていきましょうということなんですが、こういうところに期待することってありますか？
峰尾　TAKAO599MUSEUMのときも、我々はもっと広い圏央道のインターの手前ぐらいまでのエリアをどうしていくか考えていました。川に遊歩道作ったらどうかという話もしましたね。
川原　今ちょうど別のところでやっているプロジェクトでも、環境を整備して、歩道や河川、公園も含めて、綺麗にするだけじゃなくて人が居心地よくいられる場所にしようと考えています。昔遊びを再現したりして登山後の休憩をもっと楽しくできたらいいなと思ったりするんですけど、一方でやはりここを運営してくれる人も出て来ないと、なかなか実現できないというのもあるので。
峰尾　京王さんがいますよ。
川原　京王さんにお任せしちゃえばいい、ってことなら、それも出来るとは思います。あるいは、こういうものを活用していくようなときに関心があるような地元の方っていらっしゃるんですかね？例えば、イベントの時にここにもう少し屋台みたいなことを考えていいのかとか、どういう方向で考えるべきかヒントをいただけたらと思っています。

露店の排斥

峰尾　それは難しいかもしれないですね。高尾は露店の排斥をやっているんですよ。
川原　はい、以前に少し伺いました。
峰尾　警察と一緒に排斥をしようということで、そういう会もできています。最後の露店があったのは東京オリンピックの頃ですね。それを守ってきたから今の景観があるのだと思います。来る人は面白いと思いますが、露店ってあまり良くない点もあるんですよ。
川原　その辺の露店ではなく、地元の人が出店するっていうのはあり得るんですか？今は登山が終わった後の居場所がTAKAO599MUSEUMぐらいしか無いですよね。もう少し、周りにお金が落ちるような状況になってもいいのかなと考えているのですが。
小阪　やるとしたら京王かアーバンでしょうね。僕は、高尾がずっとこうやって来れたのは、外からの出店がほぼ無いからだと思っています。やはりあぐらをかいて旧態依然としているような店もありますが、それが悪いことばかりかというとそうではなくて、ギスギスしていないほんわかした雰

囲気に繋がっていると思います。余裕があるというか。
川原　あまり観光地化しすぎていない感じがあるのかもしれないですね。
小阪　やっぱり有名な観光地って有名なお店が出店して、どこでも同じようなお店になってしまうじゃ無いですか。そういう意味では高尾は外からの人がいないですからね。ケーブルカーの駅前なんて昭和レトロではなく昭和そのものだと本に書かれていました。
川原　私も観光地のお店がどこも一緒になってしまうのは良くないと思っています。ただ一方で、どう次の世代の方が活躍するタイミングを作るか、ということが商店街としてすごく重要だと感じていて、若手がチャレンジ出来る場があるのかなということが気になっています。

若手への期待

小阪　二代目がやっているところも多いですよ。
峰尾　でもここは3ちゃん営業（※身内だけで経営している企業のこと。）のお店が多いんです。だから隣で売れるようなものがあればすぐ同じもの買って来るし。
小阪　やっぱり良くも悪くも高尾山って薬王院の門前町として発達したから、「講」っていうお客さんが、少ないながらもお土産を買ってくれるんです。そういうお客さんって何十年も通っているから自分が行くお店が決まっているんですよ。そこで売上が少しは確保できるから、新しい形に中々なりにくいんですよね。商店会長をやっていた時に、一生懸命こうしたいと思っても、みんなでそれを徹底することはできないんだと思いました。でも今は栄茶屋さんは全部手打ちの蕎麦だし、元気堂はご主人が手焼きのせんべいをつくっています。有喜堂は新しく竹乃屋さんというお蕎麦屋さんの前にお店を作ったりして、見栄えのする建物が出来てきて参道はすごく良くなりました。
川原　そういうのがいいですね。

商店会のリーダー

小阪　基本的に、親分というかリーダーはいたほうがいいと思うんです。そういう人がいないと、めんどくさくてしょうがないですから。だから、たかしさんは良いところでも悪いところでもすごく強い人だから、僕らを代表して戦ってくれるところもあるんですよ。あと何年頑張っていただけるかわからないですけど。
峰尾　あんたらが頑張ればいいんだよ。
小阪　そんなこと言わないでくださいよ。他の人だとなんだよお前は、っていろいろな意見が出てきちゃうけど、この人が言ったことには反対できないって人なんです。だからこういう人がいないと。
川原　本当にそう思います。
小阪　言いたいことだけ言ってもまとまらなきゃ話にならないじゃないですか。
川原　本当にそう思うんですよ。どうしても行政が音頭とってやると、みんなの意見を聞いてとかなるんですけど、ビジネスはまさにやるかやらないかのところがあるので、そういうところはぜひ色々アドバイスをいただいてやっていければなと思っています。やはりそういう方が若手を動かして引き上げていこうというところに私も協力したいと思っているので。まだまだ白紙なんですけど、良い方向に考えて行こうと思いますのでこれからもよろしくお願いします。

大野 彰さん

高尾登山電鉄会長、公益社団法人八王子観光コンベンション協会会長

船江 栄次さん

高尾登山電鉄社長

ー 100 年先も高尾の自然を守るためには

川への活動

甲田　まずは今回の河川整備について、皆さんの川への想いをお聞きしたいと思います。

大野　案内川には蛍が戻るようにしたいですね。この事務所の裏も支流だけど昔は蛍が出たんですよ。

甲田　蛍はいつまで出たんですか？

大野　私が登山電鉄に来た15,6 年前は少し出たという話は聞きましたが、多分 20 年ぐらい前にはほぼ途絶えているんじゃないでしょうか。案内川は綺麗にして元の自然に戻ると良いと思います。当社もこの地域の清掃活動を地元の町会と一緒にやっています。案内川の水を守るという意味では、この辺一帯は市街化調整区域ですし、やはり開発を抑制するべきですね。100 年先を考えて緑や水を守らないといけないと思います。とにかく蛍を復活させることが地元では望んでいることではないですかね。

甲田　蛍を復活させる取り組みは今まではされてこなかったのでしょうか？

大野　もう 20 年くらい前、もっと前かもしれませんが南浅川町会が国土交通省の補助金か何かでそういう取り組みをして一時は復活したようです。

辻　川の清掃はどの辺りをやられているんでしょうか？

船江　案内川の支流についてはエリアを決めています。当社は清滝駅横の稲荷山コースの入り口から 6 号路添いに約 250m、洗心地蔵の辺りまでですね。案内川

聞き手：野田、甲田（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、辻（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 6 月 26 日

の方は町会や商店会など地域全体で定期的に清掃していて、当社も参加しています。

野田　この時は社員総出で。

船江　特に支流については毎年なるべく多くの社員で行うようにしています。

大野　9月の川清掃デーに合わせて行い、年によっては2回やっています。

船江　2回目の時期は厳密には決まっていませんが、必要に応じて行なっています。

野田　清掃をされているエリアは三面張になっていますよね。

大野　やはりホタルを戻すには三面張りはダメですね。管理上は良いかもしれないけれど、自然的にはそれはやめた方がいいとは思います。大局的には八王子市内に水路を作って錦鯉がいるとか、それくらいの街に出来れば理想だなと思いますね。昔はそうだったわけですから。

甲田　もっと水に近いような街にということですね。

高尾山の変化

野田　観光客や登山客の行動や客層の変化ってあるんでしょうか。

大野　一時は山ガールと呼ばれた登山客が多かったときもあります。客層としては15,6年前に比べ遥かに外国人が多くなりましたね。それと観光地化したので山登りというより観光目的で来る団体客が多くなったのは確かだと思いますね。

船江　ファミリー層も増えましたし、観光を目的としたツアーのお客様も全国からお越しになります。特に近年は健康登山で来られる中高年の方が増えているように思います。来山の目的も多様化し、年齢層も幅が広くなったということだと思います。

野田　ちっちゃい子って増えました？

大野　おそらく昔から遠足で来ていたと思いますが、最近特に多いですね。年間五万人以上来ますね。

甲田　遠足は申し込みのようなものってあるんですか？

船江　学校から事前の申し込みがありますね。担当の先生方も実踏されています。

辻　ケーブルカーの団体申し込みということですか？

船江　そうです。

野田　やはり安全かどうかを一番気にされているんでしょうか？

船江　引率するわけですから、先生方としては登山ルートの安全性は最も気になるところだと思います。

甲田　ルートとしては麓の方には行かずに登って戻るみたいな感じですか。

船江　麓のケーブルカー清滝駅前に集合して、往復ケーブルカーを利用される遠足もあれば、帰りだけケーブルカーという遠足もあります。だいたい午前中から登って、お昼をはさんで午後早めに下山するパターンが多いですね。

野田　そういう小さい子にも水に親しんでもらえる河川空間にしたいですね。

多様な高尾山

甲田　高尾山に関わられている中で、特に好きな場所や、観光客の方にもっと見せたい場所ってあるんでしょうか？

船江　自然研究路として、7つのコースがあります。例えば4号路には吊り橋、6号路には琵琶滝と、それぞれのコースに特徴があるので、全てのコースを歩いていただいて高尾山の魅力を実感していただきたいと思います。

甲田　観光客の方は事前にルートを決めて来られる方が多いんでしょうか？

船江　そうですね。観光でお越しの方はケーブルカーで中腹まで登り、1号路を歩いて薬王院でお参りして、ケーブルカーか観光リフトで帰るパターンが多いですね。健康登山の方たちを含め、歩かれる方は基本的に1号路を利用し、山野草や森林浴など四季折々の高尾山を楽しんで帰られます。川や滝など水に触れ合えるのはとても良いことだと思います。

辻　私はちょうどシーズンの時に上に行って調査することが多いんですが、すごく混んでいますよね。

船江　オーバーユースではないかと近年言われるようになりましたが、1年を通して常に混雑しているわけではないのです。観光の場合は、紅葉や新緑の時期に

お客様が集中するので、常に混んでいるというイメージがあると思いますが、それ以外の時期に来ていただくと高尾山の良いところをゆっくりと味わっていただけると思います。

野田　逆にもうちょっと来てほしいなって思うような時期っていうのは具体的に何月ぐらいですか？

船江　今申し上げた春と秋のピークを少し避けた時期と冬です。夏はビアガーデンが始まるとケーブルカーも夜まで運行しますので、以前より夏のお客様は増えています。

甲田　観光客が増えている実感はありますか？

大野　私が来た15,6年前は2月と8月なんてお客は少なかったですね。それが最近は1年通じてコンスタントに来ますね。2月がちょっと少ないかな。

船江　2月は寒いですが、空気が澄んでいて景色が鮮明に見えるので眺望にはおすすめです。

甲田　観光客が増え始めたきっかけはガイドブックに載ったことでしょうか？

船江　話題性が大きいので、それがきっかけになっていると思います。テレビ放映や雑誌掲載もだいぶ増えました。

大野　ミシュランガイドで3つ星評価をされたのは、アクセスが良いというのはもちろん、山内が綺麗だということもあると思います。30年くらい前までは山内はゴミで汚れていたらしいんですよ。自主的に清掃登山してくださる人もいるし、京王グループでクリーンキャンペーンをやったり学校単位で清掃をしたりしていただいています。ゴミの持ち帰り運動が定着して本当に綺麗な山になったと思います。

河川改修への想い

船江　河川改修はまず災害対策、それから環境保全や生態系保全が大きな目的ですよね。それに加えて、案内川の改修が山と川は一体であるというメッセージを高尾山から発信できる大きなきっかけになると私は思っているんです。川が整備されれば水に親しみながら川辺を歩いてTAKAO599MUSEUMへ、そして表参道へというルートもできます。

大野　今は表参道を通らず斜めに通っていますね。

船江　TAKAO599MUSEUMには登山する前に立ち寄って、高尾山の旬の情報を知り、山への理解を深めてから登山していただきたいと思っています。また、川の場合はどこを流れてどこに行き着くのかということを意識しがちですが、川を遡っていくと源流の高尾山に行き着くんだという逆の見方をして、川と山とが一体となって自然を育んでいる高尾山を楽しんでもらいたいとも思います。

辻　ここは高尾山からの水が流れているんだよ、っていうことがもう少し意識できるようにということですか？

船江　そうですね。多摩川水系の源流の一つに高尾山の案外川があるというストーリーです。ですから、TAKAO599MUSEUMの前の河川改修も本当に必要だと思っています。高尾山に来て川を意識される方は少ないと思いますが、山と川は一体ですから、もう少し広範囲に案内川の改修が行われて、山麓がさらに整備されれば良いと思っています。

甲田　河川改修や広場整備にあたって、こういうこと

ができたら良いな、という具体的な活動のイメージはありますか？

船江　地元商店の皆さんと一緒になって、川の管理や活用方法、具体的な楽しみ方などを考えていきたいと思います。

大野　親水公園ができると思うんですが、水遊びができるような場所にしたいですね。今の子供はそういう経験をしたことないでしょう。それが本物の川でできたら、非常に良いですね。

野田　観光客だけでなく地元の子供にもここで遊んで欲しいですね。

大野　管理上の問題だけでシャットアウトしちゃうのは、子供にとっても良くないかもしれない。そういう機会・場所があるのは非常に良いと思います。

商店との繋がり

甲田　ちなみに先ほど町会や商店会の方と一緒に清掃活動をされているとおっしゃっていましたが、登山電鉄さんとして商店会の方との関わりはあるんですか？

船江　我々も会員ですので、もちろん常にあります。

野田　環境が変化していく中で、ここで商いをしている方たちの変化って何かありましたか？

船江　世代交代が始まっているお店もあり、意識を変えていこうという機運が生まれているのは確かです。これからこのエリアをどう発展させていくのかという新しいスタートラインに立ったということだと思います。皆さん真剣に考えていらっしゃいますよ。もちろん当社もですが。

野田　これから整備する河川空間も、ぜひ商店会の方々もみんなで上手く使っていくということになっていけば良いなと。

大野　そうですね。

船江　当社ができる役割は何かということも常に考えています。大正 10 年に薬王院の貫首様が信者の足と浅川村の経済の発展のためにと発案して地元の名士達で作ったのが当社ですから。以来ずっと地元と共にあるので共存、共栄です。今後は地元が全体として潤っていける施策を当社でも提案して高尾山の発展を担っていく必要があると思っています。河川の改修がそういったことの大きなきっかけになると思います。

辻　こうやってご意見を聞きながら進めていく中で地元の皆さんの想いがより深くわかって来たな、というところで。皆さんの想いが活かせればと思っています。

船江　一方、住民の方達は夜騒がれたら寝られないわけで、河川利用のルール化は必要です。

野田　出来上がって終わりじゃないですからね。どうやって利用、維持していくのか、場合によっては運営という観点も必要になってくると思うんですよね。

船江　改修工事が行われて、親水公園のようになれば、例えば高尾山口駅の山側の田んぼとか、もう少し広域に歩いて、里山であるこのエリアを楽しんでもらえると思います。

多様化する観光客への対応

大野　国道 20 号に出て TAKAO599MUSEUM につながる橋は重要だと思います。車椅子が通れるようになる可能性もあるようですね。

辻　法律の基準にはなかなか合わせられない高さなんですよね。広場側でバリアフリー対応はしたいと思うんですけど、片方だけだと

意味がないので、向こう側の方をどうすりつけるか国道と協議をしないといけないなとは思っています。

野田　車椅子の方も駅から斜めに抜けて参道に向かうんですかね。

船江　そうです。近いですからね。

甲田　現状でも車椅子の方って結構来られるんでしょうか？

船江　結構いらっしゃいます。ケーブルカーの高尾山駅にはエレベーターを設置してあります。ケーブルカーの乗降時は駅員がお手伝いをしますし、その後も付き添いの方がいれば、薬王院までは比較的楽に行くことができます。

大野　薬王院の境内を通って頂上まで行けることは行けるけれど、あまり行かないと思います。

野田　ペット連れの方も来ますか？

船江　平成19年以降だいぶ増えて来ました。生態系を壊してしまうおそれもあるのでマナーを守っていただければ良いと思います。

野田　登山客が多様化していく中で増えて来たんですね。

船江　そうです。ですから、ケーブルカーの駅では中型犬までのゲージをお貸しするようにしています。

辻　少しずつ変えていかれているということですね。

船江　あとは外国の方たちにお越しいただくための取り組みも急務です。

辻　PR活動はされているんですか？

船江　今までは足りなかったのですが、京王のグループ会社になりましたから、海外戦略部とも一緒になって、例えばビアガーデンをご利用頂くなどの取り組みを始めています。

大野　八王子市は台湾高雄市と友好都市ですが観光戦略はあまり進めていませんよね。もっと宣伝しても良いと思います。

甲田　高尾山も中国系の方が多いんですか？

船江　東南アジア、特に中国、台湾、香港、韓国の方が多いですね。３月の薬王院の火渡り祭の時は結構欧米の方が多いんです。火渡り祭はミシュランガイドにも載りましたからね。

辻　観光戦略を進めていくにあたって、足元の商店街も一緒になって動かないと、外国人を呼んでも対応できないというか難しい部分もあるのかなと思うのですが。

大野　若い人に期待しています。

船江　そうですね。協同して知恵をしぼるということが必要です。高尾山を訪れた時に何を価値として見出していいただけるかということでしょうね。都心から１時間の場所でこれだけ豊かな自然を満喫できるわけですから、あとは我々がおもてなしとしてどういうことができるかだと思います。

大野　サインも統一した方がいいと思いますね。

甲田　ガイドラインみたいなものがあるとすごく良いですよね。

大野　サインの統一が最大のもてなしじゃないかと思いますね。また、まちづくりは用途地域がすごく大切だと思います。今後開発が進むと大手資本が来て問題になるようなホテルを開発するということもあり得るかもしれません。今のうちに用途地域などで規制をしておくべきだと思います。

辻　ホテルはない方がいいということですか？ある方

がいいという意見も聞いたりするんですが。

大野　昔はユースホステルや国民宿舎がありました。いらないという人もいるんでしょうし、僕らも市場調査やらないとわからないと思います。それから、やはり抑制しないと緑は無くなってしまうと思います。だけど、駐車場という問題も出て来ますよね。軒先を使うなんて話も出ていますが、本当に広い駐車場を確保するには近隣の大学等の用地を借りるとか、それくらいの方法を考えないと解決しないと思います。都市計画の立場からぜひ考えてみてください。

辻　以前ツアー会社にアンケートをとったのですが、何時から何時までに戻ってきてくださいというフリー乗車のニーズが多いようなんです。

大野　何時に迎えにくるからそこに来てくださいという形にしないと難しいと思いますね。

辻　浅草では待合スペースを区で確保して、それで何時から何時まで、という風にしています。

大野　待合スペースは必要ですよね。

辻　そういうシステムを導入したりするのは、考えとしてはあると思うんですが、なかなか難しいところです。

船江　自然を楽しんでいただくのに、どこまで開発してよいのかというのは非常に大きな問題で十分な検討が必要だと思います。大自然が魅力の高尾山ですから。

辻　それでミシュランの星が無くなったら問題です。

船江　自然を保護しながら観光地としてどのように発展させることができるかが今後の課題です。今は宿泊施設がないので、ニーズに答えるためにも小規模でもよいので宿泊できる施設が必要だと思っています。

大野　一箇所は必要な気がしますね。

船江　日帰り登山だけではなく、周辺地域の観光も含めて、ゆっくりしたい方のニーズにも応えられると思います。

野田　いずれにせよ開発キャパシティみたいなものを、みんなで正しく共有するというところなのかなと。

船江　その認識の共有も大切です。

辻　近隣商業地域なのでホテルやパチンコは建てようと思えば建てられるんですね。なんでも建てられるのではなく、ある程度この地区を壊さないものに絞る必要があるのかと、地区計画や用途地域について今議論しているところです。

船江　国定公園ですからそれに見合ったものも必要です。都の自然公園利用ルールなどもバランスが大切ですね。

辻　そうですね。とはいえ、都が自然公園管理協議会をつくって全体を動かしてくださるということについては個人的にはありがたいことだなと思っています。

今後の展望

甲田　最後になりますが、企業としての高尾への関わりとはいったん離れて、ご自身の今後の展望についてお聞かせ願いたいです。

大野　僕は60歳まで公務員として八王子市に勤めていて、64歳からこの会社に来たんです。観光協会の会長や専務も10年くらいやってますから、人生の最後、末節を観光という仕事に携われたというのは非常によかったなと思います。そういう意味で、すごく恵まれた人生だったかなと。今後、命のある限りは観光に関心を持って応援して行きたいなと、そんな風に思っています。

船江　私は当社に勤めてまだ11年ですが、小学生の時には遠足に来ましたし、娘が小さい時にも一緒に登り、一応全ての自然研究路を歩きました。ですから今後は、四季折々の高尾山を楽しみにして健康登山をしたいですね。そしていつでも自然が守られていて、いつ来ても高尾山ならではの風が吹いているような、そういう山であり続けてもらいたいと思っています。

青木 勝一さん
金子 政弘さん
森嶋博之さん
佐藤 正司さん

～氷川神社の総代の皆様が貴重な高尾山の姿を語り継ぐ

昔の川の様子と思い出

中村　今まで川を守るために取り組んできたことや案内川との関わりについて教えていただきたいと思います。

青木　大きくは三つありまして、一つ目は川に釣り堀があったというようなお話です。二つ目は、子供の頃は案内川で水泳ができて、夏はいい遊び場だったんですね。三つ目は、川の岸辺の両サイドに植樹した時期があります。今も大きく木が育っていますよね。

川原　そういう豊かな川の姿が今はあまり想像できないですよね。

金子　川は豊かだったよ。私は何より釣りが好きでしたね。

岡崎　魚とかは多かったんですか？

金子　うん、うなぎとかいましたね。ヤマメとかもいっぱいいたんですよ。

岡崎　鮎とかはいましたか？

金子　鮎は見なかったですね。

青木　佐藤さんと森島さんは、目の前の川で釣堀の仕

聞き手：川原、中村、古谷（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 6 月 26 日

事のお手伝いをした人なんですよ。なので、色々よく知っています。祈祷殿の方も一部釣堀があったんですよね？
金子　そうだね、祈祷殿の前だね。
佐藤　川自体全部をせき止めたって感じで、祈祷殿の真ん中から青葉橋くらいまでですね。
金子　釣堀のところに水を貯めるための石があったんですけど、それは田んぼに水を入れるためにありました。それで堰が壊れてしまっていたので、水車で回して組み上げていたんですよ。
森島　そこが夏のプールみたいな感じになっていましたね。埋俵を積んで、せき止めて子供の遊び場にもしていました。水車の方まで水が溜まるので道路から飛び込めましたね。胸のあたりまで水があったから。
川原　えーそんなに。
佐藤　それで台風が来て終わっちゃうんですよね。毎年台風が来るから、その度に堰が壊れてなくなっちゃうんですよ。
川原　そんな自然の川で遊べるなんていいですね。
森島　そうですよね。それから昔は橋本屋さんが屋形船を浮かべていましたね。
川原　堰を作ると、祈祷殿のあたりまではずっと水位が高かったんですね。
佐藤　倍以上ありましたね。深々 40 センチくらい。
森島　夏は水を被れば涼しいので、川で遊んでいたわけですよ。だからそういう思い出しかないですね。
金子　川の中をウロウロと歩いたもんね。
子供の頃なんかは、川の中を一生懸命見ていたら、大きい蛇が目の前にいました。
中村　えー蛇！
森島　蛇も魚を食べに来るんですよ。
岡崎　川を泳ぐのですか？
森島　上手ですよ。上流の方へ行ったら魚をパクッと食べちゃうんですよ。よく夕方になると、パシャンパシャンと小魚が跳ねるじゃないですか。それを狙っているんです。

川周辺の様子と変化

中村　川周辺で変わったことなどはありますか？
青木　川沿いに木を植えましたね。ヒマラヤスギとか。
森島　京王高尾線ができた時に、京王さんが植樹したんですよ。
岡崎　そこから市に移管されてきたんですか？
青木　どうなっているかはわかないけど、今は市の土地ですよね。
森島　昔は川沿いにツツジとか紫陽花が咲いているところがあったんですよ。
川原　河川側ですか？
森島　そうですね、今は埋もれてしまってなくなってしまったんだけどね。
青木　それから桜の木が何本かありましたよね。
森島　桜の木は商店街のところにあったんですよ。
青木　緑の桜もありましたよね？
森島　ありました。商店会が植えて、当時は公園が管理していたんですよ。だから公園課に言って掃除をしてもらったりもしました。
川原　当時っていうのはいつ頃ですか？
森島　25、6 年前ですね。
青木　それからメタセコイヤとか、ケヤキとかもありましたよね。
森島　あとイチョウ
川原　イチョウは元々あったんですか？
金子　高尾新橋を渡ったところにありましたね。
森島　メタセコイヤも、その辺にありましたね。
金子　京王の駐車場には桃の木を植えましたね。でも手入れをする人がいないとなかなか上手くいかないです。
川原　なるほど。植えた当時は色々な思いがあったんですね。今は木が弱ってしまったり、場合によっては大きくなりすぎて、この辺りも考えなければならないと思うんですよね。
森島　カタクリを 1500 本くらい植えたんですよ。それが今では 60 くらいになりました。
佐藤　環境が合わないところに植えるとそうなってしまいますよね。
川原　基本的に商店会がやっていたんですか？
森島　そうですね。
佐藤　今高尾山温泉があるところの裏もずっと土手があって、そこも結構植えたんですよ。でも全部枯れちゃいましたね。
川原　河川工事の時に一緒

に見直して、環境を整えるべきですね。

高尾の好きな場所

中村　住民の人しか知らない場所や住んでいるからこそわかることとかってありますか？

青木　私のオススメは案内川のところでいいところがありますね。紅葉の季節になるととても綺麗で、ああゆう景色は残しておいたほうがいいかなと。祈祷殿の先あたりで、岩があってそれで紅葉があってっていう。

中村　そういう景色は取っておきたいですよね。

青木　あとはやっぱり、取っておきたいのは駅の周りでしょうね。駅前は印象に残るような場所、川を見られるようにしないといけないんでしょうね。だから定期的に清掃もしなくちゃいけないですよね。川幅が狭くて、水量が少ない。

川原　砂州みたいになっているところは、水量をしっかりするために浚渫をすると思うんですけど、いずれ馴染むように溜まってくるとは思いますね。川も少し広がります。

佐藤　川を整備しないと魚自体も居着かないですよね。でも岩盤は残したほうがいいですね。

市電の昔話

青木　市電について、私は昔話で知っているんだけど、詳しく知っているのはもう金子さん（90歳？）くらいしかいないですよね、実際に乗られたんですよ。

岡崎　えー乗られたんですね。

金子　現在の京王八王子駅は地下ですけど、昔は地上でね。市電が通っていたんですよ。

岡崎　じゃあ甲州街道の方へずっと？

青木　そうです。

森島　だからあそこはちょっと道が広くなっているんですよね。子安神社のところが発着所だったんですよ。

川原　そういう面影は復活出来たらいいですね。やっぱり参道の入り口は大事ですよね。

森島　高尾駅まで電車で来て、そこからずーとバスで来て。それでお山を参拝したんですよね。八王子自体は織物の街なので、その関係があって川越で織物をやっている人たちが、高尾山にお参りを来た人が多かったですね。ずっと前は自転車で来ていましたから。

金子　昔は電車の本数が少なかったから、ずっと歩いて来たりもしたんですよね。

青木　今は群馬の方あたりからきている、神社を信仰した講社の人たちで栄えた。

川原　講社があるということですね。

森島　上尾とか桐生とか。

金子　埼玉とか茨城とかだいたいそっちの人が多いんですよ。

川原　それはやっぱり織物の繋がりがあったんですね。

やんちゃな昔話

青木　それで市電の話にちなんだお祭りの話があるんですけど、山車を地元は持っていなかったので、八王子の市内の方から借りたりしていて、引っ張ってきたんですね。そしたら背が高すぎてしまって、両界橋の真上に当たる中央線のガード下に引っかかってしまって！だからみんなで協力して、甲州街道の砂利道を掘ったんですよ。その場所が市電の線路のところだったんですよね。掘りやすいからさ。そして町会の人が、出車が神社から帰ってくるまで道路を見張っていたそうです。

森島　そう、アスファルトをかいて山車を通しちゃったから、問題になっちゃった。

川原　すごい。大胆な！（笑）

青木　一時間くらい掘り続けて通したから、えらい問題になったんですよね。

森島　当時は、国道ってそんなに交通量がなかったんですよね。

金子　それで、なぜそのような所を通ったのかと言うと、多摩御陵の前に集合していたんですよ。お神輿も、山車も。

川原　氷川神社が最後の折り返し地点と言うか、ゴールだったんですか？

金子　氷川神社で終了でしたね。

川原　おーすごい。旧浅川町のお祭りとして、町の中にいくつぐらい山車を出していたのですか。

青木　山車は少なかったですね。山車を持っている町会はなかったので色々なとこをから借りていましたね。
川原　山車の上で子供ばやしみたいなのはやっているんですか？
森島　僕が五つの時にその山車に乗っていたんですよ。それで、お面を被らないでひょっとこの顔をして踊っている写真がありますよ。
川原　そういう伝統というか、文化は今も受け継がれているんですか？
金子　最近は各町会で催し物をしちゃっているから、なんかお祭りもさみしいんだよね。昔はこの境内にワイワイ集ってきましたからね。
川原　それで今は各町会でお祭りをやっていて、それとは別にここのお祭りもやっているということですか？前に川の方へもお神輿を下ろすとかいうも聞きました。それもここの神社のお祭りですか？
森島　うちの家の前のボルトを外して降りたんだよね。
青木　だから今度川を改修するのであれば、そういう川に降りられるような、なだらかな傾斜を作ってもらえると、祭りにいいなと思っています。

溢れる多様なアイデア

中村　地域のためにしてきた活動やその時の困難をどう乗り越えてきたのかをお聞かせください。
川原　話し合いはあったけれど、実現できないないものもあると思います。でもその時のアイディアは今なら活かせるかもしれないと思いまして。

青木　今から5、6年前に私が提案したことは、昔から引き継がれている氷川神社の夏祭りがだんだん寂れて行く有様を見て、昔のように賑やかなお祭りに戻したいと思いました。どうして寂れたかについては、様々な要因が考えられますが、第一に国道20号の交通事情で道路を神輿を担げない神社の立地条件、氏子の子孫の減少に加えて新規住居者の増加などが目立つようになりました。各町会単位でお祭り会場を設営して、例大祭に参加する人数が少なくなってきたこと、各町会のお祭り会場をスタンプラリーで押して10箇所をめぐる、スタンプラリー抽選会を氷川神社境内で行いました。初回の景品は自転車、2~5回はデジカメ、扇風機、双眼鏡と続き平成30年の夏祭りはスタンプラリー抽選会に参加した人数は1000人を超えて盛況でした。
川原　なるほど。子供達が喜びそうなアイデアですね。
森島　25、6年前にここを整備する話があって、僕はイラストも見せてもらったんですよね。今ある石のベンチのあたりから「水が流れて、歩く道とベンチがあって」っていうのを見せてもらったんですよね。それが実現できるのならしてもらいたいですね。川もやはりただの防災工事じゃなくて普段流れているときは、子供達が遊べるような、降りられるようなのができたら嬉しいです。
川原　これはみなさん思っているんですね。
森島　でも暴れ川なんですよ。大雨が降るとドーンと増えて、降らないと一気になくなっちゃう。それを両立させるのは設計上難しいのかもしれないですけど、1番の希望は子供達が下に降りて遊べる様な、そんな川になってくれたらいいな。
川原　やっぱり今でもドーンと増水するんですか？

森島　そうですね。
川原　消防団としてはいつも待機していたりするんですか？
森島　台風の時はそうですね。
青木　西氷川橋でところで、流木か何かが橋桁に引っかかってしまって、道路に水が氾濫しちゃったんだよね。
川原　それはいつ頃ですか？
森島　12、3年前ですね。
川原　今もその時と川の状況は変わってないですか？
森島　強いて言えば青葉橋の上流面が今は陸地になっていますけど、あそこには水が流れていました。堆積で砂利がだんだん積まれていって今の状態になっている感じです。
青木　だから水の抵抗が少しなくなったんだよね。
川原　なるほど、少しのことで流れはだいぶん変わりますもんね。

高尾山に観覧車があった！？

中村　昔はあって今はないものとかってありますか？
青木　高尾山にゴンドラ（観覧車）があったのは知ってる？今のビアガーデンのところ。ケーブルの上のね。
森島　あ、あったね。ゴンドラが5つくらい付いていたんですよ。で、今のビアマウントの所で人が乗っていて、下からでもいくらか見えましたね。
中村　それいつくらいのお話ですか？
青木　戦後ですね。
森島　あれは、墜落事故で焼けてしまったんですよ。釣っているロープが切れて、焼けちゃったんですよ。
中村　わー怖い。
森島　ロープが切れたのは50年くらい前かな。
佐藤　高尾橋のところに立っているとゴンドラが見えましたね。
青木　それで八王子市内も見えました。

高尾ならではのお土産

川原　高尾山ならではの物とかってあったりしますか？
森島　父親の実家でうぐいすぶえを作っていたんです。知っています？うぐいすぶえ
川原　竹で？
森島　そう、細い針金で上に鶯を乗せて。本の写真にも載っています。僕のおじいさんです。
中村　え！なんていう本ですか？
森島　江戸の元興かな。
川原　それはこの辺りでのお土産ですか？
森島　そうですね。父親なんかも連れられて高尾山の参道で吹いたって言ってま

したね。
川原　そうなんですか。
森島　今、これを作れる技術の人はもういないらしいです。
川原　なるほど。そういうのが今もお土産としてあるといいですよね。

クリーンな高尾を守るために

川原　ここ数年で観光客がどーんと増えていると思うんですけど、住んでいる皆さんにとっては何か変わったこととかってありますか？
青木　高尾山に三つ星ができて、観光客が増えたので、氷川神社も自然と人が増えていきました。でも逆に弊害もあるでしょうね。
森島　僕は事業者の立場として、町会員が約135軒ある中、観光事業に携わっている人は50軒くらいなんですよ。特にお勤めのサラリーマンの方なんかは土日祝日なんてゆっくりしたいですよね。そういう人たちがゆっくり出来ないくらいお客さんが増えてきちゃっているのは、なんだか申し訳ないかなって。だからせめてもという意味で、公園に住み分けができるような場所や通勤通学で使っている通り道と、お客様の通り道が同じなのを住み分できる様にデザインしていただけたら、なんか気持ちが少し楽になるなと思いますね。
川原　なるほど。サラリーマンも結構いらっしゃるんですね。
森島　昔は70パーセントは、観光事業に携わっていたんですけど、今は逆に70パーセントはお勤め人さんで、残りが観光事業者という感じですね。
川原　なかなか難しいバランスのところですね。
森島　だからお勤めの方には申し訳ないなと。せめて観光客がマナーを守って貰えていればと思うんですよ。例えばゴミの問題だとか。
岡崎　一番目立つマナー悪いなと感じることはなんですか？
森島　やはりゴミ捨てですね。外国人観光客も増えてきて、うまく伝わっていないケースもあります。
青木　ゴミの分別せずにビニール袋に入れて川に放り投げてしまうとかも見られますね。
森島　ゴールデンウィークに、麓のところでゴミが詰まってしまったんですよね。こっちも商売しているので気にしていたんですよ。それで、ちょっとでもゴミがたまると近所の人が必ず片付けていたんだけど、ちょっとした隙に置かれてしまうんですよね。そうしたら、清掃車3台分もゴミが溜まってしまう。
青木　えーそんなにきたの？！
川原　一人置くとみんな置いて行っちゃうからですよね。
森島　ゴミの山が三つできちゃったんですよ。全然分別されていない。
川原　どの辺りですか？
森島　青葉橋の向かえの上りのところです。
川原　清掃車3台はいつ頃の話ですか？
森島　10年くらい前ですね。ゴミ箱撤去も、始めた頃はお客様から、かなりブーイングを食らいましたね。
青木　ゴミ持ち帰り運動の発祥地ってわけですからね。
川原　そうですよね。
森島　当時はゴミ箱を撤去したら、いろんな市町村から視察がきましたよ。
岡崎　えーそうなんですか。
森島　最初は「こんな観光地に二度と来るか」とすごくバッシングを食らったんですけど。でもよく来るお客さんとかはだんだんとわかってくれて。
岡崎　山ってそうですよね。
森島　そうやって今この山があるんですよ。
川原　なるほど。そうやって商売をしている人たちが頑張っているのですね。
森島　お客様がまた来ようと思って帰れる様にみんなが一生懸命なんですよね。お勤めさんの中にもそういうことをしてくれている人もいますし。

久保田　忠明さん

千代乃家店主、高尾料飲組合組合長

～次世代が描く高尾への思いを熱く語る

昔の川の様子

甲田　まずは、最初にこの麓のあたりや案内川の思い出などをお聞かせいただけたらいいなと思います。

久保田　私が小学生くらいの時は、夏休みって言ったらまず朝５時くらいから山にクワガタを取りに行くんですよ。それで朝ごはん食べて野球の練習なんかして。で、暑くなったらほとんど川ですよね。魚を獲ったりだとか、ほとんどそんなことをやっていたかな。

川原　川はどの辺りで遊んでいましたか？

久保田　TAKAO599MUSEUM の先の方に、ちっちゃい橋があるんですけど、祈祷殿があるところあたりに。その奥のところに小さな滝があったんですよ。昔は水量があったからね。この辺ではよく遊んでいましたね。だから是非、これからもこういうところで遊んで欲しいなと思いますね。

甲田　子供の頃はよく遊ばれていたのですね。今現在というか、大人になってから川との関わりって減っていきますか？

久保田　今はどっちかというとサーフィンで海の方に行っちゃってますね。でも若い時は結構バーベキューとかしていましたね。

甲田　バーベキューはどの辺りですか？

久保田　裏高尾の方。そこに五丁目の会館があって、そこに町会のテントが結構あるんですよ。で、夏に子供会とかでキャンプに行ったりするんですよね。中学生の時は自分たちでテントを借りて、裏高尾の方まで自転車で行ったりだとか。高校生の時はオートバイにテントを積んでキャンプにいきましたよ。

甲田　そこへ遊びに行くのは、地元の方の定番みたい

聞き手：川原、野田、甲田、古谷（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、大木（八王子市管理課）
調査日：2018 年 6 月 27 日

な感じなんですか？
久保田　そうそう。私の時は色々あったんだけどね。うちの娘が今大学生ですが、小学生のころまではやっていました。でも今は、そういう活動をあんまりやってないんじゃないかな。子供が少ないですからね。
川原　なるほど。その時の親の繋がり、お父さんたちの繋がりとかってまだあったりしますか？
久保田　そうですね。お神輿を一緒にやっているので。あとは消防団だったころの関わりが今でも多いですね。

理想の川の様子

久保田　先日、旅行に行った時に、納涼床で呑んだんですけど、やっぱねすごい雰囲気が良かったんですよ。
甲田　わかります。
久保田　だからこの辺も、そこの雰囲気と同じようにできたらいいのになって思います。鴨川は、若い人が等間隔で座っているのよ。
甲田　カップルとかですか？
久保田　そうそう、そんな景色をちょっと思い浮かべたいなっていうのがあるんですよね。ここも夕方になると、椅子があるところには結構カップルが座ったりするんですよね。だから席がバーっとできたらいいかなって思いますね。
甲田　なるほど、いいですね。
久保田　TAKAO599MUSEUM の前に芝生があって、そこに夕方になるとバーっと座っているのは、今まで高尾にない風景だって思ってね。新鮮でいいですよね、せっかくこんなに綺麗な川もあるわけですし。
甲田　TAKAO599MUSEUM が出来てから、カップルや若い世代の観光客も増えていった感じですか？
久保田　そうだね、それからミシュラン三つ星があったのも影響しているのかな。あとは、山ガールとかって流行っているからね。私がお店で仕事をするようになった頃から比べると、若い人が増えたのかなって思いますね。
甲田　そういうのはお店をやっていて実感されるのですか？
久保田　それはありますよ。若い人とか、あとは子供連れがいる人とかね。これからの高尾山を思うとそういう方に合わせた方がいいのかなと思いますよね。
川原　TAKAO599MUSEUM に来る人も山に登るっていうよりは子供を遊ばせるために来ている感じですか？
久保田　そうそう、夏は TAKAO599MUSEUM の前に水路があるんで、結構水遊びをしに来ている人なんかもいますよね。
甲田　そうですね。遊んでいますよね。
久保田　ただ、ちょっと炎天下だから、もうちょっと木陰になるようになればなって思うんですよね。私の娘はよく小さい頃、府中の森に行ったんだけど、あそこは水遊びが出来て、さらに森になっているので結構夏場は子供たちが多いんですよね。そのイメージで TAKAO599MUSEUM さんにも敷地の北の方から、水を流して川に繋いでほしいと頼んだんだよね。でも、水を川に流すっていうのが問題あるって言われて、実現できなかったんだよね。その時は、TAKAO599MUSEUM の広場から川の方へ降りられるっていう提案があったんですけど、それもなくなっちゃった。もしこれからの川の改修があるならそういう感じもいいのかなって思いますね。

川の生き物たちの様子

川原　この辺にも少し川へ降りられるところがありますよね。
久保田　そうなんですよね。それで川が遊んでいい水質なのか、あとこの辺にカジカガエルが生息しているので、それに影響がないかとか。それからいずれここに蛍も呼びたいなっていうのがあって、ここを工事してしまうと、蛍もちょっと逃げて行ってしまうのかなっていうのが気になります。
川原　蛍は今でも見られるんですか？
久保田　この辺りはわからないけど、ケーブルカーの脇の川には結構いるんですよ、前は飛んでいたんです。今はビアガーデンが始まっているからケーブルカーで一気に明かりが付いたりす

ると分かりにくいんですよね。

川原　そういう意味で、環境が整えばまた見られるのではないかということですね。

久保田　そうですね、あそこにいるのだから、こっちにいてもおかしくないかなっていう。ずっと行くと多摩御陵あたりの方にもいるんですよね。

川原　蛍やカジカガエルは綺麗なところにやっぱりいますよね。

久保田　そう。昔ね、うちの親父がケーブルカーで働いている時に、蛍を増やそうと養殖しようなんて話して、山谷小学校の蛍の先生に指導を受けたんですよ。でもせっかく増えたと思っても、台風とかで流れてしまうみたいで居なくなってしまうんですよね。だから河川工事をするとなかなか蛍が出てこられなくなっちゃうのではないかと思うんだよね。やっぱ川が綺麗じゃないとダメなんだよねー。

川原　ちょうど今の整備をやるのも、そういう住みやすい環境を目指しています。

お山の信仰

甲田　今までは川のことについて聞いたんですけど、もうちょっと高尾全体で考えた好きな場所や、風景ってあったりされますか？

久保田　そうですねー、実は地元にいるとなかなか山に登る機会がなくて。でも年に一回、高尾山のお寺に泊まろうっていう会を作ったんですよ。で、例えば大きいお寺に行くと、周りに旅館とかあるんですけど、高尾山ではそういうのは出来なかったんですよ。何でかっていうと、薬王院自体で泊まれるものをやっていた宿房ですよね。だからあんまり下の方に旅館が出来たりはしなかったんですよね。

で、意外とみんなそういうのは知らないみたいで。

甲田　へー初めて聞きました。

久保田　私たちは地元なので仲の良いお坊さんと、高尾の朝の修行を「護摩の修行」っていうんだけど、毎朝5時くらいからやっているんですよ。それを是非地元の人にも知ってほしいという話をもらって、やっています。もう三年目ですね。朝5時に山に登るっていう機会はまずないですよね。霧が立ちのぼっていて、幻想的な風景があって。それから修行をやってお坊さんがついてお経をあげるんですよね。高尾にいても知らない風景っていうのがあって。高尾も富士山の信仰があるだとか、縁があって出来たんだなって、地元でも知らないことってありますよね。

甲田　お寺に泊まる会っていうのは地元の集まりみたいなんですか？

久保田　地元が多いですね。ただ、一回出たら必ず2回目も、3回目も来るんですよね。やっぱり高尾は若い人も含め、みんな信仰が深いですよね。

川原　なるほど。

久保田　観光の山というよりはどっちかというと信仰の山って感じですね。だからみんな「お山」とか「お寺」とかっていう呼び方をするんですよね。お山＝薬王院なんです。

川原　若い人も信仰が深いっていうのは今回初めて聞きました。

久保田　若いといっても、私たちの世代ですね。

川原　お父さんの代からそういう信仰を受け継がれたんですか？

久保田　まあそうでしょう

ね。正月、5月、9月、12月に、農家の方は必ずそういう時期にお参りしたと言われているんですよ。お寺の参道のところに名前が書いてある札があるんだけれど、あれは12月にお礼の護摩を焚いた人が、あそこに名前が書かれるんですよね。だから大体、地元の人はあそこに名前が書いてあるんです。私は正月、朝1番の護摩を焚いてもらっているんですよね。それで12月に最終的にお礼の護摩を焚いてっていうのが年に二回です。あとは泊まりに行くときに焚いているかな。こうやってずっと小さい頃からやってきているから、やっぱり高尾で商売している以上はね。今は結構、外から商売しに来る人も多いかもしれないけど、元々は高尾山にお参りをしたっていう人が商売していたんですよ。だから、高尾山、ケーブルカー、商店街に関わっている人は、お寺に対しての敬意や信仰がありますね。

川原　そういう繋がりは大事ですね。

久保田　きっと地元がそうだったら、同じ気持ちになると思いますよ。

川原　娘さんの代になってもありますか？

久保田　うーん。なんか不思議なことがあるんですよね。震災の時に娘が小学校くらいで、電車に乗ろうと思った時に揺れてしまって、止まっちゃったんですよ。そしたら、たまたま知り合いのお坊さんがいて、一緒にタクシーで帰ろうって言われたみたいで。ちょっとだから霊感じゃないけど、そういう繋がりがあるのかなっていうのはありますよね。体調を崩した時も、お坊さんに来てもらって、なんかやってもらったり。だから、これが普通なので、なんか心配事があったりした時は、お経を唱えてもらうみたいなね。

甲田　そういうのは、高尾の人はみんな当たり前みたいな感じなんですか？

久保田　そう。車や自転車を買った時だって、祈祷殿にお参りするところがあって、そこでちゃんとやってもらいましたね。それがもう普通になっているから。

甲田　あー根付いているんですね。

久保田　そう、やらないと違和感があるというか。初詣とかも同じところに行くっていうのは、たまたま行かなかった時に変なことがあったとして、結びつけてしまってっていうのがあると思うんですよ。だから毎年同じところに行っちゃうのと同じなんだよね。だからずっと高尾山でお参りをしているから、それが抜けちゃうと違和感があるっていう感じですね。

お山への思い

甲田　信仰の山としての高尾山がある一方で、観光客の方で、ハイキング目的で増えている状況もありますね。地元の人としては、もうちょっと信仰の山として見て欲しいというのはありますか？

久保田　うーんと、高尾山に初めて来たお客さんに「どのコースがいいですか？」って聞かれることが多いんだけど、初めてだったらまず、下から歩く場合は1号路、ケーブルカーを使う場合はお寺に行って欲しいっていうのはよく言うんですよ。まずは、お参りしてから山頂に行くのが一番良いのではないですかってね。あとは次に来る時も、違うコースで行くのは良いと思うけれど、とりあえずは1号路で山道を歩いてもらって、お参りをして欲しいっていうのは必ず言いますね。特に今はほとんどガイドブックとかを見ながら来るから、それはしょうがないけれど、やっぱりお寺に寄って欲しいっていうのが本音ですね。

川原　信仰の山であるっていうのは理解して欲しいと言うことですね。

久保田　そうですね。若いお坊さんたちも大紫護摩（紫のお餅のようなもの）っていうのがあるんだけど、年に二回くらい焼くんですよ。それを7月と12月にお焚き上げっていうのがあって、それを高尾のケーブルの前でやりたいなって言う話があって。ずっと調べて行くと昔、新宿の広場のところでその大紫護摩をやっていたという記録が残っていたりするんですよね。

川原　どこでやっても良いものなんですね。

久保田　そうなんですよ。

ただ米を炊くからケーブルの駅前でやるのはなかなか許可が出ないんですよね。

ゴミ持ち帰り運動

甲田　高尾山はゴミが少ないで有名ですけれど、何か取り組みとかってされているんですか？

久保田　昔、週に一度清掃活動をやっていたんですよね。山を綺麗にしようということで。その時の親父の提案で、高尾山のゴミをなくそうっていう。昔はゴミがたくさんあって、それを動物が漁ったりしてすごい散らかしたんですよ。

川原　まさにお父さんがそれをやったんですね。

久保田　そうですね。で、山のゴミをなくしてから、当然ゴミ拾いも始めてそのまま定着していって高尾山の「ゴミ持ち帰り運動」ってことになったんですよね。昔は高尾山に、カラスがいたけど今カラスがいなくなったって話をしていましたもんね。

甲田　確かにそうですね。

高尾の期待の星！若手の方々

川原　河川の整備をするときに川の近くのオープンスペースをもう少し使いこなせたら良いなっていうのが全国的にもあって、その中で地元の皆さんの意識っていうのはどういうものなのかっていうのを、特に若手の皆さんの意見を聞きたいです。

久保田　TAKAO599MUSEUMができる時もそうだったんだけど、蓋を開けて見たらその施設でしか人を呼ぶものでしかなかったんですよね。もう出来てしまっているから仕方ないのだけど、地元はそれが出来たことによってバーンと人が来るっていうのを期待していたわけですよ。だから、温泉にしても、何にしても。結局そのものを作ったことによって、人が来たわけじゃなかったので。TAKAO599MUSEUMさんが施設内で何かをやったら、うちももって行かれておしまいなんだなっていうのが正直あるんですよね。

川原　やっぱり感覚としてはそういう感じなんですか。

久保田　そういうのはみんな感じているのではないかと思います。だから、あまり市に期待を持っていないんですよ。今でも、今回は出口が決まってないということで、協力しようと思ったんですよね。TAKAO599MUSEUMさんには、地元の人が飲食関係は一切行わないでと言っていたのに、カフェがありますし。まあ、施設にカフェがあることは当たり前といえばそうなんだけれど。それから、TAKAO599MUSEUMにいくら人が来ていますと言っても、トイレだけの使用とかでもカウントされるわけで、さらに出入りしている人は二回カウントされるわけじゃないですか。だからこれだけで人が来ていますって言ってもあんまり信用できないですよね。

川原　そうすると、水辺沿いにみなさんと一緒に作りたいと考える時、何かちょっとしたカフェがいるのかなと思っていて、それを外の人がやるよりは、地元の人が店をやってくれたらというイメージを持っていたのですが、ちょっと違うでしょうか？

久保田　飲食は多分作らない方が良いと思います。

川原　やるとしてもイベントの時とかですかね？

久保田　イベントの時というより、閑散期にできると良いかもしれないですよね。でも、高尾山は露店商を無くしたっていう「クリーンな街」っていうのがあるんです。だから、いくら自分の敷地だからと言ってもやっぱり地元のルールがあるのでなかなか難しいところですよね。

お土産開発の難しさ

川原　私の感覚でいうと、高尾山にはあまりオリジナルのお土産とかが少ないかなとか、意外と別のところから持って来ているという印象がありますが、どう思われますか？

久保田　そうだよね。結局うちは自分達で作っているんですよ。もともとそういうお土産屋さんってなかったみたいで。有喜堂さんが高尾で唯一のお寺に高尾まんじゅうと高尾せんべいを入れたんですよね。そのあとにケーブルカー前の売

店っていうのは、もともと農家の方が住んでいて、この土地で商売しても良いよってもらったみたいなんですよ。

川原　じゃあ元々の地主の人がお店をやられているんですね。

久保田　そうですね、ケーブルカーとは別ですね。受け継いだのです。

川原　あーなるほど。じゃあ受け継いだのは、もともとのブランドっていうか名前を使っているのですか？

久保田　そう、もともとやっていたんだけど、ケーブルカーが出来てからあそこで始めたんですよね。オリジナルのものを自分のところで売るっていうのは何千万もかかるので、そのリスクを背負う人が少なかったのかもしれないですね。

甲田　さっきお話に出た若手の方々と、高尾としてこういう商品を作ろうみたいな話は出たりしますか？

久保田　うーん、なんていうか天候に左右されることが大きくて、雨が降るともうダメだし、個人でリスクを背負うのがなかなか難しいんですよね。だから、ケーブルカーだとかそういう大手の会社が頑張っちゃうのかなっていうのがありますよね。若い人は新しいものを作ろうかってなるんですけど、お金がかかるので大変ですよね。だったら作ってもらった方がいいのかなっていうのがあります。

若手が考える、遊びも全力で！

甲田　若手の方たちの集まりの中で、今後はこうしていこうみたいなのってあったりしますか？

久保田　基本的に遊んでいる時には仕事の話はしないですね。遊ぶ時はしっかり遊んで、プライベートも仕事も両立させています。旅行とかみんなで出かけることが多いですね。

川原　なんかお話を聞いていて、その皆さんでやっている姿こそが観光だなって思っていて、それが一番、外の人から見ても興味があることだと思いますね。

久保田　遊びの中でも高尾らしさみたいなのはありますね。キャッチフレーズがあって「伝説を作れよ」っていうね。

川原　はははは。毎年誰かが。

久保田　そうです、面白いですよね。

川原　思いつきですけど、そういう大人の遊びが、地元でも遊べる場所があればいいなっていう。水辺とかですかね？

久保田　そうですね、それこそ水中スイカ割り大会！

野田　いいですね。次の伝説はここで作るっていう。

秋間 薫さん
高尾町五丁目町会相談役

秋間 ハマさん

～温厚な元町会長が、今の高尾について胸の内を語る

高尾の昔の様子

甲田　本日は秋間さんの昔の高尾の思い出や、今後の高尾についての思いについてお聞きしたいと思います。

薫　私ね、ここの生まれじゃないんですよ。うちの嫁はここにずっといるんですけど、私がここに来たのは昭和41年なんです。

辻　元々はこの家は奥様のご実家だった場所なんですか？

薫　そうですね、そういう外から来た人が多いんですよ、この辺はね。

甲田　ちなみに元々はどちらにいらっしゃったんですか？

薫　僕は群馬ですよ、群馬産。

甲田　当時はお仕事もされていたようですが、本当に高尾に毎日のようにいるというのは、定年されてからですか？

薫　若い時は全然いなかったですね。だからね、若いときの歴史っていうのは私自身はわからないんですよ。ただこの前、町会の50周年を私が副会長の時にやったものですから、その時に記念誌を作ったんですよ。そこでね、町の歴史については資料を借りて勉強しましたね。当時は、ここの前も旅館だったんですよ。

辻　旅館があったということをお聞きしたことがあります。

薫　ここ（高尾山）の上の方にもありましたね。佐藤旅館っていうのがありましてね、そこに終戦後は相当人が来ていたんですよ。

ハマ　おそらく7軒か8軒はあったんじゃないかな。子供がいっぱいいましたよ。

甲田　その旅館は今はもう、

聞き手：甲田、中村、青木（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、辻（八王子市都市計画課）
調査日：2018年6月28日

全てやられていないんですか？
ハマ　やってないですね。何十年か前にやめましたね。二軒茶屋っていうところは結構有名でしたよ。
薫　昔は山の上がだいぶ賑やかだったらしいですよ。
ハマ　古い歴史のある薬王院があったため、人がそこに集まり、分教場もそこにあったんですよ。
辻　山の上ですか？なるほど、住んでいる方がいて、子供達がいて、という感じだったんですね。
薫　郵便配達も、裏高尾から高尾に上がっていたらしいんですよ。ここ（高尾山）の麓の方は、比較的新しいんです。だから、峰尾っていう苗字が多いのは、裏高尾の峰尾じゃないかと思うんですよね。
甲田　そっちの集落の方から来られたっていうことですね。
薫　そしてケーブルかーと京王線ができたんだけどね。ケーブルカーが出来た機会に、表高尾っていうところが栄え始めたんですよ。
辻　以前には路面電車が来ていたともお聞きしました。

川の様子

薫　橋本屋さんの前あたりに船を浮かべていたらしいですよ。屋形船をね。
辻　今よりも全然水が多かったというお話をよく聞きますね。
薫　もっと深かったですからね。以前は相当な深さであったんでしょうね。今の川は駅の前あたりで平らになってしまっているでしょう。
辻　そうですよね。
薫　直したらしいんです。だから、深さがずっと続いていたんですよ。水田やそういうのがあって、駅の前あたりの川の水を使ってたらしいですね。それをきっかけに直したみたいですね。
甲田　農業用水にということですか。
薫　そういうのもありましたし、色々あったんだと思いますね。
ハマ　私が知らないときですから、相当前だと思いますね。
薫　だから明治・大正時代ですかね。
ハマ　昭和初期か、明治ですね、きっと。
甲田　生で見たことはないんですか？
薫　ないですね。
甲田　そんなに前なんですね。
ハマ　私は船が置いてあるのを見ています。何十年か前ですね。案内分校というところに私たちは行っていたので、今は廃校になっているところなんですけどね。45 人くらいいたんですよ、1、2 年生でね。あの当時は多かったんです。
辻　1、2 年生があちらで、3 年生からは浅川小学校に行かれたんですね。
ハマ　そう、本校、浅川小です。
辻　小さいですもんね。お山の上にもあったんですね。
ハマ　お寺があったから、寺子屋みたいにしていたんでしょうね。昔はお山の上に結構人がいたんじゃないかと思うんです。
薫　お山の上は商売人もいたし、その頃は賑やかだったらしいですね。
辻　麓よりも賑やかだったんですかね。
薫　先にケーブルカーや京王線ができたためにね、麓の方がメインになったんですよね。それから甲州街道がずっと繋がったのがこの明治、昭和初期かなんかでしょう。だから、それまでは農業中心のところだったみたいですね。案内人が出て、高尾山に来た人をこっちの道もありますよ、こっちの道もありますよ、みたいに。案内が盛んだったらしいですよ。
辻　盛んだったというのは？
薫　裏高尾が旧の甲州街道でしょう。だから、あの道がメインですからね。
辻　裏高尾の道は山越えの道みたいな感じですか？
薫　道はあったらしいですね。ただ、道はあったらしいけれども、要するに道路が開通したのは甲州街道だからね。その前の甲州街道は向こうなので、表高尾の道の方が遅いんです。その前は、高尾山を案内する人と、農家が中心だったらしいですね。だから、この辺の人は農家の人が多いんですよ。
甲田　そうですね。今も少し残っていますね。
ハマ　でも、親戚の上の店

があるんですけど、その子は今はいないけど分校に通っていたんですよ。山頂の一番てっぺんから、ケーブルカーで。それで、私たちの時は、お寺の子とか山頂の子は、ケーブルカーで山から降りてくるんです。そして、一番のバスを乗り継いで、高尾の駅に行くんですよね。たまに歩いて行ったときもありますよ。

中村　どのくらいかかるんですか？

ハマ　そんなに、思ってるほどではないですよ。4、50分で行けてしまうと思いますね。

辻　でも降りて来てから、時間が結構かかりますね。

ハマ　だから山の人は足が強いですよ。とんとことんとこ本当に速いんです。

遊びの思い出

甲田　昔は川で遊ばれたりしましたか？

ハマ　そうそう、泳いだりして、道路で寝転んだりしましたね。道路で身体あっためるんです、車通らないから。ただ、舗装があんまりよくなかったんですよね。

中村　砂利ですか？

ハマ　砂利はあまりありませんでしたね、コンクリみたいなところで身体を温めていましたよ。のどかな時代でしたね。川の流れで泳ぐの覚えるんです。流れに沿ってね、小学校1、2年のころ。もう70年近く前ですね。車なかったですもんね、あの当時は。

薫　TAKAO599MUSEUMを作るときに、我々が一番お願いしたのはこの裏にもみじ児童遊園というのがあるんですよ。この公園は小さいんですけどね、これが今は全然使い物にならないんですよ。それで、平成14年に案内分校が廃校になったので、案内分校へ持って行ってくれって言ったんです。児童遊園は駐車場にしてもいいのではないのかという話を言ったんです。木を植えてもいいですし。山の帰りにTAKAO599MUSEUMに栄茶屋の下から入ってくるでしょう。スペースがあってもいいのではないかと言ったんです。でもダメだと言われまして。現在も存続していますよね。子供はね、前はTAKAO599MUSEUMのところで遊んでいたんですよ。それがね、今は全然できなくなっちゃったんですよ。ですので、今使われていない公園を、案内分校の方が空いているんだから持って行ってくださいって頼んだんですよ。

辻　TAKAO599MUSEUMでは、遊べないんですか？

薫　あそこですと、もう野球とかはできないじゃな

案内川を堰き止めて天然のプールで遊ぶ子供たち
出典：高尾町五丁目町会創立五十周年記念

いですか。そういう広場が必要だっていうことなんですよ。

ハマ　昔は薬王院の駐車場でやってるなんて言ってましたね。栄茶屋の裏側ですね。今薬王院の駐車場になってるとこです。

薫　そこタンパって言っていたそうなんです。

甲田　タンパっていう遊び場ですか？

ハマ　タンパっていう場所ですね。

薫　タンパっていうらしいんですけど、全然わかんないですよね、なぜタンパっていうのかについては。誰に聞いても。昔からの人に聞いてもわからないんですよね。昔ね、電柱をなんか操作したらしいんですよ。昔、電柱は、今はコンクリートですけど、木だったわけです。それの処理作業場だったらしいんです、どうやら。

ハマ　結構広いんですよね、火渡りなんかあそこでやっていたんですから。

中村　どのくらいまでそこで遊んでいたんですか？

ハマ　私たちの子供も遊びましたね、小さい頃なので、40年くらい前までですかね。

高尾の好きなところ

甲田　高尾の中で普段生活をしていて、こういうところが好きだな、お気に入りだなと思うところはありますか？

ハマ　長く生きているとね、夜景の光が全然昔と今と違うな、と感じますね。夜景の光の輝きがもう今はものすごく広がりましたね。昔は上から見ても暗かったんです。

甲田　やはり、お店とかの明かりも変わっているんですね。

ハマ　照明がね、山頂から見ても、冬なんかも下がすごく明るいですね。

薫　水だって、水だけじゃなくて青葉があるっていうのはいいところですよね。

甲田　夜景が明るくなったことについては、個人的にはどうお思いですか？よくなったことという風に思いますか？

ハマ　綺麗だけどね、ビアガーデンのところから観るとすごいんですよ。お山から見た下の景色が綺麗なんです。お父さんはあまり行かないんですけど、私は夜たまに山から降りてくることがありますから。仕事で行っていたので、わかるんですが、車から観ると本当にすごいですね。光は変わりましたよ、随分。

辻　八王子市内の夜景がばーっと見えますよね。

ハマ　山の上に行くとね、津久井の方からすごいですよ。世の中変わったし、開けたし、便利になってますよね。

甲田　そうですね。そういう色々変わって、今後、整備とかも含めてどうなったらいいな、というのはありますか？どういう人にきて欲しいとか使って欲しいとか思いはありますか？

薫　どうなればいいんでしょうね。わかんなくなっちゃいましたね。

辻　深く知れば知るほど、わかんなくなっちゃいますよね。

甲田　考えれば考えるほど、ということですね。

中村　様々な人が住んでいますしね。

薫　そうですね、年取って動けなくなったことは間違いないですね。だからやはり、生きるためには品物が、すぐ入ったりすることも大事だと思いますね。その辺りはここはいいとこなんですよ。もっと悪いところもありますからね。家からは、駅まで歩いて10分近くありますけど、俺は歩けないから車なんですね。車がもしなくなったらタクシーかなって思っています。

地域のお祭り

甲田　地域のお祭りの場所は変わったりしてきているんですか？

薫　これまで毎年変わっていたんですけど、去年からは約一箇所になってきましたね。

薫　京王が乗り入れて市営の駐車場を借りてやっていたんですが、やっと一段落した感じですね！

中村　ようやく落ち着いたんですね。

薫　ようやく落ち着きましたね。これまで数十年毎年変わっていたんですよ。

甲田　それも、結構大変ですよね。

薫　駐車場を全部借りたり、一部借りたりね、ロータリー工事してたときは三角地の

ところに舞台を作ったりしたんですよ。ここも駐車場の工事で使えなかったりとか、いろんな苦労がありましたね。

辻　京王さんのところも借りてるんですね？

薫　借りてますね。本宮の日原の獅子舞や５町会の神輿が来るので、結構担い手や付き人達の車が多いんですよ。

辻　神輿は最終的に市営駐車場に溜まっていって、最後に氷川神社のところでということですか？

薫　そうですね。だから市の駐車場を借りるのは１日だけなんです。温泉の駐車場を借りるのは２日間ですね。

中村　いろんなところから借りないと、いけないんですね。

甲田　お祭りというのは観光客の方も来るんですか？それとも地元の方中心に行われているんですか？

薫　最近は観光客が多くなってきた気がしますね。でも、子供神輿を担ぐ人やお囃子を叩く人が少なくなってしまっていますね。登録メンバーは多いんですけど、例えばうちの娘も入っているんですけど、嫁に行ってしまいましたから。これからどんどん子供も少なくなって来ますし、困っていますね。

甲田　もっと観光客に増えてほしいなって思われますか？それとも、お祭りはお祭りで地元の人だけで楽しみたいですか？

ハマ　ビアガーデンの帰りの人が、踊りに寄ってくれるんですよね。そういう時には、輪の中に入ってもらって踊ってって声をかけますね。お茶の時間もあるから、お茶とかスイカとか食べてもらったりね。

甲田　そういうのは、お祭り目当てに来たというよりかは、観光客の人は来てみたら、お祭りやってるんだって感じなんでしょうか？

ハマ　そうですね。音楽とかでわかりますからね。

薫　　神社も京王に頼んで、ポスター貼ってもらってるんですよ。

甲田　他にも観光客の人がまだ知らないけど、こういうところ見てほしいような、高尾の魅力ってありますか？気づいていないんじゃないのか、地元の人しか知らないんじゃないか、と言ったことですね。

辻　逆に気づかれたくない、とかでも構いません。

甲田　隠しておきたい、みたいなものですね。

薫　観光客はやはり、お山だけでいいんじゃないんですかね。

甲田　分けるところはしっかり分ける、といった感じでしょうか。

辻　お祭りに来てもらう分には問題はないですか？

薫　それは問題ないですね。露店商を呼んでいたんですけど、前は露店商は市の駐輪場を借りていたりしたんですよ。でも、町会は露店には絡まないほうがいいよという話を受けまして、それ以降は氷川神社の方に任せていますね。

辻　氷川神社さんの境内のところにありますよね。

薫　昔のお祭りでは、他のところにも露店商を出したことありますね。

辻　お祭りで獅子舞をやっていて、その周りにありましたよね。

ハマ　確か、去年も露店は５店舗くらいは出ていたと思いますね。

薫　最近は多くても露店商は５店舗くらいですかね。

中村　一番多かった時は何年前くらいに何軒くらい出ていたんですか？

薫　10店舗くらいでしたね。多かったのは全部借りていたときですね。もう随分と前ですね。確か、私ここにが来た頃ですから、もう40年前くらいだと思いますね。

辻　お祭り関係で、新しくできる川沿いの広場を使いたいといったことはありますか？

薫　広場は、お祭りだけでは使えないですよね。この地域では、商店が多いんですよね。だから、他の地域のお祭り会場と違って、お店を自分たちで作れないんですよね。

辻　例えば、広場にお祭りの舞台とかを用意しておくことはどうですか？

薫　舞台とかではなくて、本当は食べ物の方が良いんじゃないですかね。

辻　焼きそばとかですかね。

薫　お祭りみたいに露天商を呼ばなきゃダメだよっていうのはどちらかというと

町会側が言ったことなんですね。
ハマ　何もないとね、接待もできないで
すからね。
辻　飲むにしても食べたいですよね。
薫　だから、露天商がなければお祭りらしくないだろうって思っていますね。

秋間さんの変化

中村　今までお話ししてきたような街の変化や時代の変化の中で、秋間さんご自身の変化ってありましたか？
薫　年間の半分は出張だったので、そうですね…。観光に対して見方は変わったと思いますね。この集落は観光なしにはダメだろうということよくわかりました。だから、サラリーマン時代のクラブがあるんですけど、そっちをやめて、地域社会活動をやろうと、思ったわけなんです。それから一生懸命やってみたわけなんですけれども、どうもやっぱり難しかったなと思いますね。人間というのは生活環境が違いますからね。
ハマ　ちょっとねサラリーマンとは性格がね、また違うのよね。
辻　色々な事情がありますよね。
薫　ほんと人、世帯が少ないんだからもっとまとまっていいんじゃないかなと思うんだけどさ、まとまらないんですよね。浅川地区で22町会あるんだけど、一番難しい町会なような気がしますね。

辻　土日がお休みでとかそういう共通なところがあるとまとまりやすいですよね。
薫　だから他のとこは、まとまりがいいんですよ。当該町会長は悪いって言ってるんだけど、同じ仕事分野の方が住んでいますからね。
辻　ここは少し大変ですよね。
薫　お客が観光者であること、また通り１つでも全然違いますからね。お店同士の中も通り１つでだいぶ変わりますからね。

高尾への願い

甲田　今後の願いとしては、地域としてのまとまりをというところですか？
薫　町会から見ればそうですね。もう少し全体でやること考えたらどうかなって思いますね。
ハマ　高尾山をもっとみんなで応援するとかですね。
甲田　もっと高尾山全体で動こう、みたいなところですかね。
ハマ　そういうのが欠けてるかなと思いますね。誰も、付き合って悪い人はいないんですけど、やはり生活をしていく上では自分の商売なり、勤めなりを優先しますからね。どうしても意見の食い違いは世の中どこでも出てしまいますからね。
薫　どこでもそうだと思いますけど、今は、町会役員もやり手がいないみたいですよね。
ハマ　お父さんもね、町会長をやっと次の人に任せられましたね。一人では結構忙しいんです。まぁあっという間に過ぎちゃいましたね。忙しかったですね。
薫　薬王院を大事にして、観光とうまくバランスをとりながら頑張っていきたいですね。

高尾料飲組合若手役員の皆様

千代乃家 久保田 忠明さん／株式会社アーバン 岸本 康樹さん／
川魚にいの 新野 弘行さん／有喜堂 峯尾 直光さん／琵琶家 瀧 光一さん／
つたや 佐藤 知己さん／四季の桜 前田 充広さん／大見晴亭 永濱 文弥さん ほか

～次世代を担う若手世代が高尾に期待することとは

ごみゼロの高尾

中村　案内川を守るために取り組んでいることはありますか？

新野　観光客の方々を迎えるにあたって気持ちよく来てもらうために川の中や外周り含めて、清掃活動は地域でかなり取り組んでいるかな、と思いますね。

中村　それは地域の皆様も参加されるんですか？

新野　商店会でやるのと、あとは町会の方でもやるので、サラリーマンの方も参加していただいていますね。それは川だけじゃなくて、山の上から参道まで全部一体でやります。

川原　それは一緒にやるんですか？それとも分担して行うんですか？

新野　分担というか別々にやりますよね。

久保田　町会は例えばお祭りの前だとか、なんかそういう町会の行事の前にやるんですけど、商店会は観光シーズンにやっていますね。

川原　高尾山は、ゴミゼロが有名ですけど、清掃活動やってててこの辺が大変だとか、やってないと気づけないところってありますか？

佐藤　落ちてたらすぐ拾うことですよね。すぐ拾わないとすぐそこにゴミが増えてしまいますから。

新野　最近は減りましたけど、昔は大雨とかあると上から冷蔵庫とか流れて来て、引っかかってたりしたんですよ。不法投棄でしょうね。

佐藤　まあここで止まればいいんですけど、それが海に行っちゃう可能性もありますよね。あとわざわざ台風の時にゴミを捨てにくる人もいますもんね、ここぞとばかりに。それはゴミだけじゃなくて犬捨てに来てたりとか。

中村　それは最近の話ですか？

佐藤　今の方が少ないんじゃないのかなと思いますね。

聞き手：川原、中村、古谷（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、大木、辻、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 7 月 10 日

峰尾　少ないですよね。
佐藤　汚い川には捨てるじゃないですか、やはり綺麗になっていれば捨てられにくいということはありますよね。高尾山はいま、山自体が綺麗になっていますから。
川原　山が綺麗になったっていうのは水が綺麗になったんですか、それともいろんなもの含めてのお話ですか？
佐藤　ゴミを捨てなくなったっていうのが一番ですね。あとは、山頂まで下水道が整備されたので水自体が綺麗になったんじゃないかなと思いますね。
新野　ただ今は下手すると観光客の半分以上が日本語じゃない人たちなんですね。主に中国語韓国語圏の人が多いので、そういう人たちのマナーというのはこの先どう期待できるんだろうかっていう不安はありますよね。
佐藤　捨てていく人もいるんですけど、拾ってくれる人もいるんです。登山しに来てゴミを拾っていくお客様もいらっしゃいますし、だからすごいバランスが取れているいい街だなと思いますけどね。
川原　それは常連さんなんですかね？
佐藤　高尾山を愛している方でしょうね。
新野　年間 300 日以上来て、いつもビニールとゴミ掴むあれを持って毎日のようにくるっていう人も結構いますね。
久保田　朝来ると何にも関係ない人がお寺の境内掃除してますもん。ケーブルカーが動く前に自主的に来ているんですよね。

薬王院に泊まる行事

川原　商店の人たちが薬王院に泊りに行くというお話を聞いたのですが、お話を聞かせていただけますか。朝泊りに行くと日頃知らない高尾がわかりますか？
前田　朝靄がたっていて、いいですね。霧の状態ですね。
川原　朝って何時頃なんですか？
峰尾　６時くらいですね。日によりますけど。朝は本当に空気がいいですからね。
前田　泊まらないと味わえないですね。
川原　定期的に泊まるんですか？
佐藤　はい、高尾山を信仰している人たちなので。
川原　朝靄が見えて、他にはどういうことがありますか？
佐藤　心の浄化ですよね。
峰尾　元々山の若いお坊さんと一杯飲もうって言っていて、薬王院でいいんじゃないってなったんですね。朝がとにかく一番雰囲気がいいから、１回くらいは泊りに来なさいよって言われていたので。そして３年前に１回行ったら続いちゃいまして、だいたい年に１回くらいですね。とても楽しいですよ。
佐藤　そういう集まりが昔もあったんですけど、ただ最近ずっとなかったので、またそういうことをやってもいいんじゃないかな、ということで始まりましたね。
川原　前もあったっていうのはいつ頃のお話ですか？
佐藤　もっと上の世代ですね。上の代の方達がやっていたんですけど、今回はうちの組合長の久保田さんが音頭をとってやり始めたんですね。
川原　ちなみに薬王院は誰でも泊まれるんですか？
佐藤　はい。宿坊ですね。一般の人は３０人集めると泊まれるらしいですよ。
辻　同じ部屋に雑魚寝ですか？
久保田　行ってみるとびっくりするけどね、ホテル並みのいい部屋があるんですよ。大浴場までかなり大きい、紅葉の形してるんですよね。
佐藤　いいですよ、一回行ってみてください。老舗旅館のようで、びっくりすると思いますよ。
川原　一度学生と授業でお話を聞かせていただいたことがあるんですけど、すごく雰囲気がいいですよね。静かですよね。
佐藤　地元の誇りですよ。

地元の誇りや好きなところ

中村　佐藤さんから地元の誇りという言葉がありましたが、薬王院の他にここは誇れるなというものはありますか？
岸野　誇れるというか、すごいなと思うのは蛍が出て

るんですよね。一号路のところの川と、ケーブルの横の川ですね。
新野　うちの前も出ますよ。大水でるといなくなっちゃうんですけどね。
中村　今年も見られましたか？
新野　うちの前では飛んでましたね。
岸野　ケーブルの横も出てましたね。
川原　どのあたりですか？
新野　うちと琵琶屋の間くらいですね。蛍って明るいの嫌うから、ちょうど川が分かれて細い川に入るところは両側に建物があってあまりあかりが入らないんですね。だから蛍が集まって来やすいので。一時期増えたんですけど氾濫するくらいの大水が出た次の年からいなくなっちゃって、全部流されちゃったんですね。
川原　蛍が増えたっていうのは自然に増えたんですか？
佐藤　いや、組合長のお父さんがケーブルに勤めていて、タニシとかを取りに行って、ちゃんと餌を用意していおいて、それで増やしていったっていう話があるんですね。それはもう20年以上前ですね。それで増えたんですよね。
新野　あと夢のない話をすると、うかいが毎年蛍の夢っていうのをやっててそこから逃げた蛍もいるのかなと思いますね。あとね、お寺の話の後にあれなんだけど、このへんで俺が好きなところというか、いいところというのが規模は小さいけど、氷川神社ですね。これはもうかなり古い神社なのと、このエリア、十何町会の元になる神社なので、いいなと思うんです。ただ京王とかに土地を切り売りしてしまっているので、それは切ないかな、と。参道を電車が横切っちゃってるっていうのは本来ダメだろとは思うんだけど、さらに前のガード下から何から全部切り売りしちゃっているんで、本当に神社の周りしか残ってないというのが残念ですね。歴史はかなり古い神社なんですよね。
中村　お祭りなどはどうですか？
新野　毎年8月に出ています。各町会お神輿を持っていますね。
久保田　6機くらい来てたと思いますね。
新野　6、7機くらい全部、今は警察が車を止める道路の使用許可をくれないので、軽トラとかの後ろに積んで、お神輿をここまで運んで来て、おろして担ぐっていう形で集まってやっていますね。
川原　止めてやるようなっていうのは、ここはダメなんですね。
新野　昔は各町会から担いで来ていたんだけど、何年か前から警察が許可くれないので。
久保田　町会からトラックで運んで来るのは、多分今はもう多摩御陵あたりからなんかは絶対来れないですよ。落合さんのやつは落合公園ってところから持って来るんだけど、それですらきついくらいですから。本当にへとへとですね。
新野　晴れてると、20号沿い、うちの地区だけ一部神輿が行くんですけど、照り返し合わせて50度近くあるんじゃないかってくらいですよ。
久保田　担ぎ手が少ないっていうのもあるんですけど、担ぐの代われって言っても変わってくれないですね。嫌だっていう感じですね。
新野　でもここ何年か、埼玉や山梨やあちこちから神輿の会の人が担ぎたいのか、応援に来てくれるのか、結構来てくれますよね。
久保田　かっこいいお姉ちゃんたくさんいますよね。

次世代につなぐ高尾の整備

久保田　この間俺が要望したことは、川で遊べるっていうのと、鴨川の河川敷じゃないけど夕涼みできるくらいの川にできたらいいなっていうことですね。
佐藤　僕が子供の時、ここの河原には天然のうなぎがいたんですよ。新野さんのとこ入って。蛍もいっぱいいてヤゴもいっぱいいましたね。
久保田　カジカガエルもいましたね。
佐藤　今もケーブルカーの脇あたり入っていくとまだ相当いると思いますけどね。
新野　カジカガエル鳴いてるよ、姿は見えませんけど。
佐藤　うちの道路沿いの川

もイメージ的にケーブルの沢がそのまま延長されてたみたいな。ちょっと色気のある川だったんですよね。

川原　ここは私もずっと気になってたんです。

佐藤　せっかくミシュランとったのにこれはないだろって思いますね。

川原　そういうミシュランとったけどまだ残念なところはありますか？

佐藤　やっぱここの川がせっかく周りの景色も綺麗なのに、なんで川だけこれなのっていう風には思いますよね。

峰尾　川だけじゃなくて道路も汚いですよね。道路もガタガタでしたよね。

新野　山入っても、人が増えちゃったので土の道が削れちゃうんですよね。木の根がむき出しになってそれは前にも市の方ともいかに守っていくかという話し合いはしたんだけど、結局市の方があまりにもセンスがないことをいうんで、立ち切れになっちゃったんですよね。やはり人が増えるということがいい面と自然破壊に繋がってしまう面の両方あるので、俺たちの代だけここで商売していければいいというわけじゃなくて、山の道を守るとか次の世代、次の次の世代につながるような環境づくりっていうのを俺たちの代でやっていかなきゃいけないっていう勉強会はしているんですよね。

川原　それは私も気になっていて、お客さんが多くなると観光地って負のインパクトが大きくなっていきますよね。

新野　もともと山頂が600mあったのに、人が多すぎて削れてTAKAO599MUSEUMになったっていうくらいだから。（笑）

川原　本当にそうなんですか。（笑）

久保田　小さい時600mって頭にありましたね。

佐藤　600mに戻すっていう話もあったんですよ。お客さんに石を持って行ってもらって、600mに戻そうっていう運動があったんです。

久保田　今計っているところは人が入れなくなってるから、これ以上沈まないと思うんですけどね。いつの間にか599mになってましたね。

永濱　昔は600.03mって言っていましたね。でももう599mになったのは大分前ですね。昔は櫓で組んで計測していたんですけど、今はGPSで測って、それでだいぶ正確なのが出てきたんだと思いますね。

昔の川の様子

中村　子供の頃と今の川の様子を比べるとどうですか？

峰尾　それこそ、ずいぶん埋まったというか川の深さが全くなくなりましたよね。

永濱　どんどん埋まっていってますよね。

峰尾　今堰があるところもだいぶ埋まっていますけど、あそこも昔は結構深かったんですよ。祈祷殿の入り口ところにも堰があったんですけど、なくなっちゃいましたよね。

佐藤　埋まっちゃったんですかね。あそこも結構広かったですよね。

永濱　あそこで遊んでましたね。あそこにの釣り堀のじいさんは怖かったですね。

佐藤　もともとこの京王高尾線が入る前はここが釣り堀だったらしいんですよね。

中村　小学校の頃は川には入って遊んでいましたか？

峰尾　そうですね。昔は、こんなに増水が出なかったんですよ。台風とかきても危ないなっていうのがな

かったですね。
永濱　普段より尋常じゃない流れはするけどね。ここまでやばいというのはなかったですよね。
峰尾　溢れたのは北京オリンピックの時が初めてじゃないかと思いますね。京王線の自動改札機が水没しちゃって、あっちの山が全部崩れちゃいましたもんね。
佐藤　やっぱり最近環境の変化なんですかね。
永濱　川っていうのはそういうことも考えないといけないですからね。いじったからそうなっちゃったっていう場合もありますからね。
中村　さっきのカジカガエルとかも川いじっちゃったらいなくなっちゃったってこともありますもんね。
永濱　生態系を狂わせちゃったら最後ですからね。でもそういうところにいる生物って絶対自分たちで何処かに逃げて行くはずですから。
中村　今現在、川にはどんな生物がいるんですか？
佐藤　そうですね、マガモ、アオサギ、シロサギもいますね。
峰尾　昔は結構いたんですよ、魚も。まだ砂利だった時ですね。
佐藤　うなぎもいて、子供の頃はうなぎ捕まえてましたよ。あとは、ヤマメとかもいましたね。
峰尾　今もハヤはいますね。
佐藤　ウグイもいましたよね。

地域の強い繋がり

永濱　高尾って横のつながりが多いんですよ。普通の住宅地ってそんなに繋がらないんだけど、ここって本当に仲がいいですね。ライバルなんだけど仲が良くて話もすぐ通ったりするから、そういう点がこのエリアのすごいいいところだと思いますね。
辻　世代間ギャップというものはあるんですか？
峰尾　あると思いますよ。
中村　お父様世代との繋がりもあるんですか？
佐藤　ありますね。
永濱　自分ちの親よりそういう方がつながりが多かったりするんですよね。自分の親よりもこっち側の親から聞いてることの方が多かったりしますよ。
佐藤　うちの父は永濱さんのところでバイトしてましたね。
永濱　親父さんには世話にもなってますしそういうつながりがすごいんですよね。
辻　地域全体が緩やかな家族みたいな感じなんですね。
峰尾　いい意味でも悪い意味でも田舎なんですよね。

高尾での飲食店経営

川原　営業時間はみなさんまちまちなんですか？
佐藤　結局観光地なので、閉めれないときは閉めれないんですよ。閉めれるときはいくらでも早く閉めれるんですけど、街中のお店と全く逆の方向でやっています。だから営業時間って決められないですね。GWなんか8時くらいまでやっていますしね。
新野　本当に人の多い時には、満席で並ばれちゃってるから閉めるって言えないし、ちょっと天気が悪くて時期が悪いとき、ここ1、2時間近所の人しか歩いていない、っていうときは閉めちゃえってなりますね。
佐藤　フレキシブルに対応しないと厳しいかなって感じですよね。
新野　悪いところの一つとしてミシュランで有名になってしまって、人がいっぱい来てようは観光客の人達がケーブル乗るのに2時間待ち、トイレ1時間待ち、そば食べるのに1時間待ちで、あんなところなんていくかよっていう声が出て来たのと、高尾山なんかで仕事なんかしたら大変な目にあうぞとなってしまい、人を確保できなくなったところですね。
川原　大変だからということですね。
佐藤　保険の担当の人が保険代がかかって大変だって言ってましたよね。ミシュランとったときには、それくらいみんな病気になっちゃいましたね。
新野　毎日15時間くらい働いてるんだから、もたなくなりますよね。秋のもみじ祭りとか力入れてやられても、多い時に捌き切れない時にそれ以上やられても困るし、であるなら、2月とか夏場とかのほうが嬉しいですよね。
川原　そうなんですよね。

戦略的に考えてる観光地は、オフシーズンにイベントをやるんですよね、普通は。

新野　これだけ有名なんだから、秋は来ますよね。

久保田　オフシーズンにイベントは打ってるんですよ。色々やってるんだけど、思ったほどはこないかなという感じですね。

新野　夏場どうしても人は多く見えるけど、ほぼビアガーデンのお客さんで、ビアガーデン以外には関係のない人達なんですよね。だから親水性があって、高尾山は特に夏きてみると涼しいなんてことはないので、夏場子供連れて少し涼しめるような、とかいうイメージのものがあるといいなって思いますね。

久保田　だから川遊びがいいなって思いますね。高尾TAKAO599MUSEUMにそれを期待していたんですけどね。

新野　結局きてなんかあったからよかったねじゃなくて、それがあるから行ってみたいと思えるようなものじゃないと地元としてはあまり意味がないんですよね。

河川整備について

久保田　高尾TAKAO599MUSEUMには本当は人がばんばん来て、商店会が潤うようなことを期待していたんですよね。

新野　あれだけ最後に残った希望のある土地だったのに、はっきり言って市に潰されてしまったとしか思ってないんですよ。あれだったら平地にして公園と駐車場にして良かったとは思いますね。

川原　今後の河川整備については、特にオフシーズンの夏に人を惹きつけるような環境を作れればいいなというのは、共通意見になりそうなんでしょうか。

佐藤　そうですね。少し川遊びもできるといいですよね。

新野　特に商売やっている人はそうでしょうね。ただサラリーマンとかの勤め人もいる中で、そういう人たちは人がいっぱい来るっていうのは、商売していない以上、生活環境が悪くなるだけって思う人も中にはいるだろうから難しいところですよね。

川原　今まで伺っていると昔の川遊びの記憶はすごく大事にされている感じでした。ここでそういう場所が仮にできたとして、ここで何かお金を落としてもらうものを作るというよりは、ここで遊んで参道の方に行くとか、そういう人の流れを川でイメージをしている感じですか？

新野　川で人を呼んでもらって、そこに人が集まるようであれば、周りを循環していろんな商店とか回ってもらいたいですね。そこで新しく何かを作って消費を求めるのではなくて、そこを中心にして周りの既存の店を回って欲しいですね。

川原　みなさんがこういうところにお店のサテライトを出すみたいなイメージはないですか？

新野　ないですね。TAKAO599MUSEUMのような箱物は地元は望んでいないんです。

久保田　露店とかそういう話になるとみんなエキサイティングになると思いますよ。だからどう河川敷で遊びたいのかっていう話だったら全面的に協力します。

新野　納得することをやってくれるということであれば、この地区はすごく協力的だと思います。ただ地元の意向関係無く市がやってやるんだ、っていうやり方をすると、突っぱねるときも半端じゃ無いとは思いますね。

川原　わかりました。河川整備についてはまだ白紙なので、まずはみなさんがどういうことを望んでいるかというところを共有できたので、良かったと思います。

佐戸 勝一さん

高尾町五丁目町会長、防災会会長
～ものづくりが得意な町会長が、今までの高尾への思いを語る

高尾の貴重な暮らし

川原　佐戸さんは生まれた時からずっと高尾に住んでいましたか？

佐戸　はい、ずっとここですね。僕は三代目です。だからまだ新しいんですよね。

岡崎　佐戸さんって名前の方、結構多いですけど、親戚ではないんですか？

佐戸　んーそれはもっと遠い親戚を辿れば繋がるのかもしれないけど、色々分離していっちゃったんだと思うんですよね。

岡崎　なるほど。ここら辺で、昔はあったけれど今は見かけないものとかってありますか？

佐戸　蚕はうちもしていましたね。僕が物心ついた時には、もうしていなかったんですけど。でも他の家では、ついこの前まで蚕をしていましたね。

岡崎　最近までですか？

佐戸　まあ40年くらい前かな。黒川さんの家は、農家だったんですけど、蚕をやっていたんですよ。今は、していないんですけど、桑剥きはやっていましたね、自分の土地に。前はたくさんあったのですが、今は結構切っちゃったんですよね。行けば桑の木だっていうのがわかります。

川原　そうなんですか。蚕の話は初めて聞きました。

古谷　八王子の「絹の道」とは関係はあるんですか？

佐戸　どうかなー。でも片倉製糸っていう、富岡製糸場のような有名な会社があるんですけど、そこでは出荷していた気がします。

古谷　そうなんですね。

佐戸　昔はよく蚕でも遊んでいましたね。まゆの中に幼虫がいて、元気じゃない蚕を弾いたりしていました。

佐戸　生石灰を引いて、上に蚕を被せるんですよ。

川原　佐戸さんのお家の屋根裏とかでもやっていたんですか？

佐戸　やっていましたね。

川原　今も？

佐戸　今は建て替えてし

聞き手：川原、古谷（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018年7月24日

かつてはこの家の屋根裏で蚕を育てていた

まったから。前の家は明治９年に作った家だったんですよ。

古谷　すごい歴史がありますね。

佐戸　昔は屋根が３階だったんだけど、昔の家は天井が低かったからね。

川原　外から見て今は見かけないですが、蚕をやってそうな家は、みんな建て替えちゃったんですかね？

佐戸　そうですね。昔の作りの家というのはですね、黒川さんの家は比較的古くて、以前は草葺の屋根だったんですけど、改築して今は瓦屋根に直したんですけど。でも二階はまだ形や面影が残っていると思います。今も大黒柱は残っているのかなー？

川原　昔ながらの生活って、蚕とかもそうですし、貴重になってくると思うんですが、そういうものって他にありますか？

佐戸　あと、醤油ですよね。

古谷　醤油？

佐戸　そう。お醤油を作っていたんですよ。

川原　どこでですか？

佐戸　各農家で。味噌、醤油をやっていましたね。

岡崎　自分たちで食べるようにですか？

佐戸　そうですね。私の家でも、醤油の樽が残っています。当時の大きいのが。

古谷　えーすごいですね！

佐戸　壊すのは勿体無いからね、そのままにしています。

岡崎　結構大きいんですよね？

佐戸　大きいですよ。人が入っちゃうくらいの。

古谷　バケツとかの大きさではないのですね。

佐戸　ギュウギュウに詰めれば５人くらいは入りますね。

川原　まだ香りもしますか？

佐戸　すると思います。昔の家っていうのは土間があったから、そういうのは作られていたわけですよね。大豆を蒸してそれで一年間浸けておくんですよ。
川原　今も自家製でお醤油を作っているんですか？
佐戸　今は作っていないです。大体醤油を絞るのは春なんですよね。
岡崎　絞るって豆を蒸すということですか？
佐戸　ドロドロにしたものを、麻で出来た袋に入れて積み重ねて、それで上から押すんですよね。絞るわけですよ。そしてぐるぐる回す、それで絞って醤油が出てくるんだけど。そういう業者がいたんですよ、八王子に。
川原　業者がそれを各家にやりに来てくれるのですか？
佐戸　そうそう、各家に泊まり込みで絞っていたんです。二日くらい。
古谷　時間かかるんですね。
佐戸　そう、絞って出た醤油はそのまま使えないから、大きな釜で煮るんですよ。沸騰させるの。
古谷　醤油はどのタイミングで黒くなるんですか？
佐戸　絞った時にはあのような色がしているから。沸騰してアクを取って、アクを取って溜めておいて大根とか煮るんですよ。
川原　佐戸さんが子供の頃の農家ではみんなそうだったんですか？
佐戸　そうですね、大体はそういうパターン。
川原　あまり今まで、農家さんの話は聞いていなかったので貴重です。
佐戸　そうですか。昔使っていたクワとかも、今も取ってあります。

自給自足の生活

川原　農家では何を育てていましたか？
佐戸　大豆はもう必ずですね。おかぶ（陸稲）、小麦。水田できる水稲も。
川原　水田もあったんですね。
佐戸　そうですね、水田と畑がありました。当時は米が少ないから、麦を混ぜていましたね。あと大麦とか。
川原　みんな自給のためですか？
佐戸　そう、みんな自給自足。その他に野菜ですよね。ほうれん草、大根、人参、ごぼう、ごま。
古谷　へー、ごまって育てるんですね。
川原　聞かなかったことにしてください（笑）
佐戸　あとは薩摩芋、里芋。
川原　多種多様ですね。ところで魚とかは食べていたんですか？
佐戸　小さい頃、小学校5年くらいの頃かな、引き売りをやっていたんですよ。高尾駅前にいまは魚屋さんはしていないんですけど、「フジヤ」っていう魚屋さんがあったんですよ。そこの魚屋さんが週一くらいでオートバイク（三輪車のトラック）で夕方に引き売りに来たんですよ。
川原　引き売りって行商みたいな？
佐戸　そうですね。
岡崎　川魚とかですか？
佐戸　ここでは海の魚です。
川原　じゃあこの辺の方達はみんなここで魚を買われていたんですか？
佐戸　そうですね。道路脇に庭がある家があって、昔は道路に車を止めてみんな買いに来たんですよ。それで大晦日になるとカマボコとかも売りに来るんですよ。
川原　子供も、来るとワクワクしちゃうでしょうね。
岡崎　小さい時に豆腐屋さんとかがバイクで来て、ああゆう感じでラッパとかを吹いて来るんですか？
佐戸　吹かなかったですね。大体時間になると来ました。うちの前あたりに止まっていましたからね。それで「魚が来た！」って言って人を集めていましたね。
岡崎　そうなんですか。
佐戸　あとは雑貨。オタマとかそういう日用品。そういう業者も来たんですよ。リヤカーに乗せて。
岡崎　当時は色々来ていたのですね。
佐戸　あとは八百屋も来ていましたね。八百屋もリアカーに。そこにみかんとか入れて行商に来るんですよ。
川原　今も来て欲しいですか？
佐戸　今着てもきっと人が入らないよね。みんな近くにスーパーがあるからね、それから交通の便も良くなりましたもんね。うかい鳥山があるところは、結構坂だから、その辺で遊んでい

佐戸さんの家に残されている醤油の樽

ると「リヤカー押してくれよー」って頼まれたんですよね。それで、ご褒美でみかんとかもらいましたね。
川原　なるほど、そういう思い出があるんですね。

遊びの縄張りがあった？！

古谷　佐戸さんは昔から高尾に住んでいて、小さい頃駅前の川で遊んだ思い出はありますか？
佐戸　僕が子供の時はね、子供の縄張りみたいなのがあったんですよ。周りは田んぼや畑だらけで家はなかったですからね。祈祷殿のあたりも畑でした。分校辺りから参道あたりまで、ほとんど遊びが別れちゃっているんですよね。同じ町内なんですけど、同級生がいても遊ばなかったですね。
川原　それは佐戸さんの代だけですか？それとも代々そんな感じなんですか？
佐戸　代々なのかねー。僕らの時はそうでしたね。夏になると、町会の人が川を堰止めるんですよ。自然のプールを作っているんです。それでそのプールが25メートルくらいになっちゃうのかな。俵とかそういうものを使って川を堰き止めていましたね。深々60㎝くらいありましたね。
川原　他の場所でも、川を堰き止めていましたか？
佐戸　堰ができてからはだんだん場所が移りましたね。小学生くらいの時かな。ちょうど護岸がコンクリートになっているからプールみたいになって良かったんですよね。
川原　なるほど。堰ができたのでプールを作る場所が変わっちゃったんですね。

昔遊びの様子

古谷　川を堰き止めたプールでは、泳いだりもしたんですか？
佐戸　泳ぎましたね。
古谷　昔は魚もいっぱい泳いでいたんですか？
佐戸　魚はもうすごい多かったですね。
古谷　今とは違いますね。採ったりしましたか？
佐戸　子供の時「タコ面」をつけて、今は水中眼鏡だと思うんですけど、昔は丸いやつだったんですよね。それをつけて潜りました。

かつて子どもたちが野球などをして遊んでいた広場は、今は駐車場になっている

昔は大きなヤマメとかいましたね。その時は鉄砲銛って作っていたんですよ。竹を通して、昔の子供達は自分たちで作っていたんですよ。球を切って入れるんですよ、竹に穴を開けて差し込んで、釘で打つんです。自転車のチューブを切ってバネにするんです。昔は自転車屋なんかもパンクとか自分で修理しましたからね。

古谷　えーすごいですね。

佐戸　古い自転車のチューブは取っておきなさいってなっていたんですよね。

岡崎　そういうことなんですね。

佐戸　チューブを切ってゴムのりでつけて、針金で止めるんですよ。

川原　そのうち、ものづくり教室とかいかがですか。佐戸さんは今までヒアリングしてきた中で一番自分でものづくりされる方ってことがわかりました。

佐戸　かなり作っていましたね。

川原　佐戸さんのお友達グループはみんな作るのが得意だったんですか？

佐戸　作るタイプだったと思います。昔は折りたたみのナイフを持って作っていましたね。竹とんぼとかも。

クリーンなまち高尾山

古谷　佐戸さんは防災会会長ということですが、防災やクリーンなまちにするための取り組みとかって何かありますか？

佐戸　うちの町会には防犯パトロール組織があって月3回、各グループに別れて防犯活動をしながらゴミを拾っているんですよ。

川原　それは5丁目町会としてですか？

佐戸　そうだね、防犯パトロールして回るんだったらゴミも拾おうっていうので。

岡崎　最近ゴミは減ってきたんですか？

佐戸　昔は多かったですよね。今は少しは減ってきていますね。

岡崎　登るものも持って帰ろうという感じになってますよね。

歴史と魅力

古谷　昔から住んでいらっしゃるからこそわかる魅力や佐戸さん自身の好きな風景とかってありますか？

佐戸　昔は高尾山のケーブルカーが上がっていくところが見えたんですよ。今は木が大きくなっちゃって見えないかな。トンネルのあたりが見えました。その景色が高尾山だなって思えるし、好きな景色です。
古谷　昔から住んでいるからこそわかることですよね。
佐戸　あとは招魂社。今は駐車場になっているんですけど、紅葉がとても綺麗でした。昔は広場になっていて、野球とかもできましたね。
古谷　今は高尾山に登ったりしますか？
佐戸　あまり登らないですね。登るとしたら正月です。うちは高尾山を信仰していますからね。正月は護摩を焚いていますね。だから年に一回くらいです。子供の頃はよく遊んでいたけれど、今はお参りくらいです。

町会長としての思い

古谷　町会長として、高尾がこうなってほしいみたいな思いはありますか？
佐戸　この町に住んでいる人は、会社員で食べている人と商売で食べている人がいて、考えが違うこともありますよね。町会の運営で色々な活動があって、防災訓練とか色々あるんですけど、なかなかお休みが合わないんですよね。もちろん協力してくれる人もいるんですけどね。
川原　どのようにしたら町会活動を協力的に進められるのかという悩みですね。

この場所も昔は作物を育てていた

佐戸　そうですね、協力していけたらいいなと思っています。

人生の展望

古谷　今度の人生の展望についてお聞かせください。
佐戸　元気だから、これからまた農業を続けて再開しなきゃいけないと思うんですよ。草が生えてしまっても困るので、ある程度綺麗にしておかないと思うんですよね。
川原　今日のお話を伺ったら、なんでもできるから、違う形でなんかこう技術を伝えて頂けたらとも思いました。
佐戸　自分でいろんなものを作ったから覚えているっていう感じですよ。僕たちの年代は創造力がありましたよね。竹馬とかも作りましたね。
川原　是非そういう昔遊びみたいなものを、今の子供たちを集めて一緒に作ったりできたらいいですよね。この場所にあってますよね。
佐戸　そうですよね、できますよね。昔は刃物を使うのが上手ですよね。指に勲傷があります、そういう時代でしたよね。
川原　確かにその、ものを作る創造力を次の世代に伝えていけたらいいですよね。
佐戸　森林センターとかで、できそうじゃないですか？
川原　そうですね、ワークショップ的なものができたらいいですよね。高尾山って観光地だけど、ちょっと前までは、山の生活、畑の生活があったんだなっていうのが改めてわかって、それが残っているのがいいなと思います。

大竹 将人さん

京王電鉄株式会社 開発事業本部 沿線事業担当課長

～駅前開発から地元との連携まで、密接に高尾と関わる京王電鉄

京王電鉄と高尾の歴史

甲田　まず京王電鉄さんの今までの高尾山との関わりの歴史についてお聞きしたいです。

大竹　昭和 42 年に北野駅から高尾山口駅まで都心から高尾山に直通するレジャーラインとして高尾線が開通しました。多摩御陵参拝のための御稜線という路線を活用して、高尾山のふもとまで路線を広げることで沿線開発を推進したいという意図に加えて、もちろん高尾山エリアの活性化も一つの狙いとしてあったと思います。

甲田　電車が走る以前はバスでの輸送もされていたんですか？

大竹　当時は京王帝都（現京王電鉄バスグループ）がバスを運行していました。

甲田　地元の方も京王線ができる前はバスで移動していたとおっしゃっていました。

大竹　そうですね。基本的にはバスです。高尾線が開通するまでは八王子駅か高尾駅からバスか徒歩で行くしかなかったのではないでしょうか。

甲田　京王線ができたということが自分の中でのターニングポイントだったとおっしゃっている地元の方もいました。

大竹　やはり地元に鉄道の駅ができるというのは非常に大きなトピックスだと思いますし、都心からアクセスしやすくなって、高尾山がより身近に登山ができる山として変わっていく一つのターニングポイントだったのではないでしょうか。

甲田　現在の京王さんにとって高尾山はどのようなものとして位置付けられているんでしょうか。

大竹　京王線沿線における重要な観光資源の一つとして位置付けています。京王線に乗って、より多くのお客様に高尾山に来ていただきたいとの思いから、これまで高尾・陣馬スタンプハイク・冬そばキャンペーンといったイベントやイメージ広告を展開するなど、高尾山の魅力を伝える PR 施

聞き手：川原、野田、甲田（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、辻、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 7 月 30 日

策を積極的に展開してきました。

マルシェ

甲田　マルシェも地元の方と一緒にやられていたりするんでしょうか？

大竹　そうですね。八王子の産品を扱っている方や八王子で商売されていらっしゃる方達を出店者として募っています。高尾山口の駅舎改修工事、駅前広場やロータリーの整備をきっかけとして、高尾山を訪れる多くの方々に、地元や八王子に関わりのある皆様のご協力をいただきながら、高尾山はもちろん八王子の魅力を多くの方に発信していきたいとの思いからスタートしました。

川原　私が高尾に関わらせていただくようになったのはもう3年くらい前なんですね。そのときも地元からはマルシェをやりたいといった意見が出ていたんですが、それより前から京王さんの中で話はあったんでしょうか。

大竹　マルシェがスタートしたのが2016年3月ですので、マルシェ検討時期と同じタイミングかもしれません。

川原　元々駅のリニューアル後の駅広の賑わいづくりについては考えていらっしゃったってことなんですね。マルシェの出店者は開始当初とずっと同じお店なんでしょうか。

大竹　出店希望者は年々増えています。直接お問い合わせいただくこともありますが、出店者さんは八王子市内に色々なネットワークを持っていらっしゃるので、そこからご紹介いただくこともあります。

川原　今は毎月やられているんでしょうか？

大竹　基本的には3月から10月の第三土曜日に開催しています。

川原　月によってだいぶ出店者が違ったりもするんでしょうか？

大竹　出店いただけるブースは9つあるのですが、お声をかけるとすぐ埋まるような状況です。その時々により出店希望者の顔ぶれは変わりますし、なるべく偏りや取扱い品目が重ならないように配慮しています。

甲田　今後マルシェを大きくしていくような展開は考えられていたりするんですか？

大竹　駅前広場のスペースに限りがあるため、今の規模が限界だと考えています。

甲田　今駅広で定期的にやっているイベントはマルシェ以外に何かあるんでしょうか？

大竹　季節ごとにイベントを開催しています。マルシェのように物販を中心としたイベントだけでなく、高尾ビジターセンターさんや市

高尾線開業の前日。高尾山口駅に到着した祝賀列車。1967年撮影
出典：京王の電車・バス100年の歩み

開業 2 年後の高尾山口駅ホーム全景と 5000 系車両。1969 年撮影
出典：京王の電車・バス 100 年の歩み

民活動団体の皆さんなどと手を組んで、登山に役立つ情報を発信したり、体験型のコーナーを配置するなど、毎回様々な企画を準備して、イベントを開催しています。例えば、山の日には「高尾山のやまフェス」と称し、TAKAO599MUSEUM さんと連携して、駅前広場に高尾山の動植物の紹介や触れ合いができるようなエリアを設け、ご家族連れやお子さまに楽しんでいただけるコンテンツを展開しました。

甲田　ファミリー層向けのイベントが多いのでしょうか。

大竹　いえ、その時々によってテーマやターゲットを変えて、様々な世代の方に楽しんでいただけるようにしています。

近年の高尾山のプロモーション

甲田　ここ最近の高尾山のプロモーションについて教えてください。

大竹　以前から京王線の駅ホームや車内に高尾を紹介するポスターが掲出されていますが、いわゆるイメージ戦略として高尾の風景を紹介し始めたのは 2015 年頃からではないでしょうか。2015 年は秋に温泉がオープンし、駅舎のリニューアル工事や、ロータリーも整備されて、駅前の印象がかなり以前とは変わった年です。

甲田　京王電鉄さん全体のプロモーションとして、高尾山にはこういった人たちに来て欲しいというものはあるのでしょうか。

大竹　特定のターゲットに絞り込んだプロモーションを意識して行なっているわけではありません。様々な世代の方にそれぞれの楽しみ方で楽しんでもらえたらと思っています。その中で私が担当しているのは、高尾山に来られた方々に高尾の魅力を伝え、楽しんでもらい、また来たいと思ってもらえるファンをいかに作っていくかです。どういった方が高尾山に来られているか等、各方面から情報を収集し、テーマや施策を変えて、反響を見ながらその精度を上げていくようにしています。

甲田　それは健康登山にくる方達でしょうか。

大竹　そうですね。健康を意識した登山に加えて、自然や風景を楽しんだり、様々な楽しみ方をされていると

マルシェで賑わう高尾山口駅前

思います。

川原　今回色々な方のお話を伺って、どういう風に京王さんや商店会など含めて地元で一緒になってやっていけると良いのかなと考えているのですが、京王さんの持っているマーケティング情報を共有するというのはありえるんでしょうか。

大竹　一緒に色んなことをやっていくにあたっては、その都度必要に応じて情報を提供していかなければいけないと考えていますし、地元の皆さんが普段感じたり、聞いたりしている、生のお客様の声もお伺いしていかなくてはならないと思います。

川原　これまでもマーケティング情報を地元の方に伝えるといったことはあったんですか？

大竹　地元の皆さんと連携した販促やイベントについて、その結果や販促効果等の情報共有はされているかと思います。そういった振り返りを元にもっとエリアを盛り上げていければと考えています。

登山電鉄

川原　少し話が変わるんですけど、登山電鉄が京王傘下に入ったのは一昨年の3月ですよね。地元の反応はいかがですか？

大竹　これまで地元の方から直接反応をお聞きしたことがないため、具体的には何か申し上げることはできませんが、これまで通り地元企業として、引き続き一体となってエリアを盛り上げていきます。

川原　経営のやり方が変わったとかいうことはあるんでしょうか？

大竹　京王電鉄グループの出資比率は上がりましたが、役員構成は常勤役員が一名加わっただけです。

甲田　新しく高尾山スミカが事業として、リニューアルオープンしましたが、京王電鉄さん主導でやられたのでしょうか？

大竹　高尾登山電鉄が事業として、主導してリニューアルを実施しています。その中で京王グループがリニューアルに関わる業務の一部支援を行なっています。また、施設運営もこれまで通り高尾登山電鉄が行なっています。

甲田　ちなみに今後ああいったリニューアルの動きは増えるんでしょうか？

大竹　もちろん今後も可能

性としてはあると思います。中でも国定公園内にある物件は厳しい規制の元で建築されていますので、リニューアルをするにも様々なハードルをクリアする必要がありますが。

インバウンド、TAKAO599MUSEUM との連携

川原　インバウンドに対して特別に意識していることはありますか？

大竹　海外戦略部という部署が主体となってインバウンド向けの施策を検討しています。また広報部も海外向けに観光情報などを発信しています。

辻　TAKAO599MUSEUM は京王エージェンシーさんが運営していますが、温浴施設などとの情報交換はされているんですか？

大竹　館長同士が適宜情報交換を行なっています。京王グループが運営する施設がエリアに点在していますし、京王電鉄内でも複数の部署が高尾エリアで販促をはじめとした施策を実施していることから、今後はより一層情報交換を密にして横の連携を強化することにより、エリアにおける施策の効率や効果を高めていきたいと考えています。

川原　そこに商店会とか料飲組合とかはどれくらい関与しているんですか？

大竹　例えば冬そばキャンペーンはもう 16 年間地元の皆さまと協力しながら取り組んでいます。また地元で開催される会合に、各施設の責任者が適宜出席させてもらっています。

河川改修への想い

甲田　最後に京王電鉄さんとして、今後高尾山口地域がどうなってほしいという大きなビジョンについてお伺いしたいと思います。

大竹　京王電鉄としての回答というより私どもの部門としての回答になりますが、高尾山エリアには登山以外の楽しめる要素がまだ十分でないと考えており、もっと街に滞在して楽しめる新たな仕掛けやメニューを増やしていければと考えています。そのためにも地元の皆さんと一体となって魅力的な街とは何かを考え、実現に向けた方策を練っていけたら良いですね。

川原　そうしたビジョンがある中で、今回の河川改修などはどういう風に見られてるんですか？

大竹　エリア内の回遊性や滞在時間を高めるポイントであり、また来山者を迎えるエントランスとして整備されていくことが望ましいと思っています。もっと駅前から緑地方面の視認性を

京王八王子駅前で高尾山へ向かう人が連絡バスに乗り込む。1965 年撮影
出典：京王の電車・バス 100 年の歩み

良くし、憩える空間として緑地が整備されることで、人の流れが変わり、滞留ができることで、より賑わいが出てくるのではないかと思います。

川原　地元の方も、少なくとも昔いっぱい遊んだ川を良い場所にしていきたいという想いは皆さんお持ちで、親水性の高い場所にしていくことが回遊性の向上にもつながるし、みんな参道から来て欲しいっておっしゃっていますので、その辺は一緒にやっていけそうですね。

大竹　エリアに来られた方々に対して、高尾山はとても魅力的な山だということに加えて、ここは色んな楽しみ方ができる街でもあるというところを伝えていけたらいいですね。

野田　参道はもちろん消費をあげていくって言う意味でも大事ですし、精神的な意味でも重要ですよね。

大竹　そうですね。

川原　商売をやられていない方のお話も聞いていると、生活の質や魅力の向上のための河川改修でもあると思うんです。そこも京王さんと一緒に考えていけるといいのかなと。

大竹　地元の皆さんとしっかりコミュニケーションを図っていかなくてはならないと考えています。

川原　今後どういう地域にしていきたいのか、明確な目標を持てていない方もいる中で、現状維持ではなくてもっとはっきりとした、尖った目標が欲しいですよね。そういう意味では大企業である京王さんとかがマーケティングの情報をキチッと取ることで、勘だけを頼りにしている議論からは一歩進めるようなものにはなるかなと。もう少し、一歩二歩先のイメージを少し持てるかどうかですよね。

小宮 猛さん

高尾山商店会会長、小宮商店店主

～生まれ育った高尾商店会の今昔

川で遊んだ思い出

甲田　今回川の改修が行われます。昔川でしていた遊びや、思い出について教えていただきたいです。

小宮　祈祷殿の前に昔は水車小屋や木製の吊り橋があったんですよ。私は小さい頃に釣りをしたり潜ったりして魚をとることはあまりしなかったですが、泳いではいましたね。今もだいぶ綺麗になっているとは思いますが、当時はもっと水が綺麗だったんでしょうね。ちょうど祈祷殿の入り口のところをせき止めてプールみたいにしていました。橋があったのでそこから飛び降りたりしていました。

甲田　そうなんですね。

小宮　その堰が壊れちゃったんですね。

甲田　それは洪水で流されてしまったのですか？

小宮　堰は大水がきて流されちゃったようですね。それでも今は岩がちょっとあって景観的には良いですよね。自分は好きなんですよ。祈祷殿を降りたところの信号から歩いて橋から望む向こうの上流の方の風景ね。

野田　川の水は昔の方が多かったという話を聞いたりもしますがどうでしょうか。

小宮　水量は昔の方がありましたね。

野田　見え方なんかも違っていたんでしょうかね。岩はそんなに見えてなかったとか。

小宮　もっと上まで水があったんでしょうかね。

野田　遊んでいたのは近所の子供だけですか？外から来た子もいたのでしょうか。

小宮　南浅川とか隣の町会とかから来ていたと思います。

甲田　大体高尾エリアぐらいの子供たちということでしょうか。

小宮　そうです。

訪れる客の変化

甲田　小宮さんのお店は小宮さんが始められたんでしょうか。

聞き手：野田、甲田（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 7 月 31 日

小宮　いえ違いますね。私はまだ2代目です。母が事業主でやっていました。
甲田　それを受け継いだんですね。だいたいお店をやられて何年ぐらいですか？
小宮　もう23年目ぐらいですね。その前はサラリーマンでした。
甲田　20年以上お店をやられてる中で、訪れるお客さんから風景が昔と変わったね、とか川の水が減ってきたね、といったことは聞いたりしますか？
小宮　川のことはほとんど聞かないですね。ただうちの店の前が整備されて風景は変わったかもしれませんね。
野田　お客さんの雰囲気って昔と比べて変わったような感じはありますか？どんな人が増えてきたとか、どんなニーズがあるとか。
小宮　昔と比べて若い人が多くなりましたね。昔は大本山薬王院のお参りにくる人が多かったのではないでしょうか。
野田　もちろん徐々に変わってきているとは思うんですが、何かきっかけのようなものはあるんでしょうか。
小宮　やっぱり高尾山がミシュラン三ツ星になったということでその辺からちょっと変わり出したっていう感じですね。元々春の火渡り祭には私が小さい頃からたくさん外国人観光客はきていたんですが、他の期間はそんなにいませんでした。ミシュランで三つ星をいただいてからは普段でも外国人がくるようになりました。ここのところオリンピックの影響か特に多く来られていますね。
岡崎　今は土日関係なくお客さん来られていますもんね。
小宮　そうですね。今年は本当に暑くて今は閑散期ですけどね。
野田　外国人観光客の方がいらっしゃったら英語でやり取りをされるんですか？
小宮　とんでもない。身振り手振りですよ。サンキューとかシェイシェイとかそのぐらいの会話です。でも「ありがとうございます」と「いらっしゃいませ」はまず日本語で話しますね。
野田　それはちゃんと最初にこちらから伝えるんですね。
小宮　あとはメイアイヘルプユーとか言ったりもしますね。
野田　意思疎通はなんとかできているんでしょうか？
小宮　欧米系だったらなんとかなりますね。カタコトまでいかないぐらいの会話ですが。
甲田　どこのお店もそのぐらいのコミュニケーションはされているんでしょうか？
小宮　やっているんじゃないかな。お蕎麦屋さんや飲食店さんなんかはメニューに写真を載せて英語や四ヶ国語で対応していますね。パソコンでやっているんだと思います。
野田　この辺りで商売やっている方で、英語がある程度堪能な人っていらっしゃるんですか？日常会話ぐらいなら問題ないよって方だったり。
小宮　いないんじゃないでしょうか。
甲田　商店会長をやられている中で、外国人とのコミュニケーションができないといった問題は議題に上がったりするんでしょうか？それに対して商店会として何

か取り組まれていることはあるのでしょうか。
小宮　特にないよね。本当にお店ごとの対応だと思います。
野田　うちはこうやってるみたいなことを話したりとかっていうのはあまりないですか？
小宮　あまりないです。個々の対応に任せています。

昔の風景

野田　先ほど川で遊んだお話が出ましたが、他に何か昔の風景だったりあるいは出来事だったり、印象に残っているようなものってありますか？
小宮　そうですね、私もそうですが、今お店やっている人たちは生まれも育ちもみんなここなんですよ。昔はここに住んでたのが、今はお店だけになってしまいました。
野田　写真で見せて頂いたところですね。
小宮　そうそう。
甲田　昔は皆さんここに住んで、それで商売もやっていたんですね。
小宮　そうですね、だから母親がみんな商店主になって。
甲田　今は家は別のところにあるということでしょうか。
小宮　そうですね。家は別に買っています。
野田　それは皆さんいろんな事情で。
小宮　事情でしょうね。家を持ったりね。でも近くに家があってここはお店だけとか、誰かに貸したりとかあるみたいですね。
甲田　ここに元々住まわれていた皆さんは引っ越してもこの近くに住まわれているんでしょうか？あるいは遠くから通ってらっしゃる方もいるのでしょうか。
小宮　遠くと言っても同じ市内ですよね。それか町田とかそのぐらいの範囲です。
野田　やっぱり家族が増えて手狭になったとか、色んな事情があると思うんですが、よく聞くのはそういう家のキャパシティの問題なんですかね。
小宮　そうですね。
野田　あるいは完全に貸してしまっているということもあるんですか？
小宮　貸してしまっているお店もあったんですけど、今はまた戻ってきましたね。うちもそうです。
甲田　今は２階は使ってないというか、倉庫みたいな感じなんですか？
小宮　使ってないですね。私も母がいた時は寝泊まりはしていたんですけどね。５年ぐらい前だと思います。
野田　かつて暮らす場所と商いの場所が一緒だった時代があって、そのあと家を移した人もいて、その住んでいた部分は物置になったりとか、あるいはまるまる誰かに貸したりとかそういったことがあったということですね。商売は続けているが、使い方が変わったと。大体いつ頃ぐらいから皆さん移っていったんでしょうか。
小宮　前後はあると思いますが、20年ぐらい前かな、うちもそうだと思います。母がここに住んでいて、私はまだ独身だったからマンションから通っていました。今は結婚して完全に移りました。近くに住んでる方も通って来ていると思います。
野田　昔の建物は壁は共通で、今でいう長屋みたいな感じになってますか？
小宮　壁は一つですね。
甲田　一つの大きな建物みたいな感じですか？
小宮　そうですね。隣同士は部屋の仕切りみたいそれぐらいの厚さの壁だと思いますよ。今もそうですけどね。
甲田　この当時は皆さん同じところに住んでるからご近所付き合いや日常的な会話は多そうですね。家を移動してからそういう機会って減りました？
小宮　母の時代なんかは近所付き合いはしていましたね。もちろん今も近所付き合いが無いわけではないですが。
甲田　そういう機会が多かったということですね。
小宮　でもみんな仲が良かったですね。親と一緒に商売を手伝わされていました。
野田　みんな子供はお手伝い？
小宮　はい。今はみんな２代目になっていますよ。

二軒茶屋

小宮　うちは昔山の中腹の方で旅館をやっていたんで

↑ 4 ～ 50 年前のケーブルカー前広場の商店（小宮さん私物写真）

現在のケーブルカー前広場の商店↓

ケーブルーカー前広場の池
かつて地元の子供達が遊んでいた場所は今も訪れた子供達の遊び場になっている

すよ。

甲田　そうなんですね。

小宮　今は保養院（※一般社団法人高尾保養院　東京高尾病院）があるんですが、病院のすぐ下にうちの旅館はありました。旅館ができた後に病院ができたと思いますが、いつ出来たかは私もちょっとわからないです。その病院を上と下で挟んで小宮旅館と佐藤旅館という2軒の旅館があったので、二軒茶屋と呼ばれていました。東京に三軒茶屋ってありますよね？こちらは2軒のお茶屋さんということで。

甲田　この旅館をやられていたのは大体何年ぐらいのことなんでしょうか。

小宮　いつぐらいでしょうか、私の父方のおばあちゃんがやっていたので…。

甲田　もうほとんど覚えてないぐらい子供の頃のことなんでしょうか？

小宮　そうでもないですよ。平成に入った頃はやっていましたたから、20年ぐらい前まで旅館はやっていたと思います。旅館をやめた後も父が住んだりしていましたが、家ももう引っ越しましたからね。

商品の変化

野田　見せて頂いたお写真は4,50年前のものですか。この当時のお客さんに人気があった、よく売れていた商品などはあったのでしょうか？

小宮　もう覚えていないですね。

甲田　今と昔で扱う商品も変わっているのでしょうか？

小宮　変わってますね。例えば昔は有喜堂さんがうちに饅頭を降ろしてくれていましたが、今はやらなくなっています。それと、商品の種類が多くなりましたね。饅頭やせんべいに、スイーツ系、クッキー系、漬物なんかもあります。

野田　昔はせんべいとかそういったものばかりで、今のお菓子やスイーツのようなものはあまりなかったということでしょうか。

小宮　無かったんじゃないかなと思います。昔ながらの商品があったのでしょうね。

甲田　見せて頂いたお写真には大きく森永キャラメルのロゴが写っていますね。森永の方が卸しに来てたんですか？

小宮　そうですね。

野田　多分そういうことなのでしょうね。

高尾の歓迎ゲート

野田　舗装も昔は砂利敷

だったのですね。
小宮　私が赤ちゃんの時に母に抱かれて店の前で撮った写真を以前見たのですが、「ようこそ高尾山へ」のようなことが書かれた歓迎のゲートがありました。
甲田　歓迎のゲートがあったのは高尾山口駅から登ってきてケーブルカー前の広場に入ってくる辺りですか？
小宮　そうですね。
野田　そのゲートというのは鳥居のような大きなものですか？
小宮　ええ。
野田　昔は日本中どこでもそうだったと思うのですが、今のように舗装される前は子供達が道端で遊ぶ光景などが見られたのでしょうか？
小宮　遊んでいたんでしょうね。今もまだあるのですが、ケーブルカー前の広場に池があるんですよ。そこでもよく遊んでいたと思います。
野田　そうなんですね。池は今もまだ残っていますが、昔のまま残ってる場所って他にはもうほとんどないんですかね。
小宮　京王線が引かれてからもう 50 年ぐらい経ちますからね。明治の森高尾国定公園 50 周年の記念式典もありましたし。

紅葉通り

野田　今日の会議（※高尾山まちづくり連絡会準備会）の冒頭でも話が出ましたが、高尾山口駅から表参道を通らずに登っていく道はみなさん裏通りって呼んでいるんでしょうか？
小宮　商店会のマップを作るときにもみじ通りって名付けたんですがね。
野田　裏通りって呼ぶよりはキチッとよそ行きの名前をつけたいですよね。
甲田　そうですよね。名前がちゃんとついてた方が良いですよね。
小宮　地図には載っているんですがね。
野田　商店会の方はもみじ通りと呼ばれていることを知っているのでしょうか？
小宮　いや、それはどうかわからないですね。もみじ通りという名前をつけたのは私の前の会長のときなんです。
野田　ここの通りにはやはり紅葉のイメージが有るんでしょうか？
小宮　そうですね。うちの店の前ももみじ広場というんですが紅葉が綺麗だから名付けたのでしょうか。
野田　この通りに生えているすごい立派な紅葉が甲州街道から見えますよね。商店街の中でここの紅葉が一番綺麗だ、立派だ、というのはあるんですか。
小宮　うーん、にいの（※もみじ通りにある飲食店）さんのところが綺麗ですね。残念ながらこの前枝をちょっと折られてしまいましたが ...。裏から見てもまた綺麗なんですよ。
野田　そういった印象があってこういった名前がついたんですね。
小宮　そうですね。うちの前の広場の紅葉も綺麗ですが、参道から見た景色を描いた絵葉書があるんです。
野田　広場については、いろんな方のお話を聞いていると、たくさん木や自然はあるんだけどちょっと暗い印象を受けておられる方もいるようなんですね。
小宮　花壇もあったりしますが、あまり手入れはされていないですよね。以前は商店会で川沿いに桜を植えたり、表参道を無電柱化したりといった活動がありました。
野田　今後整備が進んでも、そういった紅葉などが見えるようなあり方が良いですよね。もう少し綺麗に見えたりとか、来た人にとってわかりやすく見えるような空間にしていきたいです。

峯尾 進さん
有喜堂 主人

峯尾 雅子さん
有喜堂 女将

～おしどり夫婦が、歴史あるお土産屋の継続する秘訣を語る

有喜堂の名前の由来

川原　地元の皆様の思い出を紡いでいくので、何が印象的だったのかをお聞きしたいと思います。記憶はしっかり紡いでいくのが大切かなと。最初からお饅頭を作っていたのですか？

進　そうですね。薬王院さんへ落雁のお菓子を奉納するのが目的で始めたんですよ。それと同時に、山に来たお客様にお饅頭と羊羹を作り始めたんですよ。

岡崎　明治の頃からですか？

進　そうですね。

川原　薬王院さんからのお願いがあったのですね。

雅子　それがお菓子屋の始まりなんですよ。それで、「有喜堂」という名前を頂いたんです。みなさん知らないけど、薬王院の正式名称は「大本山高尾山薬王院有喜寺」なのよ。

岡崎　そうだったのですか！

進　それでそこから、有喜堂と名前をつけたんですよ。

川原　素晴らしいお名前。

雅子　今の社長が４代目で息子もやり始めたんですよね。

川原　あちら（本店）に工場はあったんですか？

進　７年くらい前にここに工場を作りました。

川原　それからはずっと本店（工場）にありましたか？

進　そうですね。一時期、祈祷殿の上に作ったのですが、ここの方が立地が良かったんですよね。

岡崎　JR 高尾駅の近くにも有喜堂がありますよね。

進　あれは、名前は同じだけど、自分の祖父の兄弟が始めたんですよ。だから製造も経営も別なんです。

川原　７年前、ここはなん

聞き手：川原、古谷（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 8 月 10 日

だったんですか？
進　お蕎麦屋さんでしたね。跡取りがいらっしゃらなくて。
川原　それで取得されたんですね。

地域とお店の変化

川原　他のお店のみなさんからは、高尾山口駅ができて業種が変わったとかこちらは何か変わりましたか？
進　京王線ができてからお客さんの数が増えましたよ。車が増えてきて、お客様が道を渡りづらくなってしまったんですよね。信号が高尾橋と駅前しかないですからね。昔は道路を簡単に渡れたのに。それもあって工場店を作りました。
古　谷　TAKAO599MUSEUM ができ、変わったことはありますか？
進　売り上げの数字が何％伸びたかは把握してないけれど、増えたことは増えたね。1 番増えた契機はミシュランですね。
川原　お店の商品はここで作られているのですか？
雅子　基本的に仕入れているものは一切ないですね。社長が頑固なもので。よく「自販機を置かせて」なんて言われることがあるんだけど、自分が作ったもの以外は絶対に置かない主義なので、即答でお断りしているんですよね。「お饅頭にはお茶がつきものですから、お茶の自販機はいかがですか？」なんてよく言われるんですよ。
岡崎　自販機を置くとお金が入って来ると思いますが。
進　高尾に来たんだから、高尾で作ったものを出したいと思っているんです。
川原　お客様が増えれば増えるほど、商売っ気が増すと言われますよね。
雅子　そういう方はいい時に視察に来るので「高尾ってこんなに人がいるんだ」って言うんだけど、今日みたいな時は人がいなくなってそんなことはないんですよね。売る方も自分で作って、作ってる場を見ているから自信を持ってお客様に何かを聞かれても答えられるんですよ。
川原　これからはより深い観光が大事だと思っていますが、そのように会話がまさに大切ですね。
進　高尾に来るお客様も一回じゃなくて来年も来るから、お客様を裏切らないようにしているんですよ、また来てくださいっていうスタンスでやっていますね。
雅子　そうそう、高尾に行ったら有喜堂でお土産を買うっていう繋がりをもちたいですね。時々、お饅頭を買ったんだけど護摩を忘れると言う人が何人かいらっしゃるんですね。お饅頭は持っているのに護摩を忘れるって言うね。（笑）
岡崎　リピーターも結構いるんですか？
進　講社ってのが 20 年前まではそのお客様が結構いますね。一年に一回来てくれた時は工場店によってくれるんですよ。当時は、1 月には臨時電車が宇都宮とかから出て、400、500 人のお客様が来るんですよね。
雅子　高尾駅に車庫みたいに電車を停められますからね。多い時には一日に 3 列車も来るんですよ。
岡崎　いつ頃まで走っていたのですか？
進　今も走っていて 1 日に 2、3 本。多い時は 50 本以上だったかな。
川原　今のは臨時電車ですか？宇都宮とかから直接来ていますか？
雅子　そうです。高尾に止めて京王線に乗って高尾山口まで来て、何時間か自由行動があって高尾山口に集合していかれます。そして臨時電車で帰られるんです。
岡崎　普通の観光客ではないということですか？
進　地域で人を集めて高尾に来るんですよ。
川原　講社だけではなくてですか？
雅子　JR が集めているんですよ。
川原　車で来る人も増えていますか？
進　そうですね。でも駐車場がね。
川原　駐車場が足りない一方で渋滞という…。
雅子　お年寄りが少なくなり、若い人が車で来るというのが風習なのかしらね。

お店への想い

川原　こういう風に観光客に来て欲しい。などのこだわりはありますか？
雅子　うちはやっぱり、薬王院あってのお店ですからね。ハイカーもいいけれど、

お参りにも来て欲しいですね。
川原　確かにハイキングとして注目されていますもんね。
雅子　そうそう、山ガールとかですよね。
進　でも常連のハイキングの人で、山からの帰りにお土産というより、自分で食べている人もいますよ。
岡崎　ちょうどいいですよね。ここでお茶を飲めて一服できるのが。
雅子　常連さんがたくさんいるのでよくお話しします ね。
川原　ずっと昔から看板娘のように？
雅子　進のお母さんが本当に商売が大好きだったんですよ。ご飯も食べずにやっていましたね。今もあるけれど、昔は遠いところから講で山に泊まって朝のお勤めをして始発の８時のケーブルで降りて来るお客さんも多かったんですよ。８時にはお饅頭を作ってお店を開けると団体さんが一目散に来てくれて忙しかったですね。それでもお母さんは張り切ってやっていました。
川原　そんな早くからですか。
進　７時にはお饅頭ができていないと。６時には仕事を始めていたね。
雅子　社長は一番早起き。工場に来て従業員が来る時には仕事が流れるように段取りをしています。
古谷　今までたくさんヒアリングをして来て、高尾は雅子さんが強いと聞いてきました。何か心がけていることってありますか？
雅子　商売で？
古谷　商売や日常とかで。お話を聞いていて、とてもキビキビしていてすごいなと思いました。
雅子　商売をしたかった理由は人と接するのが好きだからなんですよね。デスクワークより、お店に出てお話をするのが好きなんですよね。
川原　ここのお店の作りはお客さんとのコミュニケーションが取りやすいですよね。
雅子　社長のアイディアなのよ。旅行が好きで、旅行に行くと、あれがいいな、これがいいな。と思い帰ってきて実行しているんですよね。
岡崎　軒先のミストもそうですよね。
雅子　そうそう、これも社長のアイディアでね。
川原　買う前に少しゆっくりして行ってください。っていうお店の作りがいいですね。
雅子　参道から来たお客様が知らない間に入って来るように設計して欲しいと言ったんですよ。
このガラス戸は真冬でも空いているんです。
進　本店も開けるときは全部開けてくれと言っているんです。お客様には開けさせるなと言っていますね。
川原　昔商店街のお祭りをやった時、みんなのポリシーが「入りやすい店づくり」でなく「逃げやすい店づくり」だったんですよね。「入っても買わなくていいのかな。」って思って入ったお客様と会話をすることで買おうかなという気になるんですよね。
雅子　「いらっしゃいませ」というのもお客様の前に立っていうのを私はやっていますね。

クリーンな街、高尾

川原　女性目線で、こういう地域になったらいいなというのがあれば教えて欲しいです。
雅子　お饅頭が売れると商売以外のことも意欲的にできるっていうのはありますよね。忙しいのに、家の中が綺麗になっちゃうんですよね。
川原　綺麗といえば、この高尾山も本当に綺麗でそれが高尾のすごくいいところですよね。
雅子　それはみんなが心掛けていますね。歩いていてゴミが落ちていたら拾いますし、ゴミ箱がないっていうのがやはりすごいですよね。
川原　高尾で有名なゴミ持ち帰り運動の最初っていうのは、峯尾さんは関係しているんですか。
進　山に住んでいる人たちが積極的に始めましたね。参道もゴミは落ちていないですよね。
川原　ミシュランを取って外国人も増えたと思いますが、ゴミの持ち帰りは伝わっていますか。
進　外国人が増えてゴミが

増えたとは聞いたことがないですね。

雅子　人間の心理的に、ゴミが溜まっていれば捨てていくと思いますが、高尾にはゴミを置く場所がないのがいいですよね。山の上でイベントが行われている時も大きいゴミを持って降りている人を見かけます。

川原　ここの参道周辺はいつ頃整備されたのですか？参道のお店もいい雰囲気に変わっていますよね。みなさんでこういう風にしようとかはあったんですか。

進　店に対して商店会などからの要望とかはなかったですね。隣が綺麗だからうちも綺麗にしようっていう感じだったと思うんですよね。

夏の高尾とお店

古谷　夏はお店を開けていて暑くないですか？

雅子　暑いですよね、やっぱり夏がネックなんですよ。

川原　お客様は減りますか？

雅子　減りますね。

川原　季節によってお客様の変動があるので、どうすれば平準化するかと温泉地などでは考えていますね。夏の魅力を考えていきたいですよね。丁度、そこの河川で水の魅力というのが夏の魅力になればいいなって思います。

進　うちの孫は、TAKAO599MUSEUM で水遊びしたがっていますよ。

雅子　今の時期だと、一日中親子連れできている人もいますよ。お弁当と水着を持って。

川原　TAKAO599MUSEUM で遊ばれる方は多いですか？

雅子　多いですね。京王線の狭間やめじろ台から来る人が結構います。お金もかからないですし、危なくないですし。

川原　そういうお客様はお店に来ますか？

雅子　お饅頭を買いに来たり、帰りに食べて帰る人とかもいますね。

川原　結構お客様がいるように見えますけど、やっぱり閑散期などあって大変なんですか。

進　大変。いつも 10 月、11 月並みにお客様がくればいいんですけど。実際問題、夏は暑すぎてあんまり仕事をしたくないです。煎餅を作る日は朝 4 時に来て、お昼前までにガスを止めています。

雅子　前倒してやっていかないとね。

進　お昼過ぎと 4 時の温度だとだいぶん違うんですよね。朝は涼しいですね。

岡崎　川とかもありますもんね。

進　八王子の方から来て両界橋を過ぎると少し涼しくなって、落合橋を過ぎるとまた変わります。

雅子　雪が降ると本当に違いますね。

川原　ちなみに、何人ぐらいがここで働いていますか。

雅子　社員は 5 人。パートは 15 人くらいでシフトでやっていますね。

進　一年中お客様が安定していればもっと増やしたいです。暇な時期があるから、

なかなか出来ないんですよ。

今後の高尾山

古谷　今後、高尾山口の地域がこうなってほしいとか想いはありますか。

雅子　地域自体はいいですよ。でも人口が増えないのがね。お客様が来てもっと賑わえばいいですよね。テレビが放送してくれたりすると高尾山に行こうと思ってくれてお客様が増えますよね。

進　そうそう。テレビで放送されると翌日にはたくさん人が来るんですよ。

川原　そういう意味で京王電鉄は色々 PR をしていますけれど、京王電鉄に対しての想いはありますか。最近グイグイしているので、地域の方は不安なのかなと思いまして。

雅子　まず人が来てくれないと意味がないですからね。

進　京王ができて、高尾山は伸びた。駅や温泉など新しいことをいっぱいやってくれて嬉しいです。

雅子　私たちの考えとしては、店先に円台やミストを設置したりと努力をして、お客様がどうすれば入って来るかを常日頃から考えています。実際問題来てもらわないとどうしようもない。お店に来る人を一人でも多くするような店づくりをしています。お饅頭一個でもいいから買ってもらえるような店づくり。そしてまた食べたくなるような商品づくりをしようというのが社長のポリシーですね。「一回だけ食べたらいいや。」じゃなくてまた寄ってもらえるようにしていきたいですね。

川原　この軒先の湯気もアイコンというか入りたくなるような感じですもんね。

雅子　地域に関係のない人がお寺の境内掃除してますもん。ケーブルカーが動く前に自主的に来ているんですよね。

川原　今後、一般市民を含めたワークショップをする予定です。川をどうするかのアイディアをもらったり、景観のルール、お店づくりなどを考えています。こういうお店づくりをもっと他でもできたらいいなというのを考えていけたらと思っています。

雅子　回覧で見ました。私もこうしたらいいな。とかはあるけれど女の案だと小さいんですよね。社長は男だから、やると思ったら「商売で取り戻せばいい」と思っているんで大きくやるんですよ。それが男と女の違いなのかしらね。

川原　でもバランスが大切ですよね。有喜堂さんのような新しい店づくりはとても影響力があると思います。お店同士だと大変だが、ワークショップでみんなで議論できればと思っています。お知恵を拝借願いたい。

進　工場店を作ったから本店の方は年々お客様が減っているんですよ、今後どうしようか悩んでいます。

川原　あそこは建物に価値があるのではないでしょうか。

雅子　本店じゃなきゃダメだっていう人もいるんですよ。だけど平日は閉めています。開けるにしても手がないんですよね。

進　広場が契機で人が来てくれればいいな。

川原　広場を整備することで、地元の想いとしては参道からお客様に入ってもらいたいというのが多いですよね。その時にこの建物が光って来るのではないですかね。
雅子　高尾橋の信号を渡らなくても、反対側から本店を見て「いきたい！」と思えば来てくれるのでそういうことを考えてお店づくりをしてきたんですよね。
川原　ここの建物はその価値が作れると思います。
雅子　建物は本当にいいんですよね。ガタはきていないです。
岡崎　昭和２年からってことは丁度 90 年くらい建っていますよね？
雅子　そうなんです。当時は 100 年持つよといって建ててくれたんですよ。
川原　建物の雰囲気を味わいながらお饅頭を食べる。もしかしたら体験型のものとかができるかもしれないですね。私もアイディアを出すのは好きなので一緒に考えてみたいです。

人生のターニングポイント

古谷　人生のターニングポイントについてお聞かせください。
進　学生の頃、半年くらいアルバイトをしながらアメリカ一周してきました。意外となんとかなると思いましたね。現地の人に助けられて、人の親切さをすごく感じました。
雅子　私たちは旅行に行くために一生懸命働いて、今でも夏に旅行に一緒に行っています。アメリカにこの前行った時に『昔あの辺の山の人に「ついてこい」と言われてついて行ったら夕飯をご馳走になったんだよね。』と進が言っていました。
岡崎　道案内してくれたとかそういう親切さでなくそこまでですか。
進　フロリダの時は歩いてたら車が止まって「どこ行くんだ」って聞かれて「海に行くんだ」って言ったら連れて行ってくれた。その後、「何日いるんだ」と聞かれて「一週間」と答えたら安いアパート、週 10 ドルくらいのところを探してくれたんですよ。その人の家の食器とかも貸してくれました。
雅子　どうしてそんなことが起きるんですかね、進は何かを持っているんですかね。それを断らずについて行くっていうのが…。
川原　僕もやったんですけど、欧州とかの人はバックパッカーに優しいですよね。特にアジアの人は珍しがられます。
進　私も 50 年前ですから珍しさはあったのかもしれないですよね。
川原　雅子さんはどうですか？
雅子　私は商売。休みがなくても、商売をやっていられるならいいです。休みの日でも何もなければ出ちゃいますもん。
川原　ということは、結婚をしたことがターニングポイント？
雅子　そうですかねー。
川原　結婚前からここで働かれていたんですか？
雅子　違います。元をたどると、私の兄と進が同級生で、よくきていましたね。
古谷　では、今後の人生の展望についてお聞かせください。
進　いち早く息子が結婚して俺が退職する！
雅子　商売はすると言ったんだけど、なかなかその先がね。商売は一生懸命やっています。
進　そしてまた旅行をする。
雅子　年に一度じゃなくてね。
岡崎　なんかそうやって夫婦で一緒に旅行ができるっていいですね。
川原　やっぱりこれからの観光は、地元の人が楽しく遊んでいるのを見ていきたいなと思わせるのが大事ですよね。地元の人が遊び上手だといいですね。今回も川遊びの話など聞けていますしね。
進　是非ここに人がたくさん溢れるような。
川原　仕組みを作りたいですよね！

佐藤 伸二さん

大本山高尾山薬王院 用度部 部長

～次世代に受け継ぎたい「お山」から見た高尾山地域とは

子供の頃の遊び

佐藤　栄茶屋の裏側のあたりにあるタンパというところで小さい頃は野球をしました。私は左利きで、あそこはライト側が山なので左打者だと山側なんですよ。左バッターの人はいくら打っても山に当たって球が転がって戻ってくるのに、右バッターの人はフェンスを超えてホームランなんです。その時は右バッターになりたかったですね。

川原　その気持ちがわかります。

佐藤　そのタンパっていうところが、一つの遊び場の起点でしたね。夏になるとこの下の案内川の前が釣り堀だったんですよ。その前がかなり深い淵になっていて、そこでね、昔は泳いでいたんですよ。今はもう地形変わっちゃったんですけど。

中村　それは何歳くらいの頃ですか？

佐藤　小学生くらいですね。ここからスタートして今のインターのところまで、３、４人で魚を捕まえに行くんですよ。

川原　川の中を移動するんですか？

佐藤　はい、川の中を上流に向けてですね。その時は網も持っていくけど主に手で捕まえてましたね。魚がいそうな岩があるのがわかるんですよね。そこに手をやるとウグイや、たまにヤマメとかイワナとかが獲れるんです。

川原　手で獲れるものなんですね！

岡崎　とった魚は家に帰って食べていたんですか？

佐藤　食べたこともありました。それからこの辺はマス釣り場があったんですよ。

川原　それは養殖ですか？

佐藤　そうですね。台風がくると、養殖のマスが逃げちゃって、それを捕まえに行ってましたね。

川原　台風の後はチャンスなんですね。

佐藤　あとはね、祈祷殿の裏側にあるナガグツ山というところの中に入って、クワガタを採っていましたね。

川原　ナガグツ山というのは地元での地名なんですか？

佐藤　そうですね、遠くか

聞き手：川原、野田、中村（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、岡崎（八王子市都市計画課）、鈴木（八王子市インターン生）
調査日：2018 年 8 月 22 日

らみるとながぐつ型になっているんですよ。だから「ナガグツ山」ってよく言っていましたね。その隣が栗林って言いましてね。私有地だったので、入ってはよく追っかけられましたね。でもね、クワガタはよく取れましたよ。その中でもよくクワガタが採れる木があるんです。まず、「ロッポン」っていう木があって、これは木が6本に別れているからでしょうね。これは、吉田建設さんの向こうの奥にあるんですよ。今もあると思いますね。この先の左側の木が「クビツリ」でしたね。

川原　子供がつける名前はだいたいすごいですね。

佐藤　その先のインターのところに「ヌマ」っていう木があるんですよ。地元の人はみんな知っていますよ。

中村　そういうのは先輩が教えてくれるんですか？

佐藤　先輩が教えてくれたと思いますね。それを引き継いでいく、みたいなね。

野田　今の子らはわからないでしょうね。

佐藤　そうでしょうね。今の子は「ヌマ」とか言ってもわからないですよね。うちらの年代くらいまでですかね。

野田　何歳くらい下までわかりますか？

佐藤　5つくらいですかね。まず外で遊ばなくなりましたからね。

中村　佐藤さんが子供の頃は、本当に高尾山の自然とともに遊んでいたんですね。

佐藤　小学校の頃なんかは川に入るのが基本でしたね。この先にエゴタって言って、道路の先の方まで中に入れる洞窟みたいなのがあるんですよ。今はもう封鎖しているんですが。

川原　昔は川が深かったと聞きましたが。

佐藤　昔は深くて、高尾山口駅の前のところは、砂なんてなかったですよ。向こうまで流れていってましたね。いつの間にか蓄積されちゃっています。砂利をとったらもっと風情があると思うんですよね。

中村　他にどんな遊びをしましたか？

佐藤　チェーリングって知ってますか？当時ブームだったんですよ。リングがあってそれがいろんな色になってて、その中でも貴重な色があってその中でも黒を取るために、遊んでましたね。5個とか繋げてとってくるんです。屋外に円を書いて、その中にチェーリングを入れておくんですよ。それを向こう側から相手に取られないようにしながら近くにきて、パンって弾くんです。

地域住民の変化ついて

鈴木　昔から高尾にいる地元の人は増えたとか減ったとかはありますか？

佐藤　この前お祭りがあって私は子供神輿の警備だったんですが、ここ2、3年で子供達がすごく少なくなって、神輿の担ぎ手がいなくなりましたよね。

川原　ここ2、3年が顕著ですか？

佐藤　その前から、もうなってたんですけどね。これは町会の人に聞くと、みんな気にしてると思いますよ。地元に子供達がいなくなってるということですね。

岡崎　新しい人も来ないんですかね？

佐藤　新しいところはできてはいます。

中村　でも全体的には減ってきてるんですね。

佐藤　はい。だから、もう少し子供が帰って来れるといいですよね。

川原　観光に取り組む究極の目標はそこに住む人が一緒に楽しんで、ずっと住み継いでいくというものも目指したいなと思っているんです。

佐藤　そうですね。そのためにはやっぱり地元に、若い人たちが住んでもらわないといけないですよね。あと何年か、十年もすればね、この辺もだいぶ変わっちゃうと思いますよ。お店屋さんも後継者がいなくなっちゃいますよね。

川原　やはり地元に商売する場所がないと、なかなか残ったり、新たに入って来れないかなとは思いますね。そうじゃないともっと利便性の良いところに住んじゃうと思うんです。

佐藤　みんな出て行っちゃうんですよね。そうすると過疎化になっちゃいますからね。空家だって増えちゃいますよね。

川原　そういうのも一緒に考えていきたいなと思って

います。観光として魅力的な場所があってそこに住みたいなって思ってもらえるような場所を目指したいですよね。

佐藤　私からの一番の要望はそれですかね。なかなか難しいですけどね。

薬王院について

中村　佐藤さんは、普段薬王院でどういったお仕事をなされているんですか？

佐藤　用度部ですね。用度部は、会社でいうと総務部みたいなところですよ。その中に人事もあるし、エージェント、修繕、精進料理とか、あと現場もあります。現場では御守り売り場とか、お護摩の受付とかも全て管轄してますね。

野田　他には何部があるんですか？

佐藤　あとは信徒部と言って、外から信者さんを連れてくるところもあります。営業みたいなものですよね。

中村　薬王院全体でお勤めされている方は何人くらいいらっしゃるんですか？

佐藤　だいたい80人くらいで、普通の企業みたいな感じですね。そのほかには、法務というところはお坊さんですね。

野田　人事異動っていうことは何年かでローテーションしていくんですか？

佐藤　はい、13年ぶりに異動しましたね。

野田　どういった方が薬王院に入られるんですか？やはり関連の学部というものもありますよね。

佐藤　お坊さんの場合は自分の家のお寺がまだ住職がお元気の場合、息子に後を継がせる時まで務めさせるとかですね。

川原　後を継ぐまで預かるのですね。

佐藤　そうですね。だからお坊さんの方も、二世が多くなりましたね。

野田　ゆくゆくは自分のところでという形なんですね。

佐藤　そうですね。だからお坊さんたちが自分のところに帰ってしまうというのも、お山としては悩みなんですよね。何十年かかけて育ててるにも関わらず、帰ってしまうんですね。

川原　大学みたいですね。その寂しさはよくわかります

野田　だいたい何才くらいで代が変わるんですか？

佐藤　帰る人は5、6年で帰ってしまう人もいますね。一番いいところなんですよ。教え込んで、これで一人前になってやってくれるっていう時に帰りますからね。

川原　ここで修行して帰るっていうことが当たり前のようなところなのかなって思っていたんですけど、やっぱり薬王院としては残っていて欲しいんですね。

佐藤　将来そういう人たちがお寺を変えて行くわけですからね。

川原　3年前くらいに授業でお山の方に行ってお坊さんに話を聞いたら、若い人で親近感を持てるような感じでお話をいただいたんですよね。

佐藤　今はそういう風に、あんまり固く話さないようにしていますね。

川原　だけど、世界観をきちんと伝えてもらったので、学生も喜んでいました。

佐藤　お坊さんと接しやすくなりましたよね。昔は「お坊さんだ」って構えちゃいますけど、今は気軽になんでも聞いてくださいって言いますし、それに毎週日曜日に、九時半のお護摩が終わると、山門の前の広場で天狗の落とし文っていうものを観光客の方に配っているんです。

中村　積極的に関わる機会を増やしているんですね。

佐藤　そうですね。あと、うちには英語ができる僧侶がいるんですよ。外国人の方には英語でそのお坊さんが対応してくれてるんですよね。

川原　ありがたいお話も英語で話せたりするんですか？

佐藤　そうですね。やっぱりお護摩とかそういった専門用語を、どういう風に伝えるかが難しいって言ってましたね。ローマ字にするんだけど、その意味が伝えられないみたいですね。

祈祷殿について

佐藤　昔、ここ（祈祷殿）はレジャーセンターがあったんです。そこが閉鎖になって、その後薬王院で車をお祓いするところを作ろうということになりましてね。

中村　それは車が増えたからですか？

佐藤　そうですね、ご覧の通り山の上まで車は上り下りできないですからね。45年くらい前ですかね。それまでは、廃墟になったところで遊んだこともありましたね。

岡崎　いいですね、男心くすぐられますね。ところで、祈祷殿さんに観光バスも止まると思うんですけれども。

佐藤　観光バスは全て祈祷殿で受け入れていますね。ただ、観光バスが多すぎると、一般の車が停められなくなってしまうんですよね。大きく影響したのは何といっても圏央道ですよね。圏央道ができて高尾インターができて、当時心配していたのは、相模湖みたいに東名に抜ける通過点になってしまうんじゃないかな、と。でもそんなことないですね。横浜方面、静岡方面からも来てくれますね。

川原　家族連れも増えたようですが。

佐藤　そうですね。とにかく圏央道ができて交通の便がよくなりましたよね。車にしても電車にしても立地条件がいいっていうのがミシュランに選ばれた一つの要因なんでしょうね。

ピークの分散化

佐藤　11月が観光客のピークですね。インターネットが今見頃ですよって広告してしまうんで、集中しちゃうんです。

川原　それは、分散させないとしんどいですよね。

佐藤　一週間くらい見頃が続きますとかですよね。だから、私も集中型じゃなくて、平均になんとか分散して来てもらえないかと、京王さんとかと話したんですよね。とにかく分散して、11月や5月だけではなくて、ほかにも高尾山は2月とか3月とか、とにかく景色がいいんですよ。だから、そういう冬の楽しみっていうのがあるんだよ、というのをもう少しアピールしていきたいと思っていますね。11月なんかは宣伝しなくたってお客さんはきますからね。逆に宣伝すると、混みすぎてて、嫌なイメージを持って帰っちゃう人が多いですから。

岡崎　高尾山登れないですもんね。

佐藤　2月なんかね、高尾山は本当は一番景色がいいんですよ。3月は、花粉の黄色いものが飛んでいるのが見えますってね。マスクメガネ持参でね。

川原　閑散期だけど、日頃山にいる佐藤さんとしてはこれが面白いっていうのはありますか。

佐藤　とにかく2、3月は静かです。5月11月に比べて、自分のペースで歩けて、ゆっくり自然も見れますよね。

川原　ゆとり度が魅力ですね。

佐藤　だから2月は逆にゆっくり高尾山見られますよ、冬の高尾山もいいですよって伝えたいですね。

お山が期待する高尾山口地域

川原　お山（薬王院）の側からまちの人に対しての期

待、もしくはまちの人や観光客にこういう風に見て欲しいという期待はありますか？

佐藤　観光客の方には高尾山は四季があるから最低でも４回は来ていただけるといいですよね。初詣から始まって、４月の桜、夏はビアガーデン、11 月は紅葉。最低でも４回は楽しんでもらえると思うんですよね。そういうところを伝えたいです。例えば正月来た人には今度は４月、桜が綺麗ですよって伝えたりですね。４月に来た人には夏も涼しいですよって。そういう風に高尾山の魅力をアピールして行きたいですね。

川原　もっともっといろんな魅力を観光客に知ってもらいたいということですね。

佐藤　そう、皆さん知らないんですよ。紅葉の山しかね。それ以外のも色々あるんですよ、高尾は。だからそういうところを地元の人とも一緒になって最低一人４回きてもらえるようにして行きたいですね。今は、ミシュランで有名になったけどだんだん観光客の人数は減ってきてますからね。これは、商店街の人たちもそういう風に感じていると思います。山もそうですから。だから 2020 のオリンピックで多少回復すると思うんですけど、そのあとをどうするかですよね。

中村　オリンピックをどう生かすかですね？

佐藤　そうですね。そのためには、１人１回じゃなくて４回くらいきてもらえるような感じにね。私は、マスコミ対応もやっているんですよ。でも取り上げられるのは、紅葉の写真とかが多いですよね。

川原　やはり紋切り型なんですね。マスコミにも、もっと冬もいいですよという話もされるんですよね？

佐藤　しますよ。これもやってますよねっていう風にね。でも一時期に比べてマスコミも騒がなくなったし、取材も少なくなりましたね。

川原　そのように、薬王院としては何か発信してることはありますか？

佐藤　薬王院としては、京王さんに仏舎利塔とか、人が来ないところを紹介してあげたりしていますね。本堂っていうのはみんな知っていて、その上通り道でしょう。だから宣伝しなくても人は来るんです。でも仏舎利塔とかはそもそも知らないと行かないようなところにあるので、そこを紹介するようにしていますね。

お山と関わるきっかけ

川原　そもそもどうして薬王院に？

佐藤　薬王院で中学時代からアルバイトしてましたから。

中村　本当に長いんですね。昔からやりたいって思っていたんですか？

佐藤　いえいえ。とにかくその当時は、高尾山か釣り堀「新野」か、あとはふもとやさんの前に京王レストランしか近くに働くところがなくて、その３つを掛け持ちしてアルバイトをやってましたね。だからもう高校時代からチャーハンとかラーメンを作らされてました。

中村　いろんなことをやってらしたんですね。

佐藤　その中でも争奪戦がありましたね。佐藤くんどこ行くの、今年は山行っちゃうの、って言われましたね。

中村　人気者ですね。

佐藤　そうそう。一番手っ取り早いのは高尾山でしたね。だいたい十日とかやると結構いいお金もらえたん

ですよね。そのお金で北海道に行ったりしましたね。だからみんな高校の友達と高尾山にバイトしに行くぞとか釣り堀行くぞ、と言ってましたね。釣り堀なんてね、すごい忙しいときは高額なバイト代がもらえましたね。

川原　すごいですね。

佐藤　そうですね。まだ中学三年とか、高校一年くらいの時にね。

野田　それだけ釣り堀も流行っていたんですね。

佐藤　そうそう。でもね、みんなお山から降りてきて釣ってそこで焼いて楽しんでいました。おいしいんですよ。

川原　そういう意味じゃ、今はお山に行って、降りてきてちょっと楽しむところが少ないですよね。昔は降りてきて釣り堀楽しむとかできたんですもんね。

佐藤　そうですね、昔は自分で釣ったものを、さいて焼いてましたね。

野田　今は環境を楽しむというのはほとんどなくなっちゃったんですかね。

佐藤　そうですね。

薬王院に勤めるきっかけ

川原　ところで、薬王院で勤めることになったのは、自然の成り行きですか？

佐藤　そうですね。高校の時からやっていて、面接行った日に手伝っていけってなりましたね。

野田　即採用だったんですね。

佐藤　夏ですね。泊まり客が多くて、昔は幼稚園の遠足が多かったんです。学校の先生や高校生とか、合宿所みたいなところでしたね。面接しに行ったら、今日泊まり客がいるから泊まってくれって言われたことは、今でも忘れないですね。

野田　就職のときに他にも選択肢があった中でそういう形になったのはやはり何かあったんでしょうね。

佐藤　そうですね、それもね、お山のご縁っていうんですかね。中学からやっていたから、親しみやすくなっているというのもありますよね。

川原　80人いまお勤めされていますけど、そういう方はいらっしゃるんですか？

佐藤　いや地元の人はそんなにはいないですね。

今後の展望について

中村　これからの佐藤さんの展望はありますか？

佐藤　もうあと10年で定年ですから。若い人たちに徐々に今やってたことを受け継いでもらうことですね。

川原　若い人に伝えたいというのは、仕事を継いでいくというのももちろんあると思うんですけど、思いを継いでいくのもありますよね？

佐藤　高尾山っていうのは地元の人たちで成り立っているので、地元の人たちと交友を深めてもらって、地元の意見を聞いたり、こっちから提案したり、持ちつ持たれつのような、とにかく高尾山全体で、薬王院じゃなくて、下の商店街と絡んで一緒に仕事ができるような関係を築き続けて欲しいですね。

川原　今までは地元出身の佐藤さんがそういう役割果たしてたんですね。

佐藤　そう、自分が地元だから麓のみなさんとの連携とかもやっていますけど、私がいなくなると地元の人がいなくなってしまうんです。地元の人と交友深めるっていうのは2、3年じゃできないから、やっぱり10年スパンで考えていかないといけないですよね。

中村　薬王院と商店会がつながれるような人ですね。

佐藤　そう、そういう人を作らないとね。

川原　まだこれからですか？

佐藤　もう結構いますよ。これからは、地元からだんだんいなくなっちゃって、付き合いなくなっちゃってさみしいや、とか言われないように、ですね。

峯尾 誠さん

四代目紅葉屋店主、前高尾料飲組合組長

～高尾山はやっぱり変わってないねって言われるのが一番嬉しい。

川での思い出

甲田　峯尾さんご自身も子供の頃は水辺で遊んだりされていたんでしょうか。

峯尾　あそこはちょうどマス釣り場になっていましたからね。小学校の頃は川に降りてつかみ取りしながら上流の方まで上っていったりしていましたが、大腸菌が問題になって入れなくなってしまいました。

甲田　大腸菌が出て川に入れなくなったのはいつ頃でしょうか？

峯尾　小学校高学年のころはダメだったと思います。泳いじゃいけない、ではなく川に入ること自体がダメという。その頃下水が整備されていなかったのでそのまま垂れ流しでしたから。それにこの川自体がもっと水量がありましたね。こんな細い川ではなかったです。

辻　案内分校の前あたりをプールのようにして遊んでいたともみなさんおっしゃいます。

峯尾　案内分校の前は2,3mぐらい落差のある滝壺みたいなところがありました。そこへみんな飛び込んだり泳いだりしていましたね。それがだんだん崩れてきてしまって遊べなくなってしまいましたが。

甲田　そういった大腸菌の問題などで川への関わりは減りましたか？

峯尾　やはり汚れていると言われていましたからね。小さい頃はこの辺で釣りもしていましたが、段々と釣っちゃだめという雰囲気になっていました。

甲田　魚は今もまだいますか？

峯尾　今の方がいるんじゃないですか。綺麗になって戻ってきているのもあると思いますが、上流の方で放流をしている人がいるようです。うちの裏にもヤマメが泳いでいますし、今年は久々に蛍も見ました。

麓全体の回遊性を高めたい

甲田　今回の河川改修にあたって、回遊性に関する意見も多く出ています。

峯尾　商店街的には回遊性を持たせてほしいという意

聞き手：甲田（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、辻（八王子市都市計画課）
調査日：2018年8月23日

見が一番多いのではないでしょうか。駅からすぐにケーブルカーに乗って、またケーブルカーで降りてまっすぐ駅に戻っていく人が多いと思います。観光目的なのか信仰目的なのかよって使うお金も違うと思います。私は TAKAO599MUSEUM を作るときに回遊性を持たせようと立ち上げた委員会のメンバーだったんです。

辻　あり方検討会というものがありましたね。

峯尾　今後 TAKAO599MUSEUM をどうしていくかという連絡会の委員にもなっています。TAKAO599MUSEUM をどう見せるかという時に、今の道を崩して高尾山までぶち抜く話まで出ていたんです。ただ結局誰の土地なのか分からないなどの問題で実現しませんでした。

辻　回遊性という話では、今と人の流れを逆にして参道の入り口から入ってほしいという意見もあります。

峯尾　もちろんそういう意見はあると思います。ただそれは商売に影響する話なので言えないですよね。うちは特に私が一昨年まで料飲組合の組合長でしたから、どちらに通してくれというのは推奨できないので、難しいと思います。

峯尾　TAKAO599MUSEUM に寄ってくれと一口に言っても、TAKAO599MUSEUM への行き方もありますよね。駅からこう来てくださいとは言えないです。

辻　すごくさじ加減が難しいですね。

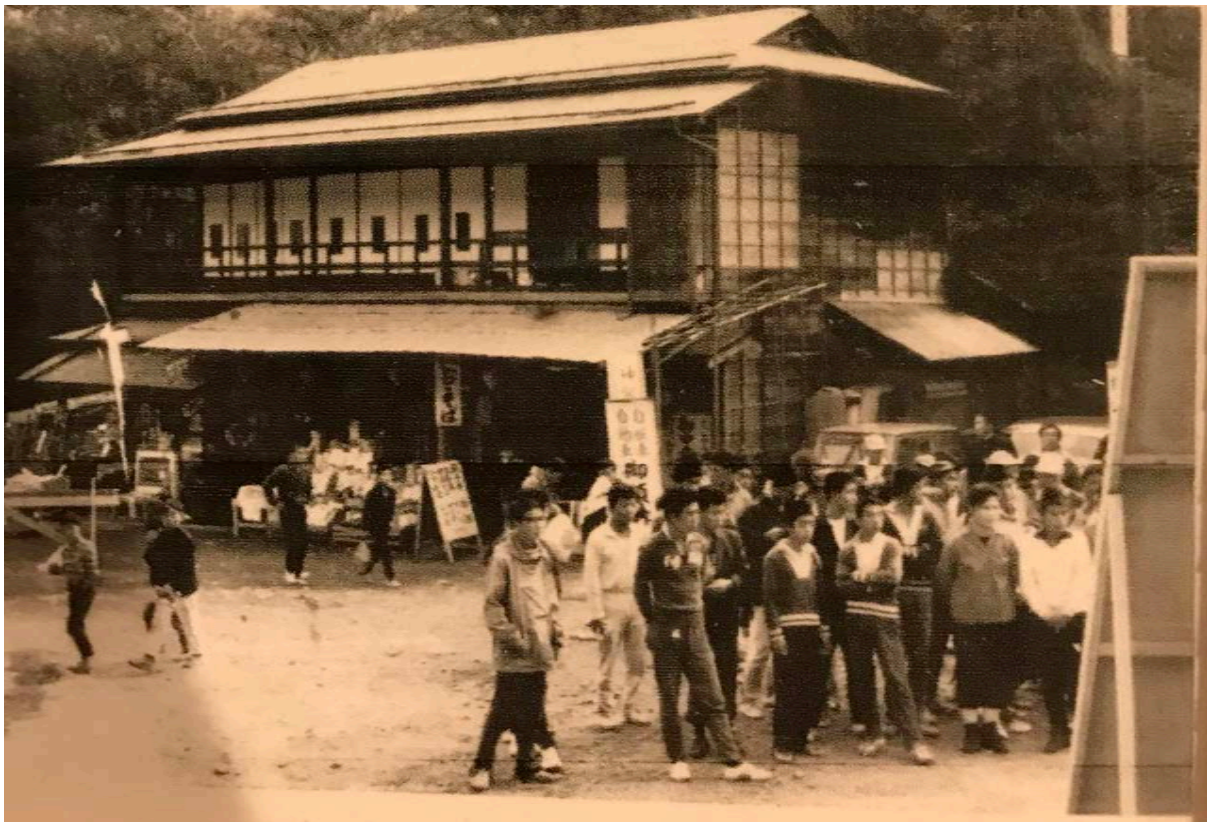
峯尾　だから回遊性を持たせるしかないっていうのが元々のみんなの意見なんですよね。

辻　高尾山口駅と清滝駅を結ぶ細い道はハイシーズンはかなり混んでいますよね。ある程度他の道に流すというのは納得してもらえるような気がしますが。

峯尾　多分そのハイシーズンはゴールデンウィークだったり 11 月だったり、日数的にはそんなに多くはないですよね。

辻　そこはバランスを取って、動線っていうよりも回遊性をもう少し良くするということですね。

峯尾　市にやってもらうとすればの話です。各店舗営業のスタイルが違うでしょうから個人的な意見は別だ



昭和初期の紅葉屋の様子。（峰尾さん私物）

と思います。

辻　せっかくここの整備をするので、青葉橋を活かして、動線をもう少し国道側にも流せないかなと思うんですけども。

峯尾　それはそれでも良いと思うんですが、あの広場の木を切って更地みたいにしないとできないなと思います。今は鬱蒼としていますよね。

甲田　見通しもあまり良くないですよね。

辻　見通しをよくしたり川をもっと見せるためにすっきりとした広場にしたいですね。

峯尾　公園にしてほしいですね。スッキリとしたやつ。

辻　そういうご意見もあるし、片やもうすこし静かな空間で休みたいって方もいらっしゃったりとか。色んな意見があるので、ワークショップではそういうのを皆さんと話す場にしたいなと思っているところなんですね。

TAKAO599MUSEUM の影響

甲田　お客さんの流れとか動線って TAKAO599MUSEUM ができる前と後で変わったりされたんでしょうか。

峯尾　TAKAO599MUSEUM を知らない人も未だにいっぱいいるし、全然変わらないと思います。

甲田　そうなんですか。人の流れとしては一方向ですか？

峯尾　人の多いときは半々ぐらいに別れますね。店の場所によってどういう通り方をされるのが良いかは変わるので、そこはワークショップなどでも触れないほうが良いのではないでしょうか。

甲田　立場によって異なるということですね。

峯尾　どこを綺麗にしてほしい、整備してほしいという意見はあると思いますが、今の人の流れを変えるということ自体を市が推奨してしまうのはあまり良くないと思います。一軒でも面白くない店が出てくるとバランスが崩れますから。そこはデリケートな問題ですよね。

辻　参道の正面から人を流すということは、山へ向かうときの参道という意味合いもあるのかなと思っていて、地元の方はお参りするときの一番の正規ルートだという認識はあるんでしょうか？

峯尾　多分正規ルートっていう認識はないと思います。

辻　そうなんですね。

峯尾　それを言うとしたら、一号路にある浄心門の鳥居が高尾山の入り口だと思っています。というのもあくまでもここは麓という認識であって、どこがちゃんとした正規ルートというのは昔から無かったと思います。高尾山口の駅も昔はなかったわけですからね。

辻　都市構造の変遷的には、京王線ができたことによってルートが出来てきたということになるんですかね。

峯尾　なぜ今のようなルートになったかというと、20号は結局車道なので登山に来た人は車道を歩きたくないと思うんですよね。もしそこを通らせたければ、例えば鎌倉みたいに車も通れるけど歩きやすい歩道にしたり石灯篭みたいなものをつけたりして整備することですね。

麓の思い出は昔のバスロータリー

甲田　人の流れとは別になるかもしれないんですが、

清滝駅前の石碑。高尾山のシンボルとして思い出に残っているという声もある（峯尾さん談）

広場や河川を整備するときに、こういうところを見ておいてほしいという具体的なポイントや個人的に好きな場所ってありますか？

峯尾　高尾山口駅の周りはあまり無いんじゃないかなと思います。ただ、小学生の遠足なんかで昔高尾山に来た人が久しぶりに来て、清滝の前の石碑を覚えているという声が店の２階に住んでいると聞こえてきたりしましたね。自分のように店をやっているから頂上を見られない人間からすると、思い出に残っているのは本当に小さい頃のイメージで、高尾山口駅前が改修する前のバスロータリーだった頃は思い出がありましたね。

辻　元々観光バスとかの駐車場だったんですね。

峯尾　昔はもっと広く使えたのでお祭りも全部駅前でやっていました。露店がたくさん並んで。

甲田　露店も出ていたんですね。

峯尾　小さい頃は鳥居の脇からずっと駐車場の中も高架下も神社に通じるまでの間に全部露店が出ていました。

甲田　それは大体何年ぐらい前ですか？

峯尾　もう覚えてないな。小学校の頃はありましたね。

甲田　整備をきっかけに露店もいなくなった。

峯尾　市の駐車場になっているから露店も入っちゃいけないんですね。

甲田　やはり最近はお祭りの風景も変わりましたか？

峯尾　変わりましたね。露店だって３年ぐらい３軒しか出てないから。

甲田　そうなんですね。好きな場所、思い出の場所についてお聞きしましたが、逆にここは見せたくないなとかあんまり好きじゃないなって場所とかってあったりするんですか？

辻　観光客に入ってもらいたくないとか。

峯尾　今はどこも整備されてしまっていますが、子供の頃はケーブルカーの横に広場があってそこが地元の子しか知らない遊び場でし

紅葉屋の窓から見える景観。昔のままの清流が残されている

た。今は入れなくなってしまいましたが、稲荷山の後ろも野原だったのでずっと野球していましたね。

辻　やっぱり今よりも子供達が普通に遊べる場所が多かったんですね。

峯尾　普通に野球キャッチボールや野球ができました。今は駐車場になっていますがここで火渡り祭をやっていました。家も今より少なかったですね。

地域活動

甲田　飲料組合さんとしてもお店としても、何かこれまで地域に関わる活動はされてきましたか？

峯尾　地域の活動は沢山やっています。神社の総代もやっています。

ターニングポイント

甲田　今まで主に地域の歴史について聞いてきたんですけど、それと合わせて峯尾さんご自身の個人史も地域の歴史を紐解くヒントになるんじゃないかなという風に思ってまして、今までの人生のターニングポイントがあれば是非教えてください。

峯尾　親父が３年前に亡くなって去年の３月に店を建て替えたんですよね。それまでは一緒にいたけど親父の代でしたから。元々親父はここをもっと早く建て替えたかったんですよね。ここに住んで欲しかったらしいんです。先に新居を建てたので、店を直すのが後回しになってしまいました。ターニングポイントといえばそれだと思いますね。あとは組合長になったことですかね。

辻　今例えば久保田さんが組合長をやられていますが、どういう方を次に指名するのでしょうか。

峯尾　元々久保田は２つ違いで小さい頃はずっと一緒に遊んでいて弟みたいなものだったので。代表になるっていうのは誰でもいいというわけではなく人望やリーダーシップみたいなものがないとできないですから。高尾料飲組合っていうのは八王子にいっても力のある組合なんです。だからターニングポイントとしては店の建て替えと料飲組合長になったことですね。

インバウンド対応、今後の展望

辻　お店を改装されて、今後はどういうお店にされる

んでしょうか。
峯尾　まず一つはオリンピックの問題。外国人対応、ハラール対応がありますよね。ハラールはかなり細かい決まりがあるので、商売的なことだけでいい加減なことを言ってしまうと本当にすごい迷惑かけてしまいます。そういうことについて考えていかないといけないと思います。2月3月の暇な時期になると外国人の方が多かったりもするので。今市や観光協会の方でも英語の観光マップやホームページを作ってくれているみたいですが、店の方でもマナーとか教えていかないといけないのではないかなと。一時期オーバーユースも問題がありましたがボランティアのおかげでミシュランでも三つ星を取れたと思います。
辻　そういう名に恥じないよう続けていけるような、ということですね。
峯尾　あと今後難しいのは建て直したりなんかするときに各店舗が景観にあった店作りをしなきゃいけないんじゃないかと思いますね。
甲田　ある程度統一した色合いだったり。
峯尾　色合いは今後うるさく言われると思いますね。登山道でももっと伐採ができれば景観的によくなる場所はあると思います。
辻　眺望と自然保護のバランスは難しいですよね。
峯尾　高尾山口駅の木を一本切るのでもすごい大変だと思いますね。
辻　そうですね、でもやっぱりやらなきゃいけない木っていうのが結構あると思うので。
峯尾　あそこを綺麗にするとすごい良いところだと思うんだよね。
辻　ロケーションが揃ってるんですよね、駅前と川っていう。市の土地なので色々できる空間がある。
峯尾　活用方法はもっと深く考えてもらいたいね。営利目的でないのが大前提ですが、電車で小一時間揺られてきたら田舎、昭和を感じるとか。なんかちょっと田舎ちっく、空気が変わったなって思われるような。
辻　山がどーんとあって、そこに低層のお店が並んで、やっぱ違うところに来たなって感はあるのでそこをもっと上手く演出できるような整備は必要だと思います。
峯尾　昔と違って今川の水が多くないから、逆にいうとちょっと水辺で遊べるぐらいに整備するには整備しやすいんじゃないかなって。

高尾山への想い

甲田　最後に、高尾山への想い、今後どうなってほしいということについて聞かせてください。
峯尾　変わらないで欲しいですね。私的には高尾山はやっぱり変わってないねって言われるのが一番嬉しいのよ。全然変わらないねって。綺麗になったって言い方には2種類あって、変わっちゃったねっていうネガティブな意味もあるんですよね。やっぱり昔の思い出というか、何年経っても変わらないでいて欲しいっていうのが一番の想いですね。あまりにも便利になりすぎちゃって、いろんなものができて、そしたらどこでも同じじゃんってなっちゃうのが一番嫌なんだよね。
辻　今すごく伝わってきました。
峯尾　綺麗にするには良いんだけど、その綺麗さを勘違いしないで、箱物だけにはして欲しくなっていうことなんだよねやっぱり。
辻　そうですね。いつきても高尾山は高尾山だったって思ってもらえるように頑張りたいと思います。今日はありがとうございました。

髙橋 清士さん

有限会社 髙橋家 代表取締役

髙橋 真紀子さん

有限会社 髙橋家 女将

～歴史ある古き良き外観をもつ髙橋家のお二人が、高尾に抱く思いを語る

女の子も川遊び

中村　お生まれはこちらですか？

清士　僕は違うんですね。妻の生まれはここですね。

中村　奥様も川に入って遊んだりしていたんですか？

真紀子　小さい時は入りましたよ。川も結構綺麗だったんですよね。今はあんまり川に入るイメージがないですよね。

岡崎　入っていた川の場所はどちらの方でしたか？高尾山口駅の方ですか？

真紀子　分校の前ですね。そこが川の溜まりになってましたね。高尾山口駅ができたのが小学校１年くらいなので、それまではあの辺はなんだったんだろうっていう感じですね。あんまり行かなかったような気がします。

岡崎　田んぼとかあったんですよね、おそらく。

中村　栄えていたのは駅側じゃなかったんですね。

真紀子　そうですね。

地域の歴史

川原　お住いは、昔からここだったんですよね。

真紀子　そうです。もう５代目になりますね。

清士　だから100年以上になりますね。

川原　元々こういうお蕎麦屋さんをやられていたんですか？

清士　いや、最初は蕎麦屋じゃないんですよね。半農半業です。農家の傍でわらじを作ったり、団子も出したり、そんな感じですね。

聞き手：川原、中村（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018年8月23日

聞いた話だと、周りもそういうところが多かったと思いますよ。
真紀子　武蔵陵とか多摩御陵とかから、昭和の初め頃にお客さんが来だしたんです。天皇陛下のなくなった時すごかったですよね。全国からお参りにきて、その帰りについでというか、高尾山もお参りして、お客さんがちょっと増えたらしいんですよね。それで多分この辺にお店ができ始めたそうです。
清士　あとは宿泊施設ですよね。
真紀子　そういうのを始めたんじゃないのかなって思いますね。
川原　ここに来る方のニーズに合わせて少しずつ店を始めたんですね。
真紀子　多分そうだと思います。
清士　だから多摩御陵が来なかったら、もしかしたらまだ農業やっていたかもしれないってことですよね。京王線が来なかったらきっと農業やってましたね。
川原　畑はもうお持ちになられていないんですか？
清士　今はもうないですね。京王線の駅がその土地だったみたいなんですよね。

高尾のとろろそば

岡崎　今の高尾山のイメージは蕎麦で定着していますけど、昔から蕎麦が有名だったんですか？
清士　そういう訳ではないでしょうね。
岡崎　京王線ができてからですか？
清士　いろんなコマーシャリズムが入ってきて、メインはお寺さんですよね。そことの関連性で、必然的にとろろになったんじゃないんですかね。そんなことで、とろろ蕎麦が定着したんじゃないかなという話は聞いていますね。山登りしてきて、とろろで精をつけるっていう説がありますが、実際栄養的にはそんな精つくものじゃないんですよ。ただ、あの粘りがあるのでやはり精がつくイメージがあるようです。
川原　確かに登山口のまちでとろろそばというのは結構聞きますよね。
清士　そうですよね。それと食べやすいですよね。
真紀子　あとは昔は、多少は自然薯とか、そういうのが取れたんだと思いますね。

髙橋家さんについて

川原　今は何人くらい従業員さんはいるんですか？
清士　従業員は8人ですね。パート、アルバイトの方が、5～6名です。
岡崎　やはり時間関係なしにお客さんは入ってこられるんですか？
清士　そうですね。だいたい11時半くらいから、15時半くらいまでですね。遅めのお昼食べる人もいれば、時間的な都合で遅めに上に行っちゃうと帰る時が15時くらいになりますので。
川原　下山した後来店なんですね？
清士　そうですね。登る前の人もいるけれど、それは3分の1か4分の1くらいですかね。やっぱり下山した方が多いと思いますね。
川原　山に登らない人が来るというパターンもありますか？
清士　ありますね。立地条件はいいんですが、隣に不動院っていう高尾山の別院があるのでその続きに見られてしまって、入りにくいという人もいるみたいですね。
川原　格が高い雰囲気ですね。多少閑散期もあると思うんですけど、一年中開けてらっしゃいますよね。
清士　不定休にしています。一時期、今年の頭くらいまで木曜定休っていうのでやっていたんですね。
中村　開店時間は何時まで

屋根を突き抜ける柿の木。樹齢 150 年以上といわれている

ですか？

清士　10 時から、17 時半ラストオーダーで 18 時閉店ですね。ケーブルカーの運行が 17 時半くらいまでですから。

真紀子　季節によって違いますけど、通常であればだいたい 17 時半くらいなんです、冬場はもっと早いんですよ。暗いですからね。

清士　まあ徒歩で降りて来る方もいますけど、本当に少ないんですね。そうすると夜一生懸命頑張ってもお客さん入ってこないんです。うちも 2 階に座敷があるんですけど、つい近年まで、懐石料理もやっていたんです。法事のお客さんとか薬王院さんの行事であるとか、宴会というのを受けていたんです。ただ、時代の流れでいろんな意味で続けていくのが難しくなって、今はお昼の営業だけにしていますね。

川原　最近までやられていたんですか？

清士　二年くらい前ですかね。

川原　百年単位で皆さんからお伺いしてると、結構その時期その時期に合わせて商売がちょっとずつ変わっているのがわかりました。

清士　少しずつだと思うんですけど、基本的にはとろろそばは変わらないですね。

観光客の変化

川原　法事とか、講社の方とかだいぶ減って、客層も変わりましたか？

清士　薬王院自体がやっぱり参拝客が減ってきているのがありますよね。もちろん講社もそうなんですけど。要は、後継者がいないからやめちゃうんですよね。

川原　講社の、ということですか？

真紀子　そうですね。講社の代表者みたいな方がいらっしゃるんですけど、そのあとやる人がいないんですよね。その人がいて参加者を集めてきているわけだから。うちも結構きていたけど、今はほとんどないですね。

清士　要は世代が変わっていますからね。例えば若い人が継いでくれて、自分の友達を集めてくれればいいんですけど、上の代の友達を束ねるというのは大変になってきますよね。だからそういうのがうまくいかなくなって、少なくなってきているんでしょうね。

真紀子　便利になってきたのもありますよね。昔は皆さんバスで集まって来るけど、いまはそれぞれお好きな時に来られますから。高尾山インターもできましたしね。

川原　今は個人客ですよね。

真紀子　自分の行きたい時に行けるっていう風になったんじゃないんですかね。昔はその辺がなかなか難しかったから、みんなで誘い合わせて集まったから行くというのがあったと思うんですよね。

川原　変化の中で、やり方とか変えている部分もあるんですか？

清士　変化ではないんですが、休みをなくして通年型営業していくっていうのがうちの場合の特徴かもしれないですね。

改装時のこだわり

川原　建物自体はもう流石に五代目ということで、補強したりとかは？

清士　増築したり改装したりですね。

川原　玄関先の屋根を突き抜けている木は？

清士　先代の時ですね。玄関の外に柿の木があって客席を出していんたんですね。

川原　もともとそこは外だったんですね。

清士　そう、外の土間だったんです。ただ雨が降りますからね、だから屋根をかけたんです。それが始まりですね。おそらく樹齢は、プロの目から見て150年以上経ってるらしいんです。実もちゃんとなりますしね。ただ渋柿なんです。あとは鳥がきてね、カラスだとかメジロだとか、いろんな鳥が食べちゃうんです。

川原　この建物は広場の正面ですごくいい雰囲気を作られていると思います。

清士　最終的な改装は25年くらい前ですね。最初は内装だけ少しやろうと思ったんですけど、解体していったら柱の根が腐っちゃってることがわかったんですね。ヒノキだからいい材料だと食われちゃうんですね。昔は防腐剤がなかったから、シロアリにやられたんです。それでただの改装じゃ済まないよってなりましたね。

川原　ということは、結構思い切っての改装だったんですね。

清士　梁にサポートを入れて、コツコツと取り替えて、防腐をしました。だから、期間もかかったし、お金もかかったんです。

川原　そうだったんですね。

清士　工事的にはかなり大掛かりでしたが見た目は改修という形ですね。柱を変えると付随的に梁も変えなきゃいけなくなってくる部分も出てくるんですね。

川原　改装時に大切にされたのは？

清士　外観ですね。外壁は一部も壊していないんです。あくまでも中だけの改修にしました。

川原　外のからの見え方を非常に大切にされているんですね。全て、昔のまま残っているということですか？

清士　そうですね。改装する時に柱にその時の大工さんが印をつけるんですけど、確か昭和15年と柱に書いて名前も書いていましたね。

川原　そういうのは残っているんですね。

清士　大黒柱も残っています。

川原　こだわりがいっぱいあるんですね。

清士　改装するときの棟梁さんがすごくいい人でしたね。八王子に職人さんが少なかったんですよ。それで知ってるところから大工さん仲間を5人くらい呼んで来てくれたんです。

川原　腕がないと先ほどのような仕事は出来ないですもんね。

清士　4、5人で常にやっていた感じです。

川原　そういう魅力もあるんですね。そういう目で見ても、この地域は面白いのが結構あるなと思っているんです。農家の建物も残っているのもありますよね。

清士　面白いですよね。道路から見ていて雰囲気が出てますよね。

駐車場の課題

川原　ところで、課題に感じていることはありますか？

真紀子　私が一つ感じるのは参道商店街の通りに車がバンバン入って来るところですよね。解決するには難しい問題がいっぱいあると思うんですよ。お住まいの方の駐車場というのもありますしね。

清士　病院もありますしね。

真紀子　事故も何件かあります。土日も怖いくらいなんですよ。皆さん規制がないからどんどん入ってきて。

岡崎　間違って入って来る人もいるんですよね？

真紀子　いますね。駐車場があるのかなって思われるんでしょうね。入ってきて無いので、必ずうちの前でUターンするんですよね。大変なんです、人でごった返しているところをUターンするので。

清士　うちの店はそれで今までに2回車が飛び込んだんですよ。そこでUターンして、若干うちの前に坂があるんですね。それで、それこそバックと前進と間違えて切り返して踏んじゃったんでしょうね

川原　それは大変でしたね。観光客が怪我したりとかもあるんですか？

真紀子　たまたま怪我は無くて、うちの建物だけだったのでよかったんですけど。

川原　この地域は特に駐車場がどこにあるかわかりにくいですね。それが結構不安なんですよね。

真紀子　表示とかがあるといいですよね。普通あるじゃないですか。ここにパーキングがあって、とか。

川原　駐車場の呼び込みも、

もっとおもてなしの感じが出るといいですよね。
真紀子　根本的に駐車場が少ないってことなんでしょうね。結局大きい市営の駐車場と祈祷殿さんの駐車場が11月は朝の9時でいっぱいになってますからね。
岡崎　観光バスも来ますしね。
真紀子　止めるところがなくて、もしかしてここに駐車場あるのかなって思って入って来てしまうんですよね。
川原　事故があってからじゃ遅いなって思っているんです。主に地元車両以外を規制すると言うのはありますよね。
真紀子　そうですね。業者さんにもびっくりされます。いつ行ってもいいんですね、って。普通観光地は朝の何時までとかありますからね。だから逆に業者さんは喜んでますよね（笑）
川原　そこはなんとかしたいですよね。

高尾の伝えたい魅力

川原　こういうところ見て回ったらいいっていうおすすめはありますか？
清士　登山ルートですね。もう少しわかりやすい安全な登山ルートがあるといいんですよね。
川原　今はあんまり安全じゃないということですか？
清士　そんなことはないんですけど、初心者でも大丈夫なようなルートがあるといいですよね。
川原　もう少しハイキングのようにということですね？比較的高尾山はそういう雰囲気できてますよね。
清士　そういう登山ルートを分散して引けば、集中してなくて分散していけばいいかなって思います。
川原　この間歩いて意外とよかったなと思ったのは、橋本屋さんの裏からグッと登ってずっと尾根を行った道でしたね。すごく空いていましたね。
清士　そんなところもルートのうちにあれば魅力的なのかな、と思いますね。何を見せたいって言われてもやっぱり山しかないんですよね。
川原　この季節はおすすめみたいなのはありますか？
真紀子　昔の話ですけど、川が綺麗なときは蛍とか結構いたんですよね。川を綺麗にすればまた蛍がね。
清士　1号路の方はずっと川があるから。
真紀子　ここの川にいたんですよ。
清士　今うちの裏は護岸されてるけど、前は大して護岸していなくて、サワガニや蛍が結構いましたよね。

人生のターニングポイント

中村　話は変わりますが、人生のターニングポイントはいつですか？
清士　僕の場合はやっぱりさっき言った改装ですね。
川原　ちなみにご結婚されて来られたということですけど、その前から高尾山にゆかりはあったんですか？
清士　いや、大してなかったですね。
真紀子　私もそうなんですよ。実は姉が店をやっていたんですね。ところが姉がお嫁に行くことになったんです。
清士　その頃僕らは学生から付き合っていたんですけど、都内で仕事していたんですね。
真紀子　違う仕事をしていたんですよ。
清士　それで、こちら（奥様）が帰らなくいけなくなっちゃったんです。
真紀子　それが私のターニングポイントですね。それがなければ戻ってきてないですからね。
川原　お住まいもこの辺りではなくて、違うところに

住まわれていたんですか？
真紀子　そうですね都内の方に住んでいました。うちは姉が学校出てからずっとやっておりますから、実家っていうイメージですよね。たまに帰ってきて姉がやってるという感じでしたね。
中村　もともと継ぐとかも考えていなかったんですね。
真紀子　全然思ってませんでしたね。姉がいましたからね。
川原　じゃあ突然だったんですね。
清士　そうですね。それでね、結婚して次の年くらいから改装を始めたんですけど、期間もお金もいっぱいかかるんですよね。何度か夜逃げしようと思いましたね。未遂に終わりましたけど（笑）だから当初は、一生懸命働くことしかなかったですね。定休日を無しにしているうちに、行楽地って暦がないので常に空いているのが一つの魅力なんだろうな、と思いましたね。そういう意味でお客さんにも認知されていきましたね。
中村　ここならいつ行ってもお店が開いている安心感ですね。
清士　そうですね、いつ来ても大丈夫なようにしていますね。

地域に期待すること

中村　今後この地域がどういう風になってほしいと思いますか？
清士　やはり、薬王院が何といってもメインですから、仏教ブームでも来て、どんどん若い人に参拝してもらいたいですね。日本仏教を継承していかなきゃいけないですよね。日本の仏教のいいところはその気になった時から一生懸命やればいいっていうところだと思うんです。例えば盆に正月、希薄なようだけど忘れていないんです。それプラス、もう少しの普段からの信心ですかね。
川原　薬王院さんのことを大事にされているんですね。
清士　よくお坊さんなんかと飲んだり、上に泊まって合宿したりするんです。
川原　そういうのは、若い他の一般の人もやれたらいいなって思う人はいると思うんですよね。
清士　もっと身近に仏教をというところですよね。
川原　そう！身近じゃないのでなかなかできないんですよね。
清士　やっぱり同じ仏教でも、当然ですけど、インドとかあっちの方の仏教徒は違う。さっき言った意味でも、日本仏教っていう形がもっと認識してもらえればいいのかなって思いますね。

これからの展望

中村　ご自身の展望についてはいかがですか？
清士　食べ物に関して、ところそばっていうイメージが来ていると思うんですけど、もっと時代にあった何かを発信できればなと思いますね。
川原　あんまりところそばにこだわっていることはないんですね。
清士　それはもう定番でいいんですけど、新たに何かを、と思いますね。高尾と言ったらところそばと有喜堂の饅頭と、もう一つ何かしら、ですね。
川原　それは料理とかお土産としてもうちょっと別のものがあってもいいんじゃないかなということですかね。
清士　僕らが考えるところはそこですからね。全体論的なところももちろんなんですけど、そうなった時に、お客さんに対して自分のところの商売ってどうなっているのかって考えちゃいますね。
川原　奥様はいかがですか？
真紀子　そうですね。私はレジをよくやっているんですけど、高尾山の名物って何って聞かれるんですよ。高尾に行ったらこれだよって言えるといいですよね。
川原　高尾の持っている資源とお話がつながったようなものができるといいですね。
清士　そう思います。

高城 正守さん
高尾山十一丁目茶屋 四代目

高城 健守さん
高尾山十一丁目茶屋 五代目

～山の上に住む。そこから見える高尾の隠れた絶景とは

十一丁目茶屋の歴史

正守　高尾山のお参りに来る信者さんに小屋を建てて、お茶の飲み場を作ってやったっていうのがこの原点なんです。

健守　それが明治 32 年ですね。

正守　だから商売は二の次なんですよね。そして、初代のおじいちゃんはお寺に勤めていたんです。

川原　じゃあ商売というよりは講社でこられた方におもてなしをする形だったんですね。

健守　そんな感じですよね。

正守　道が三本あって裏高尾から上がる蛇滝の道。それからこちらの琵琶滝道、それから今の 1 号路が昔の本道でしてね。お寺に行く前に、今のここの店あたりで、みんなで集まってからお参り行ったっていうのは聞いてますね。

健守　合流地点といいますかね。

正守　昔は登山者なんていない時代ですからね。

川原　では、おもてなしとしてお茶とかを出されたところから始まり、まずは小屋を建てたんですね。今のこういう建物になったのはいつくらいからですか？

正守　この建物は昭和 55 年に新しく建て替えましたね。

健守　結構老朽化してましたからね。前は平屋で 2 階建てじゃなかったんです。

川原　ちなみにお家はここですか？

健守　2 階に住んでますね。

川原　ちなみにお 2 人は何代目になるんですか？

正守　私は 4 代目ですね。

健守　5 代目です。

聞き手：川原、中村（首都大学東京 観光まちづくり研究室）、岡崎（八王子市都市計画課）
調査日：2018 年 8 月 23 日

山の番地が記された石碑

岡崎　なぜ十一丁目茶屋なんですか？

健守　山の番地なんです。薬王院が起点となっていて、下までずっと何丁目っていう山の丁目があるんですよね。麓のところが三十六丁。ちょうど店の前を出たところに石碑が２つあって、右側の石碑がちょうど十一丁目に当たるんですよ。その前にあるから十一丁目茶屋ですね。

岡崎　そうなんですね。

健守　ちょうどあのリフトのちょっと降りたところに、坂があるじゃないですか。あそこが十六丁目に当たるんですよ。よく掃除するときなんかも「十六丁目の坂のあたり」でみんな合流しようって話しますね。

観光客、お店の変化

中村　お店を建て替えた頃は、講社の方が多かったですか？

健守　そうですね。その時は１月なんかも 15 年くらい前までは、埼玉とか群馬とかから講社で薬王院さんの方に来ている方が多かったんですけどね。

正守　そのころは、臨時列車でしたね。

健守　高尾駅まで来てね、みんな山へ上がって来てたんですけど、最近は代替わりですかね。若い人がそういう信仰心がなかったり、個々にお参り来る方が増えちゃって、なかなか講社っていう団体がなくなってきてますよね。

正守　国鉄の時代はそういう臨時列車は駅員が一生懸命人を募集してましたから、JR になってから民営化になってからはダメですね。

健守　あとは、田舎の方もやっぱり商店とか個人事業主の跡継ぎがいなくて、そういう人が集まりづらくなってるっていいますよ。参加を募る人が集めてくれていたりしていたのがなくなりました。

川原　商業、商売をやられている方が多かったんですか？

健守　そうですね。そういう人は幼馴染で話したりね、高尾山でお参りの講社があるから行ってみようとか。逆にそういう方が減ってきて、先ほどのミシュランの三つ星になってからは、外人の方が増えてきました。

川原　受入態勢としても大変でしたか？

健守　最初は言葉が大変でしたね。でもジェスチャーだったり、値段は電卓で弾いて見せたりしましたね。

岡崎　外国の方って何を召し上がる方が多いですか？

健守　とろろそばは有名で、向こうの人は結構チャレンジャーなので、結構癖がありますよって言っても食べたりしますよね。お土産もちゃんと高尾山って漢字で書いてあるものを好んでますよね。

川原　お土産のラインナップとかも変わりましたか？

健守　そうですね。T シャツやタオル、ピンバッジを作ったりしました。外人の方も日持ちがないと持っていけないですからね。こっちが外国行った場合も、日付見て買ってくるのと同じですよ。

川原　とろろそばは外国の方が食べて、どういう反応ですか？

正守　ほとんど今は残さないですよ。

健守　もう、そういう覚悟で食べているんでしょうね。こういうものだと思って。団子なんかもこういうものだって、途中でやめちゃう人もいますけど。

川原　それは嬉しいですね。外国といっても多いのはやはりアジアの方ですか？

健守　最初の頃は中国の方が多かったんですけど、最近はタイ、東南アジア、台湾、インドの方も結構来てますよ。

正守　色々高尾山を調べてきてますよね。

健守　時間がないから効率よく回りたいので、富士山回って高尾山回って、もう頭の中で決めてますよ。

正守　あまり聞かないですよね、細かいことをね。だからそういう面では楽です。

山の上の昔遊び

川原　お山の上の方ではど

十一丁目茶屋から撮影した雲海（高城さん私物）

ういう遊びをされていましたか？

健守　お山の途中で、サワガニとりに行ったりしますね。

正守　私の時代はお寺に、修行として若い高校生、中学生が住み込みできていたんですよ。それで一緒に学校に通ったことがあるんです、千葉とか埼玉から来てましたね。帰りは山の中に入って遊んだりしましたね。

川原　そういうのはいつくらいまででしたか？

正守　中学まではお寺の学生と山へ入りましたね。高校行くと勉強が主になっちゃうので。

川原　今は中学生くらいのお坊さんが来るっていうのはありませんか？

正守　今山の上に住んでいるのは子供は誰もいないですね。もう住んでいるのがここのうちだけなんですよ。

健守　私が小さい時はあのビアガーデンのところに楽焼きのおばさんがいたんです。観光客相手に、お皿にデザインを描いて、それを釜に入れて焼いてくれる所があったんですよ。

岡崎　いつくらいまであったんですか？

健守　30年くらい前ですかね。ヒビがあるやつとか、商品にならないものをおばさんに「ちょっとちょうだい」て言ったりして、自分が小さい時に遊ばせてくれたりしましたね。あとは下の氷川神社さんの高尾山口のお祭りに行ってました。

川原　絵付けをさせてくれたんですか？

健守　そうですね、絵付けをしてそれを焼いてくださるんですよね。

川原　小学生くらいですか？

健守　そうですね。そういうのも観光客の方に結構人気だったんですよね。

山の上からの景色

中村　頂上に住んでいるからわかる魅力はありますか？

健守　景色はいいですよ。晴れていれば、横浜のランドマークタワーと江ノ島まで見えます。一番見えるときは房総半島の鋸山まで見えますよ。冬の空気の澄んでいる時で、きっと100kmくらいでしょうね。初日の出は上からじゃないと見えないですし毎年ご来光は綺麗でいいですよ。

正守　冬の空気が冷たくなって、雨上がりの日は雲海の中に日の出が出るんです。

川原　それは中々お目にすることはできないですね。

健守　上にいると、雲の流れで天気がこれから良くなる悪くなるっていうのが、だいたいわかりますよね。ずっと見てますからね、雲の流れを。そういうのも上に住んでないとわからないですよね。天気がある程度予測できるっていうのが利点でしょうね。下とは違いますからね。

岡崎　天気予報で八王子が晴れだとしても高尾だと変わりますよね。

健守　あとは下と上の温度が違いますから。冬なんかは逆に暖かい空気が上に上がって来るので、ここら辺の方が高尾山の麓よりも暖かいんですよね。清滝駅が一番寒いんですよ。山に囲まれてて日が当たらないんですよね。上がって来ると日当たりがいいので、その分暖かいんです。全然違いますよ、体感は。

冬の高尾山

川原　高尾といったら秋の紅葉っていうのが定番にありますけど、お客さんにそれ以外の魅力を伝えて行き

たいですよね。
健守　雪の降った次の日の雪の景色を、写真を撮りに来られる年配の方が多いですよ。その雪の景色が素晴らしいです。
川原　雪降った直後ですね。これは知る人ぞ知る魅力ですね。ケーブルカーは動いているんですか？
健守　朝も一応動いていますよ。
川原　写真愛好家はこの店のあたりから撮るんですか？
健守　そうですね。あとは頂上の方から撮ったりしますね。
正守　この先の浄心門の神変堂から撮る人が結構多いんですよ。お堂が左手にあってね。それから大杉原ですね。大きな杉の木をフレームに入れて撮ってますね。お寺の中の、御本社の下にある雪のかぶった三十六童人を撮る人もいますね。
健守　年に何回も降りませんから、レアな写真撮れるんですよね。紅葉は二週間くらいありますからね。
川原　そういうレアな写真を狙ってる人は結構いるんですね？
正守　いますね。もう何百人とか来ますよ。夜雪が降って、朝ぱっと晴れた時は多いですね。
健守　歩くより写真を撮ることの方が目的でしょうね。
川原　じゃあ確実にお店開けないといけないですね。
健守　だけどその時は雪かきでいっぱいいっぱいですね。物資が届かなくなってしまうので。
正守　店の前の道をずっと掃くんですよ。
健守　どんどん踏み固められちゃいますからね。
川原　それは大変ですね。協力してやるんですよね？
健守　そうですね、お店の人と薬王院の方とあとケーブルの方と。とりあえず道を開けないと何にもできないですからね。固まってからの方が厄介ですよね。
川原　そうですよね。
健守　すごい人は上から滑りたいがためにスキー板持ってきます。
岡崎　1号路を滑るんですか？
健守　そうです。気合いの入ってる人は。
正守　もう今は頂上の方はみんな階段になっちゃってますから。
健守　こっちとしてはそういう人が来たらすぐに雪を掃きますね。固められちゃうと大変なのでね。
川原　それは初めて聞きましたね。
健守　雪だけではなく、台風の後高尾に登って来ても、普通に道が綺麗にあいていると思うんですよね。それは誰かしらがやらないと綺麗にならないんですね。だから上の人が、陰で誰かしらがやってるってことなんですよね。そういうのはわからないじゃないですか。綺麗になってるのが当たり前に思って来られていると思うんですけど、頑張ってます。豪雨だと砂利が流れて道路の上に溜まっていったりするのをよけたりしてるんですよね。

クリーンな高尾山

川原　高尾山はゴミが落ちてないということが有名だと思うんですけど、上の方は人が少ないから大変ですよね。
健守　20年くらい前までは、販売機の横に缶を置いたら1個、2個とゴミが山となってましたね。今はみなさんゴミを置くというのがなくなりましたよね。
正守　パノラマ会でクリーンマンデーっていうゴミ持ち帰り運動をしていたんですね。昔は頂上のところで集積所を設けて、2トン車で運んだんですよ。
中村　パノラマ会は今もあるんですか？
正守　今はもうないですね。昔は頂上にレストハウスがあったんですよ。山の茶店がみんなで集まって、管理と運営をしていたんです。でも今は壊しちゃったんですよね。
中村　その頃にはもっとお店もあったんですよね。
正守　この途中の金比羅台というところにもあったんですよ。
健守　たこ杉のところにもありましたね。
川原　今は外国の人もゴミをおいていかないですか？
健守　そうですね、だいたい持っていかれます。周りが綺麗になっていると、人間って捨てられないじゃないですか。それがもうある程度定着していると思いま

す。お店側も、ゴミが出るようなお団子のお皿とかは、食べ終わったらお持ちくださいってお客さんに言ってます。そうすると持って来てくれますよ。

正守　ゴミ箱ありませんからっていうと、百パーセント持って来てくれます。

健守　ひと声かけるのもお客さんは置かない理由でしょう。だいぶマナーが良くなって来ましたよ、昔に比べて。

正守　土曜日は、頂上へ寝泊まりする若い衆がいるんですよ。星を観察したり、ムササビを見たりするグループも、ゴミを全部持って降りて行きますね。

健守　あとは健康登山をやられている年配の方が、ボランティアでゴミ袋を持って山道を歩きながらゴミを拾って行かれるんですよね。それも日頃意識して見ていないとわからないことですよね。

薬王院と高尾登山鉄道との関わり

川原　薬王院さんとはどのような関わりがありますか？

健守　私が20代のときは野球チームを作ってました。ケーブルさんのチームと薬王院さんのチームがあって、唯一部外者なんですけど、ケーブルさんのチームに入れてもらったんです。ビアガーデンの時も人を集めたりしましたね。陵南グラウンドでよくやっていたんですよ。

川原　やはり薬王院さんといろんな形で繋がりがあるんですね。昔からですか？

正守　そうですね。昔は薬王院さんの院内旅行っていうのがありましたね。

正守　2班に分かれて、そこに山の茶店も一緒に行ったんですよ。お花見も一時期にはやりましたね。御前さま自ら出て来て一緒にやったことがあるんです。一丁平の方まで行ってやったこともあります。

岡崎　以前、京王さんが出してる本で拝見したんですけど、正守さんは高尾登山電鉄にお勤めされていたんですね。

正守　昭和36年から47年まで11年間いたんですよ。

岡崎　そのあとこちらの方に？

正守　この店のあとを継ぐ人がいなくて、親父さんも弱かったので、少し早めに継いでしまったんですよ。高尾山口駅ができた時は、ハイヒールで登れる山、高尾山っていうのが一つの宣伝文句になっちゃったんですよ。

川原　なぜそういう謳い文句にしちゃったんですか？

正守　昔はね、今みたいにリュックなんて背負って来る人はいなかったんですよ。男の人は背広と革靴。女の人はスカートにハイヒール。それがだんだんリュックの時代になりましたね。

川原　いまの方がはるかに本格的な山登りの格好ですよね。

正守　スパッツなんて履いてる人いなかったからね。昭和43年の時はね。

健守　結構年配の人で、ラフな格好してる人ほどバンバン登って来て対照的なんですよね。いまの人はかなり見た目から入りますからね。

ドラマ「ハコイリムスメ！」の効果

中村　ターニングポイントとなる出来事はなんでしたか？

健守　平成15年にうちの店が、飯島直子さんと深田恭子さんが主演の「ハコイリムスメ！」というドラマのロケ地になったんです。お店の名前をそのままだしていたので、全国からお客様が見えました。マスコミの影響力はすごかったです。

正守　10回の連続ドラマで、ちょっと長かったんです。

健守　放映1回目が10月だったんです。放映されてから見にくる人が多くなっていきましたよ。

正守　すごいですよ、北陸の方から来られたりね。ロケを見に来たらしいんです。でもロケがやってないと、がっかりして帰ってましたね。

健守　それでドラマの名前を借りて饅頭を作って、それがものすごい売れました。とにかく十一丁目茶屋っていう屋号が入ってる商品が欲しいっていうお客さんが多くて、高尾山だけじゃなくて屋号が入っているのが欲しいって感じでしたね。

正守　小さいビールグラス

があるんですけどあれもうちの屋号が入ってるんです。ああいうのが欲しいって言われましたね。

健守　これがお店としては大きなターニングポイントです。

正守　このドラマでは高尾全体が潤ったんじゃないんですかね。特にケーブルカーが。運ばないといけないので。

健守　その年の６月にちょうどケーブルカーの中間地点で土砂崩れが起きて、営業できなかったんですよ。だから観光客が落ち込んでて、その年は収入面であまり良くなかったんです。その時にロケ地のお話をいただいて、うちでやるようになってから、ものすごいお客さんが来られて、ケーブルさんやうちも高尾全体が潤ったんですよね。だからもし、あのドラマがなかったら、高尾が有名になるってことがなかったんじゃないかなと思いますね。やっぱり波に乗るとき乗らないといけないですね。

正守　私は土砂崩れの中間のところに土砂を取りに行きましたね。ケーブルが動いてこその我々の商売ですからね。

これからの展望

中村　これからの高尾山について、どういう風になって欲しいですか？

健守　オリンピックの時に、こういう綺麗な場所を見てもらいたいっていうのがありますね。それにはさっきの駐車場の面とか、多国語で案内するとかそういうことが必要になって来ますよね。

川原　お店としての展望はありますか？

健守　やはり、うちだけにしかないもの、そこでしか売ってないものにこだわりたいんです。付加価値つけて、個性的に変えてかないといけないですよね。最初は、オリジナル商品の開発・販売はすごい不安だったんです。でもやってみて売れた時の嬉しさもありましたしね。第１弾売れたから第２弾やってみようかとか。やるまでは、腰は重いけど、やってみて売れるとなると、軌道に乗れるとどんどんアイデアが出て来ます。

川原　結構チャレンジャーなんですね

健守　自分が他の観光地に行ったときに、同じもの売ってるのを買おうと思わないですから。この人面白いもの作ってるなっていうものに興味を示しますからね。

川原　結構いろんな観光地を見たりするんですか？

健守　行くと勉強になりますよね。何が流行ってるかとかね。ただ、意外と自分が売れないだろうって思っているものもちょっと置いてみるとそれが売れたりしますよね。何年やってても ギャップがあったり、わからないときはありますよ。

川原　日本人と外国人とも違うのかもしれないですしね。

正守　一番売れるのは、ムサビですよね。屋号を入れているんです。

販売しているオリジナルのお土産

健守　あとはビアガーデンの方に汗かいて登ってきて、Ｔシャツ持ってきてなかったので、タオルで体拭いてこれ着て入るっていう方もいらっしゃいますね。そういうのは思いつかなかったですよね。あとは大学生でまとめて十人くらいで同じものを買うとかね。そういう買い方もありますしね。

中村　ここでしか買えないっていうのが嬉しいですよね。

健守　あとは、自分で発信しなくても、買っていったお客さんがここでしか買えないよって発信してくれるんです。だからそれがまたいいんでしょうね。お客さんがお客さんを呼んでくれるんです。

川原　発信したくなる満足感のある商品だからだと思います。これからもぜひユニークなものを作ってください。ありがとうございました。

写真で振り返る
高尾山観光まちづくり史調査

高尾山の観光まちづくり史の概要や皆様の
想いを説明するものとして作りました。

写真で振り返る高尾山観光まちづくり史

昔の思い出
地域の様子

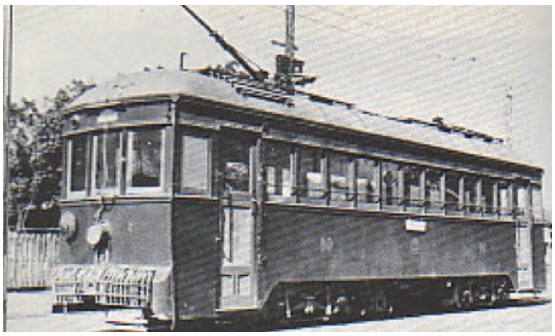
お山と参道 01

地元の参道商店街や周辺の住民の皆さんは、親しみと崇拝の気持ちを込めて、高尾山のことを「お山」と呼んでいます。登山される方にも参道の入口から入ってほしいという気持ちがあります。

三世代川遊び 02

ゲーム等のない時代、駅前を流れる案内川は子どもたちの川遊びの場でした。川の安全性に配慮しつつ、水辺に親しめる場として案内川をもっと良くしたいという気持ちは地域の共通の思いのようです。

昔の乗り物 05



昔は、路面電車が有喜堂の前まで通っていました。この駅の両側に綺麗な桜並木があったそうです。また、現在のビアマウントのところには以前観覧車がありました。この観覧車は麓からも観ることができたそうです。

旧浅川町と氷川神社 06

昔は、高尾山周辺から多摩御陵の手前まで浅川町として一つの町であり、氷川神社は町の氏神様でした。いまは町ごとに祭りを行っていますが、総代の皆さんはスタンプラリーなど様々なアイデアで、連携を再度深める努力をしています。

ミシュラン３つ獲得 09

ミシュラン３つ星に認定された後、外国人観光客が急増しました。「登山客が増えすぎて住民に迷惑がかからないといいな」というお店の思いも。地元の皆さんは、観光振興と生活環境の保全のバランスを考えはじめています。

京王電鉄 10

高尾山口駅の開業以来、沿線のもっとも大事な資源のひとつとして高尾山を位置づけてきました。駅舎改良、高尾温泉、駅前マルシェや冬そばキャンペーンなど、近年存在感を増しています。

河川改修をきかっけに住民の新たなレクリエーションの場としての水辺空間を生み出しつつ、「お山：薬王院」のふもとまちとして気品あふれるまちになっていくためにまちの景観やサイン、おもてなしのあり方も合わせて考えていけるといいなと思いました。

お店の歴史 03

高尾山口駅ができたり、圏央道ができたりというように、まちをとりまく環境変化に応じて、業態を変えてきたお店もあります。馬車屋から料亭へ、旅館から料亭へ、ガソリンスタンドからトリックアート美術館へ。

ケーブルカー 04

高尾登山電鉄により昭和 2 年に営業が開始されました。高尾登山電鉄の皆さんは「社員一人一人が高尾山コンシェルジュ」といった心意気で高尾山の魅力を伝える努力をされています。

農家の家々も健在 07

少し川沿いを歩くと、未だ周りには農地が見えます。蚕を買っていた家、桑畑の面影を発見できます。農業を営む皆さんは、竹とんぼ、竹ふえ、モリなど、代々、自然の素材を使ったものづくりが得意です。

クリーンな高尾山！ 08

高尾山の「ゴミ持ち帰り運動」は全国的にも有名で、クリーンな高尾は、ミシュラン 3 つ星認定の要因の一つとも言われています。現在も、町会、商店会や高尾登山電鉄など、高尾に関わる皆さんによる清掃活動が行われています。

TAKAO599MUSEUM 11

地元は、大きな集客の拠点になることを期待して議論してきました。実現できたこと、できなかったことなど、まちのひとの思いは複雑です。公共施設の役割、民間事業者の役割、あらためて考える必要がありそうです。

高尾山の魅力資源 12

登山、信仰の山、魅力的な花、動物、祭りなど高尾山の魅力資源は一年を通していろいろあります。冬の雪の積もった美しい高尾山の景色など、閑散期の高尾山の魅力資源をもっと伝えていたいと感じました。

参考文献

【観光まちづくり調査の趣旨・オーラルヒストリーの意義】

１）後藤春彦・佐久間康富・田口太郎「まちづくりオーラル・ヒストリー」水曜社、2005.03
２）御厨貴「オーラル・ヒストリー」中公新書、2002.04
３）柳田国男「柳田國男全集第 12 巻」筑摩書房、1998.02
４）上井萌衣･後藤春彦･吉江俊「東京下町で共有される地域の記憶とその伝承がなされる集団に関する研究」都市計画論文集 第 51 巻 第 3 号、2016.10
５）内閣府「平成 29 年度高齢社会白書」2017.06
６）結城登美雄「地元学からの出発」農文協、2009.11

【高尾山フェノロジーカレンダー】

１）前田信二「ポケット版ネイチャーガイド高尾山の自然図鑑」メイツ出版、2015.09
２）スタジオパラム「まるごと！高尾山こだわりガイド」メイツ出版、2012.03
３）八王子市史編集専門部会民俗部会「八王子市西南部地域浅川の民俗」八王子市史編さん室、2015.02
３）TAKAO599MUSEUM　http://www.takao599museum.jp/（最終閲覧 2019.03.26）
４）気温と雨量の統計　https://weather.time-j.net/Stations/JP/hachioji（最終閲覧 2019.03.26）
５）薬王院 HP　http://takaosan.or.jp/calendar/（最終閲覧 2019.03.26）
６）浅川地区連合会ＨＰ　https://chojiren-hachioji.jp/publics/index/30/（最終閲覧 2019.03.26）
７）(仮称) 高尾の里拠点施設基本計画（その２）
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/006/p003199_d/fil/takaonosato_plan2.pdf（最終閲覧 2019.03.26）
８）八王子市 HP ー社会環境浄化・啓発活動
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/019/002/001/p001087.html（最終閲覧 2019.03.26）
９）八王子市 HP ー美しい八王子をつくる会
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/life/004/013/005/p000145.html（最終閲覧 2019.03.26）

【観光まちづくり史年表】

１）高尾五丁目町会創立 50 周年記念行事実行委員会「高尾五丁目町会創立 50 周年記念」高尾町五丁目町会、2010.09

【オーラルヒストリー・インタビュー記録】

１）名取紀之ら「京王の電車・バス １００年の歩み」株式会社ネコ・パブリッシング、2013.09

編集後記

オーラルヒストリー調査を通して、異なる立場の人が様々な思いを抱いていることを知りました。地域住民の一人ひとりが抱く高尾への思いも違っており、その意見を真摯に受け止め反映させていくことの難しさも実感しました。高尾という観光地において、行政と住民が一緒になって取り組むまちづくりに参加できたことを光栄に思います。今後とも地域に根ざした高尾の発展を楽しみにしています。

首都大学東京　川原研究室　博士前期課程　中村 優里

この調査で最も印象に残ったのは、高尾山に関わる方々が熱心に高尾山の過去、そして未来について語る姿です。普段、一観光客として訪れるだけでは知ることのできなかった高尾山の一面に気づくことができました。一見するだけでは分からない想いや、情報にこそ価値があるのだと痛感できたことは、自分を大きく成長させてくれたと思います。協力して頂いた方々に感謝申し上げます。

首都大学東京　川原研究室　博士前期課程　甲田 亮輔

今回のプロジェクトを通じて、地域の人に密着できたことが一番嬉しかったです。最初は私たちが昔の思い出などを聞いていましたが、だんだんと地域の人たちが自ら楽しそうに思い出や高尾への想いなどを聞くことができたのがとても印象に残っています。まさに地元の人と一緒に作り上げた報告書になったと思います。この貴重な経験は私にとって宝物です。協力して頂いた地元の方々、行政の皆様、本当にありがとうございました。

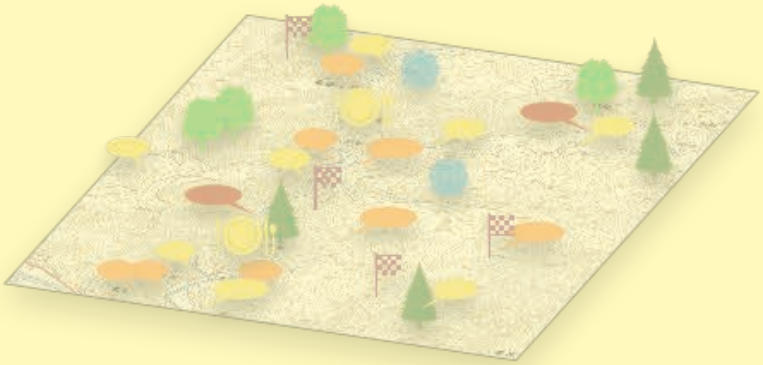
首都大学東京　川原研究室　博士前期課程　古谷 梨伽子

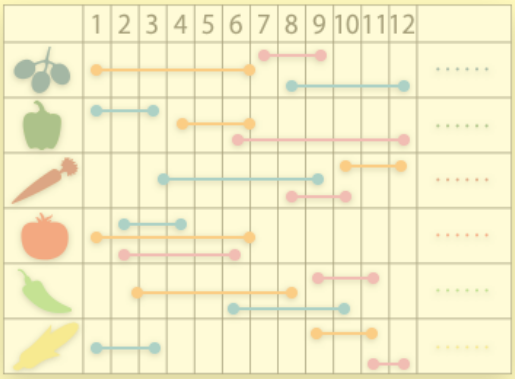
高尾山 観光まちづくりオーラルヒストリー

発行日　令和元年（2019 年）6 月

調査・編集　首都大学東京 観光科学科
川原晋研究室

委託・発行　八王子市




1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12